

# 演劇会議

VOL.106 2001年7月



観客としての「リアリズム」  
 一私見・こばやしひろし よしだはじめ  
 戯曲 小劇場話劇『去年の冬』  
 喩 栄軍/作 坂手日登美/訳  
 自治体の文化行政に関するアンケート調査の結果  
 第1回八雲国際演劇祭のごあんない

# TOKYO Regional Theater Festival 2002

TOKYO・リージョナル・シアター・フェスティバル・2002  
 第12回東京地域劇団演劇祭  
 東京芸術劇場・小ホール1、小ホール2、展示室1(B1)  
 2002年1月11日(金)～1月27日(日)

オペラミュージカル劇団ムジカフォンテ(豊島区)公演  
 調布市民演劇センター(調布市)公演  
 劇団始発駅(立川市)公演  
 市民劇場TAMA(多摩市)公演  
 コミュニケーション・ラボ21(小金井市)公演  
 板橋演劇センター(板橋区)公演  
 SARDNYK⇔S(世田谷区)公演  
 劇団星座(ホシザ)(世田谷区)公演  
 オープン・ワークショップ  
 語りと朗読のひろば  
 劇団石るつ(江東区)公演  
 劇団晩座(練馬区)公演、劇団胎動(葛飾区)公演、他  
 資料展示企画  
 シンポジウム企画



主催/第12回東京地域劇団演劇祭実行委員会、東京地域劇団連絡会  
 共催/東京都教育委員会

連絡先/東京地域劇団連絡会事務局 〒173-0021 東京都板橋区弥生町80-4 板橋演劇センター内  
 TEL 03-3958-7374 FAX 03-3958-7384

舞 台



◇演劇集団土くれ  
『時の物置』

永井 愛/作 石塚幹雄/演出  
10月19～21日



◇劇団はぐるま  
『鉄道員 ぼっぼや』

浅田次郎/原作 山本忠利/脚本  
こばやしひろし/演出  
3月3～20日



◇劇団やまなみ  
『あ・し・た』

河野通方/作 梅津幸三/演出  
3月24日

公 演



『ふたごのバッタ ロルとギー』

かわさき演劇まつり30周年記念  
京浜協同劇団・劇団川崎演劇塾・劇団イムザック  
川崎演劇協会と市民の合同公演。6月はじめ京  
浜協同劇団稽古場に基本舞台を組んでの稽古。

上演は2001年8月4日～5日 川崎・多摩市民館

脚本/いずみ凜 演出/団のぼる  
舞台美術/佐藤張二 照明/横田元一郎  
衣裳/吉沢あゆみ(人形劇団ひとみ座)

表紙のことば

城谷 護

「舞台美術からダメが出る。京浜は凄い！」—客演してくれた他の劇団の役者がこう書いた。  
わが劇団の舞台美術家・佐藤張二のことをさしているのだ。説明的な舞台装置でなく、その芝居の持つ、テーマの深さを追美する彼の装置は、だからいつも演出家や役者を挑発する。日本舞台美術家協会会員として他の劇団の仕事も手がけており、まさにあぶらののりきったときである。  
(京浜協同劇団)

舞 台

◇東京芸術座

『20世紀よ!』

4月1〜6日

平石耕一／作・演出



◇演劇集団和歌山

『紙屋悦子の青春』

3月16〜18日

松田正隆／作 笠井隆男／演出



◇テアトルハカタ

『楽屋』

4月21・22日

清水邦夫／作 野口ひろとし／演出



公 演

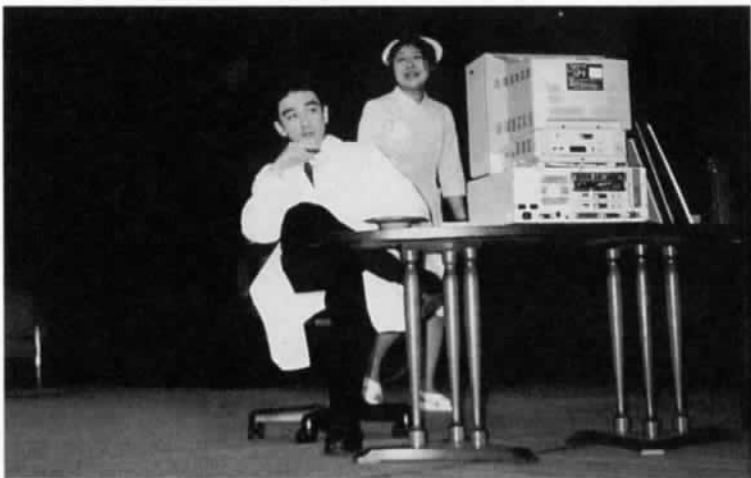
舞 台

◇劇団演集プロデュース テアトロ5公演

『ONとOFFのセレナーデ』

4月11〜13日

古城十忍／作 狩野恭光／演出



◇青年劇場

『濱の海』

4月12〜28日

島田九輔／作 松波喬介／演出



◇劇団川崎演劇塾

『たとえれば星のかげら』

もうひとつの銀河鉄道』

6月9日〜11日

神崎あゆみ／作 藤田るみ／演出



公 演

# 演劇会議

2001年7月9日発行 第106号

## ◆ もくじ ◆

グラビア (舞台) .....	1
リアリズムシリーズ ⑰ 観客としての「リアリズム」 ——私見・こばやしひろし—— .....	よしだはじめ 6
ロシア演劇レポート ⑳ 「幸福な、幸せな」2001年春 .....	桜井 郁子 17
デジタル劇団員入門 (その2) ——インターネットへの入口—— .....	石垣 政裕 25
北から南から (劇団通信) .....	36
劇評 京浜協同劇団『とりあえずの死』 .....	飯田 克衛 53
劇団演集プロデュース劇場“テアトロ5” 【ONとOFFのセレナーデ】 .....	長田 芳枝 55
劇団上野市民劇場・福北辨ひとり語り『芭蕉翁桃青』 .....	浅野 公三 57
素の会【ヒロシマのマチエール】 .....	神沢 和明 58
関西芸術座『わりかん』 .....	阿部 好一 61
戯曲 小劇場話劇『去年の冬』 .....	喻 栄軍/作 坂手日登美/訳 63
情報BOX .....	89
自治体の文化行政に関するアンケート調査の結果 .....	89
「勝山俊介作品集」が刊行 .....	102
全リ演東会議総会 .....	103
〃 西会議総会&ゼミナール .....	103
第1回八雲国際演劇祭 .....	104
2001年7月中旬以降の公演 .....	105
全日本リアリズム演劇会議住所録 .....	106



舞 台

◇劇団だいこん座  
『竜の子太郎』  
松谷みよ子/原作 新屋英子/脚本  
石川富志夫/演出

新屋英子/脚本

◇関西芸術座

『わりかん』  
5月16、20日  
津々見俊丈/作 梶本 深/演出

◇劇団名芸

『十二夜』  
5月18・19日  
栗木英章/脚本 佐野秀明/演出

公 演

# 観客としての「リアリズム」

——私見・こばやしひろし——

よしだはじめ

(「全リ演」OB)

## 一 「感動する」ということ

(1) OBという表現は自分でもしっくりしませんが、「演劇集団土の会」が上演活動を停止してもう15年経ってしまいました。最近では観客・読者としての立場を保っている自分だと思えます。

「演劇会議」を興味深く読ませてもらっていますが、101号に載せられた江原吉博さんの文章に心ひかれました。観客の側からみた「リアリズム」についての考えがあってもいいと思ったからです。江原さんがいわれる「心に真実を感じさせる演劇、それを私はリアリズムと呼びたい」、「真実味が感じられず、その世界に引き込まれることのない芝居は、リアリズムであるとかないとかという様式の問題以前に、少くとも私にとっては、演劇

でさえありません」という、当り前といえるかもしれない表現は、わたしの思っていることと重なり合っているようです。

江原さんの感じる「真実味」は、わたしにとっては「感動する」ということになるのですが、その内容をもう少し具体的に述べなくてはいいけません。

(2) 一言でいうと、(現実や歴史のなかでわたしがいま生きていることをはつきり感じさせられる)ということになるでしょうか。その感覚は日常生活の場のなかでも多く生じるのですが、芸術作品に接することは、わたしにとって大きな意味をもちます。創り手は、「何を・いかに」形象化して表現することによって、例外なく現実や歴史に対する自分のありかたや意識を体現してい

るからです。そして、わたしは、自分の感覚と論理を通してそれを受けとめ、それを評価します。その点では、芸術のすべてのジャンル、あらゆる作品は同じグラウンドに立っているといえます。

わたしは、多くには失望して前を通りすぎ、あるものは心にひっかかり、そしてある作品には感動をおぼえます。高山辰雄の日本画——たとえば「燈」——、ジョルジュ・ルオーの絵——「ピエロ」はいちばん好き——にわたしの心はとらえられ、林永哲の太鼓——松下功作曲の和太鼓協奏曲「飛天遊」の演奏はすごかった——が心をゆさぶります。芭蕉の句——ひとつあげるならば、「命二つの中に生きたる桜かな」——に心打たれるのです。それらの感動の質はわたしにとってまったく同一です。

わたしが芸術作品から感銘を受けるには、作品内容や作者の創造思想と重なり、あるいはそれから想起される切実な体験が、自分にあることがまず必要です。その上に、わたしの想像力を刺激してくれる作者の適切な形象化のあることが要求されるでしょう。そして演劇の場合により重要なのは、現実の上演者がそれを支える意識と方法とを豊かに持っていることであり、観客のわたしがそれと呼応する自立した状態にあることです。

作品・舞台が、現実や歴史に対してのきびしさを、人

間の存在についてのたしさをもちわたしに迫ってくる時、「感動」が生まれてきます。すぐれた創造者は、わたしが受け身でひよわな状態にいるとき、自律的な立ちあがりをおよびかけ、課題を発見させてくれるのです。その作用は表現様式を問わず、未来に救いのない否定的な形象でも、抽象的な手法、感覚的表現であっても、わたしに自律的な現実意識をすくく喚起してくれる作品は、わたしにとって「リアリズム」芸術だといってよいでしょう。

逆に、懇切にいねいに状況や課題を説明してくれていても、おもしろい設定を重ね、写真描写がゆきとどいていけるようにみえても、観客であるわたしに想像的・創造的意識をよびおこさない仕事は評価できません。とくに観客の上位にたつてあれこれと教示してくれる舞台にはたまらない想いを抱くこともあります。

(3) 木下順二は、真山青果・久保栄とならんで、わたし絶えず関心をもつ劇作家です。田中千禾夫は名著「劇的文体論序説」のなかで、「風浪」と「山脈(やまなみ)」の二作を「写実劇」とし、それと「民話劇」以外の作品を「観念劇」として位置付けています。その分類にわたしは賛成なのですが、わたしが感動するの

大衆劇——大劇場で毎月上演されている芝居、なかにはすぐれた舞台もありました——という感じでした。

しかしそう思いながら、同時に、「こばやしひろしの仕事だなあ」と積極的に肯定したい気持ちも動いていたのです。

この芝居に登場する人びとに注がれる作者の視線はとて「あたたかい」。農民一揆に立ちあがった人たち、父に孝行をつくすために自ら流人になる勘左衛門と彼の家族、そして新島の村人を描くこばやしさんの心はあたたかく、「優しい」のです。「甘い」はそれと同義語のようです。いってみれば、民衆の立場から現実の矛盾に真正面に向き合おうとしたひと、人間的な心をもって他に對していく人びとをはっきりと肯定するこばやしドラマの本質的特徴があるように思います。それは、作者の「願い」といってもいい、あるいは「祈り」ともいえる、ドラマ思想になっっているのです。

もうひとつ、この芝居が岐阜の人たちに向けて上演され、東京公演は時間をかけてわざわざ新島からやってきた島の人びとを主要な観客としていることに思いあたります。舞台が相手にするお客は、抽象的・一般的なそれではなく、具体的な顔をもっている人たちだということですね。「わかりやすさ」はそうした観客と場をともしし

は、その「観念劇」のドラマに多いのも確かなのです。現実や歴史と対峙して生きた人間のありようを否応なく感じさせ、わたしの現存在のありかたを強く刺激し、どう生きるかを鋭く問いかけてくるからです（もちろん、「風浪」・「山脈」も同じ質の感動を与えてくれます）。

それは、木下順二が、歴史や現実に対して全人間的に向き合って創造していることをわたしは理解するからであり、作家木下が、ドラマ化しようとする内容と表現への方との方を模索しながら、全身的に格闘しているからだだと思います。その営為はきわめて真摯で誠実です。木下順二にかぎらず、「何を・いかに」の芸術を生み出し支えているのは創り手としての「人間」の力です。主題や構成は重要ですが、「解釈の提示」や「ねばならない意識」(その場だけの心情)や(ドラマらしさの追求)ではなく、人間としての心からの想いや提示が作品や舞台の土台に坐っているかどうかが決定的だと思います。観客は、創り手が人間的に信頼できるかどうかを案外正しく感じとり、ほんものか表面的な上ずべりかをするべく見ぬくのではないでしょう。

## 二 わたしとこばやしひろし

(1) こばやしひろしさんとわたしのかかわりは、

ほんとうに少ないのです。「東(全)リ演」の総会やゼミで何度かことばをかわしただけ、ふたりで向きあって話し合った経験はありません。一九六四年「郡上一揆」の上演を観に岐阜まで行ったこと——早川昭二さん演出の民芸の舞台、そして最近の映画も観ました——、「書けない黒板」で山田先生役を演じた一年をおいて再演もしました——こと、三年前に東京池袋の芸術劇場で「新島の飛騨んじい」の舞台に接したことがあり、あとは作品や文章を読んできたというだけです。

ですから、こばやしさんを論の対象にすることは、障子のせまいすき間から大広間をのぞくようなものですが、この稿のテーマを考えると、どうしても思い浮かべずにはいられないひと、作者のひとりなのです。興味がありません。そんなことで、数少ない経験を通過しての「こばやし私見」を許してください。

(2) まず、「新島の飛騨んじい」なのですが、舞台を観たときの第一印象は、「甘い芝居だなあ」でした。「甘い」ということばはあまり肯定的な表現ではないようなので、「甘味のある」、「わかりやすい」といいかえた方が正しいでしょう。脚色作品ということがあり、演技陣が全体にゆったりと「安定」していたことから、良質の元をともしにするはたらきと不可分にかかわっているでしょう。

(民衆のありよう(の問題点)を明確にし、民衆のもつ(であろう)力を描くことに作者のねらいはあります。そのことは今は亡き黒沢参吉さんもそうでしたが、黒沢さんの場合、自分がイメージする民衆像を登場人物として描こうとしたのに、こばやしさんは、民衆性を観客と共有しようとする志向がある、とわたしには思われます。そこからのドラマトウルギー、「巧みさ」は、人物形象もさることながら、構成・展開によく具現されています。このドラマでは、はじめの勘左衛門の家が場面として長く、一揆から持続される人びとの想いがそこに丹念に描きこまれてい

が、それがあ

新島のシーンが、観客の心に素直に納得して受けとられていくことになり

とが冒頭の内容にすうと重ね合わされるのです。わかりやすくする

感じさせたの

に充たされて

(3) 「書けない黒板」の上演のときに感じた奇妙な

感覚をいまま思っています。わたしは山田先生の役を演じていたのですが、再演の舞台の最後のシーン、当時の演出は次のような表現をとりました。舞台中央前面で山田先生が卒業式のあとクラスの生徒に（観客席へ向かって）語るのですが、そのときすべての出演者がスタッフもふくめて舞台の上手・奥・下手とコの字になって並んでいます。山田の話がすすんでいくなかで彼らは少しずつ姿勢を変え、終わりに近づくにつれて完全に山田に背を向けてしまいます。照明も次第に暗くなっていき、山田のわたしが光の輪のなかにあつて語り続けていくのです。周囲の闇にとりかこまれ、姿の見えない観客席に向かってせりふを語りながら、わたしはどうにもしつくりしない気持ちにとらわれたのです。

今にして思うと、そのときのプランはわたしたち土の会のものであつても、こばやしドラマにはそぐわなかったでしょう。山田たちの教育実践がばらばらにされ孤立したたかいかになっていくのは台本が示しているとおります。しかし彼らに寄せるこばやしひろしの想いは「熱い」ものがあつたのであり、熱っぽいドラマの軸の上に舞台を貫徹することが必要であり、山田先生のことばは、生徒・観客に対してのよびかけであり、作者の「願い」であつたと思うのです。ひとりひとりがどう受

けとめるかはその個人の問題であるとしても、それを明るい場で観客に伝達していくことが、作者のドラマトウルギーであつたと考えるのです。「何を・いかに」を表現するかのくふうがこらされるこばやし作品ですが、作品の発想、展開をつきうごかしていく想いは強く熱く、その「熱さ」を打ち出すことにてらいたくないこばやしさが在るといえます。

（最近観た芝居で感心した舞台に、平田オリザの「ソウル市民」と坂手洋二の「ピカドン・キムジナー」があります。前者は朝鮮併合直前のソウルでの日本人事業家、後者は日本復帰直後のオキナワのある一家を舞台として展開しています。平田ドラマではダイニングルームでの家族や知人、使用人の出入り、とくに四人の女中たち——ふたりの朝鮮女性をふくめた——の日常的なおしゃべりのなかで、朝鮮と日本とのかかわり、支配や差別など現在にまで至る問題が知らず知らず提起されます。坂手ドラマでは夫婦と四人の子どもたちの行動を軸にして、原爆や日朝鮮人の問題がオキナワの現実課題とからみあわせながら進展し、妖精説話がそれらをいどつていきます。両者ともみごとな設定・構成と表現力をもった舞台で、観劇の充実感があつたのですが、あとになって、この二人の作家が、朝

鮮とオキナワを自分にとって切実な創造課題として「いま・どうして」とりあげずいられなかったのかについて、何かストンと心に落ちないものを感じたのです。彼らの前向きな意識を疑いはしません、作品の素材・主題としてこれはうまくいくぞという作劇の志向がかなり大きかったのではないのでしょうか。フツと浮かぶこうしたむなしさのようなものは、こばやしドラマには感じません。——平田オリザの仕事でも海よりも長い夜」はすぐれたものでした。わたしはいたく心うごかされ、あれこれと自分のことを考え続けました。——)

(4) 「郡上一揆」の初演を岐阜まで観にいったのはもうずいぶんと昔のことになってしまいました。舞台全体をつつみ、発散してくる「熱さ」とスタッフの示す力量に圧倒されて帰ってきた記憶があります。自分たちの仕事へのはげましになり、目標ともなつたと思います。

——早川さんの演出した民芸の舞台も観ましたが、「はぐるま」の方がよかつたなあと感じ続けていました。そして時を経てこのあいだ映画を観ました。主体的な農民形象に感服して、感想をこばやしさんに送ったところ、おりかえし返事がきました。ハガキに細かい字でぎっしり

と書かれた文面です。私信なのですが、こばやしさんの考えが示されていると思うので、部分をここに採録させていただきます。

「私としては不満もありますが映画ですので映画屋さんにおまかせしなければと思いました。私の作品はあくまで農民の立場だけを追い求めました。その中でもっとも大切にしなければならぬのは、庄屋を郡内に入れず農民だけの組織をつくつたということ。それが唐傘連判状になり、年貢米納入拒否、江戸出訴という大胆な戦術を生みだすのです。それどころか、連判状に名を出さない帳元四郎左衛門は領外の関から指導したのです。合法非合法を使いわけた極めて高踏な手段をみだしているのです。当然組織から脱落する寝百姓、組織に留まる立百姓の対立が生れます。この農民の自立がなければ近代は開けません。明治は下級武士のみで生れたわけでないのです。この一揆の近代性、これが打出せたかという不安があります。」

簡単な感想文への返信を熟っぽく書きこんでいるこばやしさんの姿をイメージするのですが、それ以上に文面にみなぎるエネルギーあるいは自作についての「自信」を感じるので、とくに文末にある「一揆の近代性」、

作品内容の集約点によせる心が伝わってきます。圧政に抗する農民の力を描くにとどまらず、歴史の流れのなかに位置づく民衆の実像と価値とを把握して創作の土台にすえ、人間のさまを形象する「作家精神」がそこにあるように思います。

わたしは、「郡上の立百姓」を読み直します。作者のいう主旨は確実に貫徹されているのですが、わたしは作品の終末部の表現に気をとられます。

獄門にさらされて定次郎たちの首の前で、妻のかよが「お前さんは獄門になったがんな、お殿様は変わっても毛見お取り止めはお認め願えなんだやぞ……」と、異様なひきつったような笑いとなり、「長い間」のあと、「げんげんばらばら」を踊り出す。みんながそれに続き、定次郎の弟の宇吉が狂ったように「踊りはおくんや、こんな踊りのために俺んた五年間苦しんだんやないぞ、おかんか！……」とかよを引き倒すが、かよまた立ち上がって、何事もなかったように踊り始める。照明が落ち、無言の踊り、雪がしきりと降るのです。そして、最後の「農民」の語り、次の支配者が踊りを奨励し、百姓は踊りまくった、俺たちがもらったものはこの踊りだけだった、しかし、この宝暦の義民はいつまでも生きている、この土の中に生きている。——という場面はみなさんがこ

### 三 こばやしひろしと「リアリズム」

(一) わずかな、数少ないふれあいから、こばやしドラマをみようとしています。その出発点としての今回、概括的な特徴として、三つの点に整理してみたいと思っています。

一つは、「具体的な」観客の前においてドラマの世界と課題とを共有しようとするところからくる「わかりやすさ」、人間的であろうとするものへの「優しさ」を一貫して保っていること。その視点からドラマを発想し、ドラマの展開ともりがりとを具体化していることです。「庶民の求めている演劇は鑑賞が平易であると同時に質の高い感動との統一が必要なのである」とする考えは、こばやしひろしのドラマトウルギーの土台にすわっているのです。主題の選定のきびしさと設定・表現のたぐみさが、三位一体的に重なっています。

ふつうであれば、「できすぎ」「お芝居的」として批判されるかもしれないような設定も、こばやしドラマでは有効な説得性をもつのです。たとえば「中国三部作」のラストシーンでみてみますと——いずれじっくりと読み解いてみたいと思っている作品ですが——（自分たちが拷問にかけ刺殺した女の親との遭遇（「カンナの咲き乱

存知のとおりです。

ラストシーンはいかに暗い。農民たちの勝利の姿や未来への展望をうたいあげてはいません。あれほどのたたかひがあったのに、それは歴史の暗黒のなかにのみこまれていってしまうかのようです。そのことに、わたしは、歴史と人間とを凝視し、主題を浮かびあがせようとする戯曲作家こばやしひろしの「したたかさ」を思うのです。マイナスの状況のなかから、前向きに生きた、また前向きに生きたい人間のありかたを見出そうとする「強靭さ」がそこにはあります。ひとが自らの内に育てていく力強さとそれを圧倒する状況との両面から現実をとらえていくドラマチストの眼です。

（「全り演」の総会などに提起される文章に、こばやしさんは現実の否定的な問題を前面に出し、苦渋に充ちた芝居創りを語ることがあったように思います。その現実把握はそのとおりだとしても、そのことによつて逆に前向きエネルギーを得よう、発見しようとする志向していたのが、そうした文章を書いているときのこばやしさんの認識であった、とわたしは思っているのです。その点で、彼は、「強靭」。

れるはて）、（中国人慰安婦と良心的な新兵との抱擁と脱走（「黄土にとけゆく赤い陽は」）、（塩見と保子、漢全と恵玉の二組が長江上同一の場所で重なっての登場（「長江よ、私たちの日々を忘れないでくれ」）は、いずれも現実で生じるとはまず考えられない場面設定です。しかし、そこに至るべくみな展開と登場人物が背負っている体験と課題の重さ・切実さが、そのシーンをドラマの結実点として観客に承認させずにおかないのが、こばやしドラマなのだといえるでしょう。

二つには、歴史や現実のとらえかたとして、権力の強大な支配が人びとの意識や行動に矛盾を形成してしまう面と、それに抗してたたかっているところとする人間の意識・行動の面との両方を把握し、その両面からの表現を追求すること。しかも、前者には「怒り」をこめたい自己の問題提起を、後者には「願い」に充ちた熱っぽい自己主張を「強烈に」表出しようとすることです。

ドラマとして、またドラマチストの認識として当然のことともいえますが、どちら側の一方から接近・展開をみせる作品が多いのに、こばやしドラマでは両者からの構成と描写を手放すことがほとんどないように思われます。それは作者のドラマ思想であるでしょうが、こばやしさんの心にある葛藤のドラマへの反映であるかもしれ



ません。ベシミズムとの緊張感からもエネルギーを得ようとする人間の「強靱さ」が、作家としての方法論と相關していると思うのです。

それに続く三つ目としてわたしが感じるのは、戯曲作家こばやしひろしの持っている「自信」です。右にあげた作劇の二つの特徴は、こばやしさん自身が熟知し、ドラマへの具体化があると思われまます。ときにはそのことがドラマの質を制約することもあるでしょうし、あるときは一つの面から思いきって書いてみようと思う——「豚」などはそうかもしれません——こともあるでしょうが、この作家はたじろぐことなく、自分の創造路線を一貫させています。

その力は、おそらく、こばやしさんが「岐阜はぐるま」の指導者であることから生まれてきたのです。「地方演劇」をあくまで主張するこばやしさんは、岐阜の地から全国の演劇・社会状況をにらみつけ、さらには世界のそれをみつめているようです。その視点をはずそうとしないこばやしさんがいます。観客としての岐阜の人びと、稽古場建設、「総合舞台はぐるま」の創設、観客組織活動の重視、「親と子の劇場」の企画、自治体との提携、小劇場の保有と多様な上演形態、そして国際交流などなどさまざまな課題の現実化は、試行錯誤はあるにしても

理の存在が漠然と「透いて見える」ことでないと安心できないのです。そういう意味で、わたしは「情念派」です。過去の体験に対して、現実・歴史・人びとに対して、自分がそういう姿勢をとっていることを承認しています。

というのは、自分にひきつけていうのかもしれませんが、こばやしひろしのドラマは「情念劇」だといいたい気持ちがあるのです。一の章で、木下順二のドラマが「情念劇」といわれていることを書きましたが、こばやしドラマにみた三つの特徴は、思考という次元よりもこばやしひろしの体内にずっと住みついている「想い」であり、まさにその「情念」が創造をつき動かしているように思うからです。そして、木下順二・こばやしひろしの仕事は、「リアリズム手法のドラマ」と必ずしもいえなくとも、観客の現実意識（そして歴史認識）を上げしくゆさぶり、わたしの心を刺激して現実のなかに生きている実感を生みだす「リアリズムドラマ」であるといえるのです。

さらにいえば、こばやしさんにとっての「情念」の原点に、反戦思想をもちながら兵士として中国の地で死んだ兄さんへの想いを加えなくてはなりません。すでに、「つくられた英雄」は「歴史の暗闇のなかへ逝った兄に」

その視線の上に先見のな見通しをもって果たされていったと思われまます（『郡上の立百姓』の中国公演も大きな契機となったにちがいありません）。「全リ演」の各劇団がそれぞれに努力している課題を、創作劇と舞台の質の向上とを並行させ次々に実現していった「はぐるま」の組織者としての経験が、独自のドラマトウルギーの形成とかかわっていると思われるのです。

(2) 三つの特徴がその時々々に練り合わされ、いつも同時に三つの特徴がおしすめられていることによつて、こばやしドラマの「リアリズム」が支えられている、とわたしは考えるのです。観客は、そうしたこばやしドラマに心うたれ、受け入れ、支持することが多いのです。ところで、わたしは「情念」ということが好きでよく使います。情念というと、晴らしようのない怨念とか、執念的な暗い情熱をイメージするかもしれませんが、たしかにそうした内容もあるでしょうが、わたしがこのことばにこめるのは「いつまでも持続する想い」ということなのです。さらにいえば、知識やイデオロギー、論理や思考という知性的なものはたつきすべて内に溶かしこみ、それを感覚でつつみこんでいる状態です。ですから、いつも感性的に外の世界と接しているながら論

がタイトルにかかげられ、「榎の木」の主人公宗之助の形象は「兄の投影」だと述べる作者であり、中国三部作も「戦争で大陸の土となった兄に捧ぐ」作品です。内容と関連しているだけでなく、その発想、作者の現実と歴史への意識と世界観、ドラマ思想、もっと根源的には演劇活動をはじめにいたった経緯にまで、お兄さんの残像がかかわっているのではないかと思われるのです。

(その上に、仏教徒としてのありようが参画していると考えられるのですが、その点はわたしにはよくわかりません。)

こばやしひろしドラマを「情念劇」とよびたいわたしの思いはさらに強まります。そしてわたしは、わたしに感動を与える作家が、そうした情念に深く心をとらえられながら作品を創造していったことを考えるのです。アーサー・ミラーしかり、イブセンやチエホフもそう、わたしがどの作品にもひきつけられるドラマチスト真山青果にも感じる感覚です。久保栄の仕事に対しても、「好き」ということでは、「火山灰地」よりも、作家の想いの濃い『林檎園日記』や『日本の気象』に心ひかれまます。きわめて個人的なかもしれませんが、深い情念をもち続けている作家にはあまり信用がおけず、どんなに表現手法が精緻でありたくみな設定や展開があっても

現実や歴史にいだきつづける情念にとほしい作品は、「リアリズム」といいたくないのが、観客・読者としてのわたしなのです。

(3) こばやしひろしのいくつかの戯曲作品について語ってみたい気持ちはあるのですが、上演舞台も観ていませんし、こばやしさんという人を充分に知っているわけではありません。ドラマチストとしての最近の歩み、



作家としていまどのような課題と対決しているかもよくわかりません。将来の機会を待ちたいと思います。しかしいずれにしても、こばやしひろしというわたしにとつての「リアリズム」の作家について、人間としてのありようもふくめて興味・関心をもっていることは確かです。「はぐるま」の舞台を観せてもらい、「全リ演」の仕事にももっと触れる体験をつくりながら、観客である自分をより豊かにしていきたいと願っています。

## ▽著者紹介

1934年 東京に生まれる。  
1955年 「演劇集団土の会」を創立  
1963年 「東リ演」結成に参加、加盟  
1985年 上演活動を停止

著書に「青果『平将門』の世界」  
「藤原定家一美の構造」  
「久保栄『火山灰地』を読む」  
最近、年数回刊行の「土の会だより」  
に拠る執筆

## ロシア演劇レポート ⑳

## 「幸福な、幸せな」2001年春

桜井 郁子

黄金のマスク

演劇祭の15日間を含めて過ごした2001年モスクワの春の1ヵ月、モスクワ諸演劇の話題作も含めて観劇数30、いささか疲れたがそれなりの充実感を持てた。

(マスク) 賞事務局も第6回目となれば手際よくなっていたし、10日前の申込日に間に合ったこともあって、見たい作品のおおかたは見ることもできた。といっても地方参加の10本を除いて、モスクワの分は自力で確保してくださいというのが事務局の方針だから、窓口で買った5本を除き、各劇場の偉いさんたちに電

能性はこのこざれている。訪れた劇場数は18。

演目はロシア・ソヴェートの古典と現代作品が18。一番多いのはチエーホフ、「三人姉妹」2劇場、「桜の園」「森の精」「かもめ」「人物たち(小品集)」で計6。筆者の好みからだけでもない。(マスク)ノミネートには昨春もう見てしまった『黒衣の僧』を含めて4作品も入っているのだから。スタイルもジャンルも違う作品群だが、どれもそれぞれに見応えがあった。多分、次号に詳しく書くことになるだろう。

ロシアの古典ではレフ・トルストイ2作品、グリゴエードフ、ドストエフスキイ、M・ブルガーコフ2作品、ゴリキイ、アルブゾフ。他に現代作家のもの。外国作家はシエークスピア、S・ムロジェク、O・ワイルド、E・ロスタン、F・デュレンマツト、E・フィリップ、別

話したり訪問したり……の忙しさ、入手不可能のフオメンコ工房だけは親友が確保してくれて感謝、止むを得ず闇屋(2倍半の値段)の世話になったのが1回だった。この時期、大阪と同じ気温の日もあつたが、あつという間に零度以下の日が続き、風邪をひき、咳を気にしながらの観劇になった。さて30本の内訳は(マスク)ノミネート作品、4月末から始まった(オリンピクス)参加作品のいくつかを含み、モスクワ演劇界のいくつかを……それでも見損ったものや当日になって上演中止のものもあるが、ロシアはレポートリ制だから今後の可



О. Вайльд作『幸福の王子』  
演出 K. ギンカス

「幸福の王子」はノミネート作品に、外国人のための（ロシアン・ケース）作品を含めて計15見だし、（オリンピックス）予定作品は（マスク）との重複もあるが9作品を先取りして見た。「なぜ、作品△△が（マスク）にノミネートされないのか」の声が毎年選定委に浴びせられるが、その△△が（オリンピックス）の方に登場していたりする。それでも今年は地方からの登場が少ないとか、モスクワ偏重との声を受賞式の後でも聞こえてきた。別にこの演劇賞が金科玉条というわけでもなく、受賞云々にはこだわりたくもない。部外者の気楽な気分、心にのこったいくつかについて少しづつ書いてみよう。

「幸福の王子」は「幸福」の言葉を選ばせる何かがあったのか。モデルン劇場はモスクワ街外れにある瀟洒な館を改装した劇場で、初

役実、B・フリール、H・レーヴィンなど多彩である。  
（黄金のマスク）はノミネート作品に、外国人のための（ロシアン・ケース）作品を含めて計15見だし、（オリンピックス）予定作品は（マスク）との重複もあるが9作品を先取りして見た。「なぜ、作品△△が（マスク）にノミネートされないのか」の声が毎年選定委に浴びせられるが、その△△が（オリンピックス）の方に登場していたりする。それでも今年は地方からの登場が少ないとか、モスクワ偏重との声を受賞式の後でも聞こえてきた。別にこの演劇賞が金科玉条というわけでもなく、受賞云々にはこだわりたくもない。部外者の気楽な気分、心にのこったいくつかについて少しづつ書いてみよう。

「幸福な、幸せな……」  
「フォメンコ教授の作品だけは絶対見なさい」というのが、長年の友人の第一声であった。先にも書いたように入手不可能と言われていたこの劇場の切符は、幸い親友が入手してくれて見る事ができた。  
なぜかフォメンコは「幸福」の言葉がつく2作品を相ついで出した。「ある完全に幸せな村」とレフ・トルストイの「家庭の幸福」、いずれも原作の題だ。K・ギンカスの最近作はO・ワイルド原作の「幸福の王子」、さらにモデルン劇場のS・ムロジエク作「幸福なできごと」が重なる。幸せな、幸福な春になってしまった。偶然なのか、それともそれぞれ別の演出家にこの言葉を選ばせる何かがあったのか。

めでたの訪問だ。客室壁面のデザインが劇場のロゴマークになっている。ここやかに迎えられる、手を取って客席に案内された、どこの劇場にもなかった作法だ（日本人だから目立ったのだろう）。さて「幸福なできごと」はポーランドの作家S・ムロジエク（日本ではトントト人気がないが、ロシアでは上演が多い）の73年の作品だ。  
旅の者が個室を要求するが、その家の者の返事は「個室はない。皆一部屋の大きな寝台で寝る」と。とまどう旅の者を天使5人が手を取って案内。なるほど舞台半分を占める寝台がトランポリンになっていて、前正面にこの家の主人の將軍、若夫婦は左右に離れて横たわる。旅の者は熟睡のあまり天井にとび上って梓につかまりいびきをかく。いかさまトラップで將軍が軍帽を奪われると、將軍は部下に連れ去られる。天使と若

い者たちの乱舞。赤ん坊が生まれた。この赤ん坊、トランポリンをころけ回って大人を奔弄し、ひとり残る。この奇妙な前衛芝居で、赤ん坊役俳優が喝采を浴びていた。演出はS・ヴラゴワ、チェーホフ祭参加作品である。

### 『幸福の王子』

K・ギンカスが『金色のにわとり』に続いてつくりあげた辛口の童話劇

で、O・ワイルドの1888年作。舞台空間をどっかりと占めるのは金属製の王子像胸部。下半身ははるか下方にあると想像させる。顔面は金箔で覆われ、瞳には青い大粒のサファイア、剣の束には赤いルビーがはめこまれている。かつて「幸福の王子」と呼ばれていた王子の像は街を見下ろす高台に立っている。

ある日、南へ帰る途に着いたつばめが像の足許で休んでいると、上から水がぼたぼたとしたたり落ちる。王子の涙だった。街を見下ろしている王子は、不幸せな人びとを発見してはつばめに使いを頼む。病床の男の子の蜜柑代に片目のサファイアを、凍えきった詩

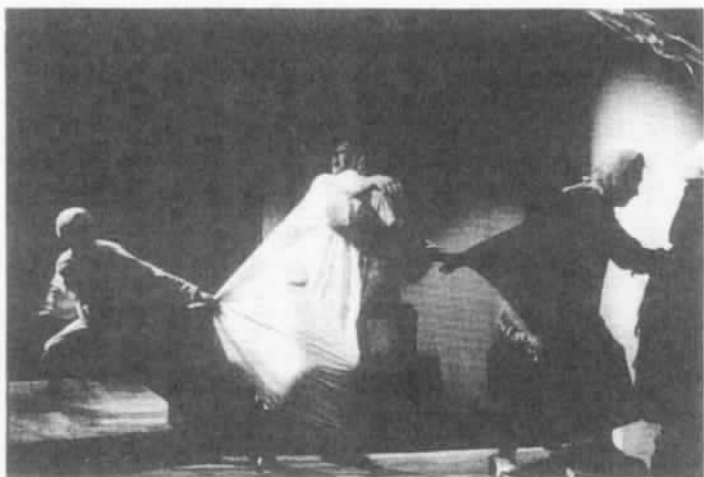
たが、バルヒンは(マスク)装置賞を獲得した。

この『黒衣の僧』と前人気を二分していたが、グランプリ作品賞をもたらしたのはフォメンコ演出の『ある完全に幸せな村』だった。

### 『ある完全に幸せな村』

完全なとはいかにも味気ない訳語だが、今のところ代わりの言葉がみつからない。この原作者はB・ヴァフチンという聞き馴れぬ作家、有名なヴェーラ・パノワの息子で、フォメンコのレニングラード時代の友人で共作者、70年代にはピーテル(ペテルブルグのこと)の地下文学の旗手だった。この『……幸せな村』の抜粋は74年雑誌に載ったが、上演を企てたフォメンコに検閲当局はノーと言った。戦争をはさむ40-50年代のある村の若者、ポリーナとミヘーエフの愛と人生の物語。夫を亡くし

たポリーナがドイツ兵捕虜と所帯を持つという結末だったからか。30年を経て陽の目を見たが、原作者は81年に没している。



B・ヴァフチン作『ある完全に幸せな村』  
演出 P・フォメンコ

「フォメンコ工房」は93年劇団として認知されたものの、「家なし子」だった。演劇大学のホールや、モスコビエト劇場の5階はともかく、街外れの旧オペラ劇場やある館跡など、演目ごとに舞台が移動し、お客も共にモスクワ中をさまよった。ようやく元映画劇場キエフをもらい、ホームグラウンドを開設できたのが約1年前、既に三つの新作を出している。その一つがこの『……幸せな村』である。

何しろ劇場は狭くて、観客の足許から村が始まる。積み上げたブロックや橋がかり、穴や梯子、その間を村民たち、水桶をかつい

だり、川で濯ぎしながら歌う女たちを始め、牛や羊、にわとりにつるべ井戸までも、何役をもこなしながら俳優は駆けまわる。お客は水しぶき、煙草の煙、舞い上がる埃まで共有させられる。そこに若者たちの恋物語ばかりか、戦争場面まで挿入され、よく見ると、この芝居「エピソード集」とあるが、運びやリズムに淀みはなく、俳優たちは驚くべきアンサンブルを見せる。

とりわけP・アグレーエフ演じるポリーナは若く、しなやかで、いたずら好きで、空色の長い長い布を裸身に巻きつけていくことで現わす水浴場面は、恋人ミヘーエフが思わずすくい上げてしまうほど愛らしい。実はこの芝居にはこれまでのフォメンコ工房でのスターはほとんどいない。演出家ジェノヴァチがある劇場を追われたために、戻ってきてミヘーエフを演じているセルゲイ・タ

ラマーエフ以外はほとんど若手、新人だ。3年前演劇大学のフォメンコクラスを卒業した教え子たちが、アグレーエフばかりでなくめざましい演技を見せる。

情熱的なミヘーエフの求婚に屈し、ポリーナが彼と結婚したちようど同じ時に、戦争が始まった。誠実なミヘーエフは召集令状も待たずに志願して参戦、あえなく戦死してしまう。のこされたポリーナに双子が生まれて、男手がなくては村の生活がかなわなくなる。ポリーナを案じたミヘーエフはあの世から戻ってきて、天井裏の簀の子に住みつき、ポリーナに話しかけ、再婚をすすめる。村人たちも談合して白羽の矢を立てたのがドイツ兵捕虜のフランツ、フランツ自身ドイツへ戻る気がなくて同意する、彼の持ってきたレコードの「リリー・マルレーン」が響く中、ミヘーエフも雲の中に戻る。

あれやこれや、見応えのある2時間半だった。

### 『家庭の幸福』

フォメンコは一作ずつ作風を変え、その作品にあわせたコンセプトで、どんな舞台を見せるか、見る前から期待で胸が湧く。

レフ・トルストイが独身の31歳時に書いた『家庭の幸福』を「……幸せな村」に続いて出したが、物語を原作に借りながら舞台はやはりフォメンコ流だった。

一見昔風の家庭にみられるお茶の風景が、第一幕で繰り返される。孤児のマーシャは家政婦のカリーチャと後見人セルゲイ・ミハイロヴィチの来訪を待ちわびてお茶にする。巨大なテーブルクロスそれぞれの端を持ちあげて胸に当て、ナプキン代わりにし、お茶を飲む。17歳のマーシャが毎回ビスケットを取り上げて片

手でカチリと割るのがかわいくておかしい。幸せそうな3人の表情。セルゲイ・ミハイロヴィチは36歳、落ち着いてもの静かながら話好きな分別のある男。カーチャは控え目ながら教養ある婦人。17歳のマーシャは恋にあこがれ、身内にうずいて溢れる期待や喜びに一刻も坐っていられなくて、家中を窓から窓へと走り回り、梯子に上ったりそこから落ちたり…。軽やかな身のこなしで舞台を駆け回るマーシャという稀有な形象は、女優クセーニャ・クテポフの当たり役になった。マーシャはセルゲイを恋し、愛を打ち明けて相手も応じるというのが第一幕。

第二幕。仕事に専念するセルゲイに、マーシャはもはやとび回ることもかなわず、相手をしてもらえない。夢もさめ、もの憂さから社交界にあらがれる彼女、夫の許しでペテルブルグやバーデン・バーデンに出かけ



レフ・トルストイ作『家庭の幸福』  
演出 P. フォメンコ

ては、裾の長いドレスと大きな羽根扇で踊りまわるマーシャに2人の異国人が言い寄る。ひとときの楽しみ

をもらってほしかったが、今回もなかった。数年前のジェノヴァチ演出『白痴』の主人公ムイシュキン役が

の後の生活の真実を悟り愕然としたマーシャは夫の許に戻る。平然と迎える夫。家庭の幸福の行方は……。

セルゲイを演じるタラマーエフはうかがい知れぬ内心を秘めた大きな存在として、クテポフをひき立たせた。この俳優には目が難せない気がする。「……幸せな村」で見せたエネルギッシュでアクロバットのな働きと共に、この懐の深さ、

その名にふさわしかったのだが。

男優賞はサチリコン劇場で一人芝居『コントラバス』をやったK・ライキンがもらった。これは広い舞台のあちこちに積み上げたビール瓶ケースから、次々にとりあげたビール瓶の栓をあげつつ、ひとりコントラバスを相手に膨大なせりふで心情を吐露するミュージシャンという役。大活躍だったが、既にいくつかの賞をもらっているこの人がまた、という感じが拭えない。

### 『モーリー・スウィニー』

いささか難解な戯曲にいどんだ主演女優の演技に心奪われた芝居のことを書いておこう。アイルランドの作家B・フリールが94年に書いた、男2人と女1人だけ登場する芝居。3人は舞台の左右と中央奥で、すっぽりと全身が隠れる丈の高い藤椅子にそれぞれ坐っていて、互いに交わ

ることのないモノログをくりひろげる。盲目の女性モーリーと2人の男の話。

幕が開くと、くると回転させた椅子から赤いコートのモーリーが立ちあがって、手にした白い杖をほとんど使うことなくまっ直ぐに前舞台の突端、プールサイドぎりぎりに来て立ち止まり、自らを語り始める。

幼くして視力を失ったモーリーは父や周囲にまもられて、何不自由なく全き人生を生きて来た。視線だけは宙に浮いているが、彼女のしぐさは語るせりふの内容と同じく淀みがない。幼い時、判事の父が毎晩、庭の散歩に連れだして、花や樹木の名を教えてくれた。不幸と思ったことはない。自転車に乗り、水泳大会には一等賞をとった……結婚し、マッサージ師の仕事をしている……モーリーが自らを語る時自己れんびんや諦めはない。モーリーを演じるT・

シエスタコーワはだれかが「クリスタルのような」と評したよく響くさわやかな口跡で、僅かな動きにこめられたエモーショナルな集中力で役のモーリーと向きあっているのがわかる。筆者は一番前列の中央だったので、彼女を見上げながらその演技に堪能した。

モーリーに関わるのは夫のフラックと医師のミスター・ライス。男たちはそれぞれの思惑で、万一の視力回復を願って彼女の手術をすすめた。モーリーは期待もなかったが、反対もなかった。第二幕は手術後の物語。結果は悲惨、モーリーはいささか見える世界に入ったが、盲目であった時の調和を全く失ってしまった。「見えて、見えない」不安と絶望にこれまでの価値観がくつがえされて、生きていて、生きていない世界をさまようようになる。2人の男はモーリーの間の深さと、自らの無

力感に打ちのめされて去って行く。  
また舞台の先端に立って言うモーリーの最後のせりふも静かだ。いくつか思い出す記憶は父や母が居た時のエピソード、医師の謝罪には黙して答えず、もうここにとどまる必要はないからと、水の引いたプールの底に沈んでいるボートに自ら横たわって終る。

なぜ演出家ドージンはこの戯曲を



B. フリール作『モーリー・スウィニー』  
モーリー役=T. シェスタコーワ

選んだのか、モーリーのおちこんだ世界に一体どんな科学的根拠があるのか、作者はこの戯曲でアイルランドの今の何かを表現しようとしているのか……疑問でいっぱいになりながら、しかしモーリーを生ききった女優には拍手を送って劇場を出た。いつものように楽屋を訪問しなかった、言うべき言葉がみつからなかったためだが、この後悔はもう取り返

せない。

演劇と直結する問題ではないけれど一言、4月7日の昼間の3時間、筆者はテレビの前に坐り通した。この日「独立テレビ（NTV）」への政府弾圧に対する抗議集会のライブ中継が行われたからだ。マイクの前に立ったのはテレビ関係者だけでなく、作家、ジャーナリスト、音楽家、現場の労働者、馳けつけてきて連帯のあいさつをする外国の（アメリカ、ウクライナ他）人びと。チェチェン報道などで良心的報道を続けてきたNTVに対する連帯の挨拶に、雨の中、歩いて集まってきた2万5000人のどよめきが応えていた。ロシア市民の良心を見た。いささか大きなもの言いだけれど、日本の報道がなかったのだからお許しいただきたい。

## デジタル劇団員入門〈MGM〉

—インターネットへの入り口—

劇団仙台小劇場

石垣 政裕

E-mail: ishigaki@econ.tohoku.ac.jp

デジタル教え子T江さん

「Aさんはいつも便利なことだけおっしゃいます。デジタル劇団員入門（その1）では「メールはだれかに読まれていることもある」とお茶を濁して書いていましたけれど、会社などでは、メールを監視しているところもあるし、公的機関さえエシユロンとかカーニヴォアとかというシステムを使って、メールを盗聴しているのですから、もう私たちは私信などにE-mailを使わない方がよろしいではありませんか？」

ある日、Aさんは、いつもの居酒屋で教え子のT江さんから、押さえ

気味に語尾を上げた調子でこう切り出されました。T江さんは、アパレルメーカーに勤めて15年になります。入社と同時に、Aさんのいる劇団に入団したのですが、以来、劇団とはつかずはなれずといった活動で、舞台ではこれといった代表作もないまま、時には小道具を作ったり、衣装部に籍を置いたりしてきたのでした。それがあるとき、Aさんが制作室の片隅で全り演関係のメールを打っていたら、T江さんが興味深く眺めていたので、Aさんが「やってみるかい？」と声を掛けると、すぐ乗ってきたというのです。

それ以来、他の劇団員からはデジ

タル劇団員Aさんの「デジタル教え子T江さん」と呼ばれるほど、「人が変わった」のでした。今では、制作が頼るほどの演劇情報通。Aさんによれば、T江さんは、自分のホームページを作り、「わたし、こんど、チェーホフの「かもめ」でニーナを演ります。私のすすめる「かもめ」見どころはここです」などとアナウンスしているらしいのです。どうりで、このころは舞台活動も活発になり、演技面でも、声だけは大きい演出から「一皮むけたね」と、久しぶりにボソツとほめられました。劇団でほめ言葉が出るなんてほんとうに久しぶりだったので、見ていた陣の方に、さわめきが生じたほどでした。そのとき、「さすがインターネットだ」「IT革命だね」と人々は噂しましたが、これは、モリ君がクリントン君に「モリちゃん高いよお、電話代下げてよ」といわれ「安くす

ると、うまいところクリちゃんにみんなもつていかれちゃうから、その前に……」とあわてて声を掛けた「IT革命」とは少し無縁なのですが、まあインターネットの二次効果と言ってもいいかもしれません。

さて、T江さんが指摘したカーニヴァー carnivore はアメリカのFBIのメール監視システム。「ははん、アメリカのシステムかあ」などとカラスのように安穩と構えていてはいけないのであって、当然、日本の警察も何らかのシステムを考えているはずなのです。エシユロン Echelon はアメリカの国家安全保障局NSAが行っている世界規模の盗聴システムで、いま世界中で大きな波紋を呼んでいます。

T江さんはインターネットが、必ずしも自由な解放区ではないことを指摘しているのです。「あんな、長いピアスしてないよね」などと居

酒屋の鴨居付近においてあるテレビを見ながら女性客が話しているのを尻目に、T江さんは「マジ」になっていたのです。

#### ちよつとインターネットの歴史

「会いてえ、会いてえなんて、男のくせにみつともねえや」と江戸っ子のSさんが飲んだ勢いで話すほど、中身はどうでも、言葉は一人歩きするものです。日常語すぎて、野心的な若い劇作家がコンクールに出すような戯曲には絶対に書かないような言葉に成り下がった「インターネット」も、そのいい例です。

「NTTが来てね、インターネット、つないでいったんすよ」「ね、インターネットやってる。いいよお。これ通販で買ったやつた」「うちの、インターネット故障しちゃってさ。いま、修理に入れてんの……」などなど。

前回、「ドメインネーム」を説明しているところで、Aさんが「アメリカの覇権主義だ」と言っていたのを覚えていた読者もいると思うので、少しつまみと酒を買い込み、稽古場に場所を移してT江さんからインターネットの歴史をかいつまんでもらいましょう。

……稽古場に着くが早い、T江さんは「極端に短いインターネットの歴史」(浜野保樹、晶文社1997年)の上に片手を置き、Aさんをチクリと皮肉ってから始めました。

「入門」つていいながら、すぐ専門的な仲間同士の話をしたがるのがAさんの悪い癖です。だから、まわりの人は「インターネットやるには相当な知識が必要なんだ……」と思ってしまうのですわ。さて、本題に入りますが、インターネットという言葉を説明します。コンピュータをつないでネットワークを作る場

合、学校単位とか、会社単位とか、大小はあるにしてもそれぞれの単位ごとにネットワークができています。これをローカルエリアネットワーク LAN (ラン) といいます。インターネットというのはこの単位ごとのネットワークをさらにネットワーク化してつないでいるもので、いまや世界の2億人が利用しているといわれています。最初に構想した人は、このシステムに「インター・ギャラクティック・コンピュータ・ネットワーク」と名前を付けたというのですが、ギャラクシー(銀河系)まではいかないまでも、その言葉に秘められた期待に見合うほどの発展をしているといえるでしょう。みなさんは、スプートニクをご存じですか……」

T江さんはなつかしい言葉を口にしました。直径60センチにも満たない鉄の玉「スプートニク」1号が飛

んだのです。ソ連の「人工衛星」……

ああ、「人工衛星」もかなり古い！  
そういえば「スプートニクス」などというバンドもありました。「霧のカレリヤ」でしたっけ……フルシチョフ首相が白黒のニュース映画に登場するあの時代、1957年です。

国家の威信をかけて各国が科学技術の進展を唱えていた時代ですから、「敵国ソ連に人工衛星を打ち上げられてしまった」アメリカのショックは相当なものでした。あの、高い鼻が折れて……アメリカです……何しろ、宇宙開発技術におくれをとったという純朴なショックだけではなく、宇宙から攻撃されてしまうかもしれないという国防上の危機を迎えたのですから。ニューヨークの株も暴落しました。さあ、アメリカは軍事面での巻き返しをはかるために、軍事研究に巨額の投資を始めたのでした。国防と名のつく研究は

何でもありで、……災害救助という名の下なら何でもありというところかの国の首都の話もありましたが……攻撃されても、簡単に壊れない情報通信技術が研究され始めました。

このとき米国防総省に高等研究計画エイジェンシー (ARPA) が作られました。ここにネットワークの研究が要請されたのです。簡単に壊れないシステムとは、1カ所ですべての情報を管理するのではなく、あつちこつちにコンピュータを置いて、ネットワークで結ぶ。それらがそれぞれ情報を発信・受信する。そうすれば、どこかが攻撃されても他のところはちゃんと機能するというわけですよ。

T江さんの話を聞いていた、某大電話会社にとめていた劇団員のSさんが、台本の印刷ミスの紙に怪しげな回路図を描きながら「その技術

は、コンピュータのネットワークだけでなく、いまでは電話網や電力網などあらゆるところで使われているのさ」と横やりを入れました。T江さんは最近思い切って、色を入れたばかりの髪の前髪の部分を気にしなから続けました。

いろいろなコンピュータをつなぐためには、それさえ守っていれば、だれでも、どこからでも、だれとでもつながるシステム・通信方法が必要で、その技術がARPAででき上がったわけです。やがて、研究者が集まって、アメリカの大学や研究所をむすぶ研究用のネットワークが形成されていきます。1982年になるとヨーロッパでも国家間の接続が可能となり、オランダ、デンマーク、スウェーデン、英国の間で接続されました。このように主に研究用として発達してきたインターネットは、

1987年には商用のネットワークも開設され、90年代になると商用のプロバイダーが次々に現れ、パソコン通信などと共に急激に普及していくことになりました。

発信される情報も、最初は文字をメールのような形で送ることが多かったわけですが、やがて1992年にはスイスのCERN（欧州原子核研究機構）というところで、WWW（ワールド・ワイド・ウェブ：世界中に張られたクモの巣状の網）と呼ばれるやり方が開発され、今日、私たちが見ることのできるホームページの作成の基本的な仕様とそれを閲覧できるソフト（ブラウザ）が登場してきたわけです。Aさんがいう「アメリカの覇権主義」なんてものではなく、インターネットは、もともとアメリカの軍事技術だったのです。

#### 劇団での利用方法

「それでは、通信の仕組みについて……」とT江さんが話を続けようとする、10分ほど前に稽古場に現れ、酔い覚ましをしているS子さんが、すこし呂律が回らない舌で言い放ちました。「そんなことより、うちの劇団で、無い金はないでパソコン買って何やるうって言うのよ。そんなことより足で稼ぐ学校公演オルグの方がどれだけ大事か。メール出してチケット1枚や2枚売ったって公演はできないのよ。赤字どうすんのよ」。

T江さんは、少しむっとしました。S子さんは、普段も、酒が入ると言わなくてもいいことを口にしては物議を醸しだしているのです。半年前だったらT江さんも、今の子どもたちの言葉で言えば「ウチラ、チョー、ムカツクウ」だったのですが、さ

すがにいまのT江さんは違う。「デジタル教え子T江さん」「IT革命」なのです。表情を和らげ、「じゃ、いま私たちが利用しているのを紹介するわね」とノートパソコンのスイッチを入れました。S子さんが鼻を鳴らしながら階下の自動販売機から缶コーヒースを仕入れてきたころには、画面にT江さんの写真が大写しにされていました。すかさずS子さんは「あら、T江このころ太ってたわね、いつの写真？」……デジタルカメラで昨日撮ったばかりの写真なのです。

#### (1) マイホームページ

さて、T江さんの写真が写っていたのは、実はT江さんのホームページ。前にも書いたとおり、T江さんは自分のホームページにこまめに公演の案内を載せています。公演の見どころや解説、チケットの入手方法

まであります。ちなみに「公演の見どころ」の多くは、全リ演事務局長の城谷さんの制作活動の著作からヒントを得たらしい。そして、毎日の稽古日誌まで公開しているのです。もちろん、本名は出ないにしろS子さんもそこに登場していることは疑いありません。

T江さんはあるプロバイダーと契約をし、自宅の電話からそのプロバイダーにアクセスしている。自分が作ったホームページのファイルをプロバイダーのコンピュータに送るだけで、だれでもそのファイルを（ページを）みることができるよう。ページの最後には「チケットのお申し込みはメールでどうぞ」と劇団のメールアドレスが書いてあります。もちろん、プライバシーを大事にするT江さんは、個人の情報、例えば電話番号や住所、生年月日などは悪用されるので絶対に書かないのだそうです。

#### (2) 劇団のホームページ

T江さんの所属する「劇団ななかまど（仮名）」は普通のプロバイダーではなく、ホームページのファイルを置いておくサーバだけを借りています。こうすると、1年間に1万円ほどですむというのです。ただし、この場合、作ったホームページを送るために、最初に電話をかけてインターネットにアクセスするのを、劇団員のボランティア（無償資金提供）や学校や会社のネットワーク資源に頼っているわけです。

劇団のホームページには

- 劇団の歴史
- 劇団の理念
- 劇団の特徴
- 過去の上演
- 今年度の活動

• 演劇関係リンク集

などが書き込まれています。もちろん、劇団員募集などもちゃんと書か



れています。学校にオルグに行った  
りすると、担当の先生がプリントア  
ウトしたA4の用紙を机の上にパサ  
ッと置いて「ああ、劇団ななかもど  
さんね。予めホームページを調べて  
おりました。いろんな学校で演って  
おられるんですね。」中学校の感  
想集は読み応えありました。うちの  
生徒たちもあれくらい書けたらいい  
んですが」と話、すぐ「商談」に入  
ることができました。

また、全く見知らぬ劇団から、「1  
982年頃、『はなさき山』をやっ  
ておられるんですが、これ朗読でし  
ようか、もし脚色され、台本になっ  
ていたら送っていただきたいです  
が」「狐とブドウ」やるんですが、  
ビデオか舞台写真ありますか」など  
と劇団のホームページを見ての問い  
合わせが来たりします。

「いま、ジャバ (Java: コンピユー  
タ・プログラミングの言語) を勉強

ならず観客にアンケートをとしま  
す。このときに、住所・氏名の他に  
メールアドレスを記入してもらって  
いるが、これらはすべて、T江さん  
の手によってマイクロソフト社のエ  
クセルに入力、データベースとして  
管理しています。どなたがどの舞台  
を見てくださっているかが一目でわ  
かります。

データを処理しているとき、夏の  
子供劇場などでは10年も舞台を見続  
けている人もいるので嬉しくなっ  
てしまう。こういうときは「続けるこ  
とも大切なのだな。また一つ勉強し  
た」とT江さんは思うのだそうであ  
ります。前回(その1)で書いたメー  
リングリストは、これら観客のメー  
ルアドレスを登録しておき、あるア  
ドレスに出すと全員に同じ内容で通  
知が行きます。これを利用して公演  
案内や劇団ニュースの発行を行うこ  
とができます。また、定期的に会報

しているので、座席予約システムを  
作って全り演の劇団に提供しようか  
しら」。T江さんの夢は次第に高い  
技術へと上り詰めようとしています。

### (3) 劇団員連絡用掲示板

劇団員の連絡用掲示板。このホー  
ムページを開くとメッセージを書く  
欄があって、書いた順に表示されて  
いく。運営委員会の報告、稽古への  
参加予定、スタッフの手配その他の  
個人のつぶやきまで書き込めます。  
このページは劇団員以外には公表し  
ないことになっており、また利用す  
る人を制限することもできます。劇  
団員は、忙しくあちこちを飛び回っ  
ているので、電話では対応できない  
ことでも、この掲示板では的確に処  
理できます。

### (4) 稽古スケジュールカレンダー インターネットのホームページ

を送ることもでき、切手代、封筒代、  
印刷代までが節約できます。

また、メーリングリストは意見交  
換の場としても用いられています。

全り演のメーリングリストは、  
zeniten@mia.nifty.ne.jp、比較的横  
断的な演劇活動家のメーリングリス  
ト backstage@mia.nifty.ne.jp な  
どがあります。これらのメーリング  
リストに自ら参加する場合は、それ  
ぞれ資格があることもあるので、一  
度加入申請のメールを出してみて下  
さい。管理者から折り返しメールが  
来るでしょう。

### (6) 劇作家Mさんの最新戯曲を公開

「劇団ななかもど」には声の大き  
い演出家と人気を二分する、努力派  
の劇作家Mさんがいます。新作を劇  
団員に発表する日、Mさんは夕方、  
自分の職場で人がいなくなったのを  
見計らって何部かをコピーしてきま

検索していくと、スケジュール表を  
無料でサービスしてくれるサイトが  
あります。T江さんは、さっそくこ  
のページを利用し、劇団のスケジ  
ュールや各スタッフのチーフにスケ  
ジュールが決まったらその都度、す  
ぐ書き入れてもらいました。今、ど  
のスタッフがどの段階にあるかが、  
だれでも見ることが出来ます。これ  
は舞台監督にとっては、ガチ袋とイ  
ンカム、雪駄に続く有用な道具であ  
ると、T江さんは思っています。

無料のメールサービスやこのよう  
なサービスは実はそのページに必ず  
貼り付けてある広告の収入で成り立  
っているのです。「ただほど高い物は  
ないんじゃないの？」と語尾を上げ  
なくても堂々と使うことができるの  
です。

### (5) 顧客名簿とメーリングリスト 劇団ななかもどは毎回の公演でか

す。

S子さんは「ちようだいしましよ」  
とコピーを真っ先に受け取りなが  
ら、くだんの態度で「待ってたけど、  
来ないから、帰ろうと思っていたの  
よ」と一言。見開きの登場人物の欄  
にさっと目を通しただけで、自分の  
やれそうな役がないのを見て取る  
と、「明日まで読ませてもらいます。  
やるかやらないかはそれからでも遅  
くないんじゃないの」と鞆にしまっ  
て帰ってしまふ。

渋い役をやるLさんは、試し読み  
がはじまると、とたんにペンケース  
から赤ペンを取りだし、「誤字脱字  
ばかりだなあ」と、いかにも独り  
言を装って、チクリと言う。さすが  
は私立高校事務員のベテラン役者  
だ、文法にもうるさい。

Mさんは心に汗をかいて、ト書き  
まで丁寧に読みあげなければならな  
い。一番辛いのは、声の大きい演出

家が、ちらっと読んだだけで「時代設定に無理があるんだよな。登場人物にも必然性がない。それにドラマの構造にうねりっていうものがないんだよなこの台本には……」などというものだから、それまで読んでいた他の劇団員も、目で台本を追うのをやめてしまうことがよくあること。

T江さんは、何とかこのMさんを一人前の劇作家に育てるためにインターネットを使ってできることはないかしらと考えたらしい。そしてMさんに相談して、インターネット上で新作を公開することにしたらしいのです。新作がでるたびにその台本をPDFファイル(異なった機種でも、だれでもドキュメントファイルが読めるように作られたファイルの一種)にして、ホームページで公開する。だれでもダウンロード(台本のファイルが置いてあるコンピュータ

から、それぞれのコンピュータへ、台本のファイルを送ること)して読むことができるようになりました。

こうした努力が実って、ちょうど5本目を公開したときになるでしょうか、よその劇団がはじめてMさんの作品を上演してくれました。上演料がわりに送られてきた果物とともに、Mさんはフルーティなインターネットの有用性を味わったのでした。

#### (7) 劇団活動の情報の収集

ホームページをあっちこっち探りながら劇団の活動に有用な情報をいち早く取り込んでいくのです。企業のメセナ情報(例えば <http://www.mecenat.or.jp/>)、助成財団リンク集(<http://www.jfc.or.jp/linkz/link.html>)など一度は見てみたいページもあります。文化庁(<http://www.bunka.go.jp/>)また、演劇学(例えば早稲田演劇博物館、[\[www.waseda.ac.jp/empaku/links/links.html\]\(http://www.waseda.ac.jp/empaku/links/links.html\)\)や他の劇団活動を調べることもできます\(例えば芸団協 <http://www.geidankyo.or.jp/>\)。](http://www.</a></p></div><div data-bbox=)

2000年夏、湯田で開かれた演劇フェスティバルの写真は <http://home3.highway.ne.jp/rne/photo/> でみることができます。

これら演劇活動に有用なページやページの検索方法については次回くわしくふれてみましょう。

と、ここまで一気に説明し終えたT江さんはどうだと言わんばかりにS子さんを見た。しかし当のS子さんは、すでに船を漕いでおり、T江さんの咳払い一つで、「私、タクシーで帰るわ」と出ていってしまいました。

ホームページのからくり

少し気落ちしたTさんに代わって

師匠のデジタル劇団員Aさんは、少し温かくなった生ビールを手に私たちがどんなしくみでホームページを見ているかを説明し始めました。

ホームページはHTMLという言葉で書かれる約束になっています。

HTMLはハイパー・テキスト・マークアップ言語、まあ翻訳すると「ただの文字やあらへん。大きさまえたり、色つけたり、絵さしこんだり、そもそも、いろんなことがよくできるように、かしくつくったことばや」……たとえば、「ようこそ劇団ななかまどのページへ」という1行だけの簡単なページなら図1のように書くわけです。実際には、背景がついたり、絵が張り付けてあったりしますが、ここでは説明を簡単にするため1行だけのメッセージのページを作ります。これを書くには、ワープロでも Windows についてい

るメモ帳や WordPad でも何でもいいわけで、ただし、保存するときにテキスト形式で index.html あるいは nantoka.htm という .htm ドット以下の拡張子(ファイルの性質を表す)をつけるのです。これでホームページはできあがり。簡単なものでももちろん、これを作る専用のアプリケーション・ソフトウェアもあるわけです。このファイルを Web ブラウザというソフト、たとえばお馴染みのマイクロソフト社のインターネットエクスプローラや、ネットスケープ社のネットスケープ・ナビゲータを使ってみると図2のように見えるわけです。

さて、だれもがこのホームページをみられるようにするためには、Web サーバという機能を持った、常にインターネットにつながったコンピュータが必要になります。たい

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Home Page of Theater Group Nannakamado</TITLE>
</HEAD>
<BODY>
ようこそ劇団ななかまどのホームページへ
</BODY>
</HTML>
```

図1 HTMLで書いたホームページの例

<\*\*\*>と</\*\*\*>で挟むと、挟まれた部分が\*\*\*という処理がされる。



図2 Webブラウザで見えるホームページ

る会社と契約して利用するか、あるいは会社や学校などでは独自のサーバを持っているところもあります。いずれにしてもそれらの指定された場所に、先ほど作った `nantoka.html` などというファイルを送り、置いておくわけです。

じゃ、他の人はどうやって、先ほどあなたが作ったホームページのおいてある場所をみつけ、そのファイルを読むのでしょうか。

まず、見たい人は、そのファイルの置いてある場所とホームページのファイル名 (URL: ユー・アール・エルと呼びます) をその人のコンピュータで動いている Web ブラウザに書き込みます。例えば `http://www.pokapoka.youkina.ne.jp/nantoka.html` と書くわけです。http とはインターネットでデータをやりとりする場合の手順を示しているわけで、こう書くとき「http」というデー

タのやりとりの手順で、`www.pokapoka.youkina.ne.jp` という場所にある `nantoka.html` という名のデータを送れ」と命令したことになります。

Web ブラウザはこの人の命令をインターネットに流します。ただし、少し面倒くさくいうと、コンピュータのアドレスは IP (アイピー) アドレスという数字 (例えば、192.168.0.1) で決められていますから、先ほど名前を書いたアドレスを数字の住所に直さなければなりません。へんな例えですが、「郵便番号しか使えない国で、住所を漢字で書いた」ようなものです。もっとも、この操作は人間がやらなくても、ネットワーク上のどこかにある DNS (デー・エス・エス) サーバという機械が自動的に教えてくれるので、安心して名前場所 (URL) を指定していいわけです。

さあ、Web ブラウザは教えてもらった IP アドレスで改めて「nantoka.html」をくれと要求を出し、それに相当する Web サーバがデータ (nantoka.html) を送ってくれるわけです。それを、Web ブラウズが解釈して図2のようにただの言葉だったものを目に見えるようにするわけです。

このような仕組みを使うと、世界中にデータが分散されておいても、でも、だれでも、どこからでもアクセスできることになっていくし、また、だれかの機械が壊れても、他の人は影響を受けずインターネットを利用できるわけです。

#### Aさんの杞憂?

すでにテレビなどで報道されているように、WWWの影響は計り知れないものがあります。酔った勢いのAさんに言わせると「パラダイム

のシフト」なのだそうである。これまで、権威とお金や設備がなければ情報の発信は難しかった。いまでは、もちろん山のようにジャンクはあるものの、だれもが情報の発信者になれるのです。だれもが、国家の奥深く眠っている情報を手に取ってみることができます。これはむしろ、NPOや全り演などのような団体にはきわめて有利な道具であるとAさんは力説します。だから、「ホームページ作ったんだけど注文が来ない」とか「ホームページを作ったんだけど劇団員が増えない」とか現世利益ばかり考えて、新しいメディアに躊躇すると、後で、大変なことになるはずと、このごろAさんは心配しているのです。

(注)本文中の仮名の劇団員等は架空のもので実在しません。

# 北から南から

## ● 劇団通信

〔劇団 海鳴り〕

こちらはようやく木々の緑が顔を出し、春らしくなってきましたが、桜の開花は過ぎになるでしょうか。

さて、7月7日「七夕」公演に向けて「ユタと不思議な仲間たち」が、ようやく役者全員が揃い、立ち稽古に入りました。今回は脚本が2月に手に入ったものの、物足りな部分もあり、全面的な脚色をし、最終稿が完成したのが4月の頭でした。若手団員の2人演出体制と、高校生2人を含む役者の半数が客演ということもあり、フレッシュな雰囲気の中、稽古が進んでおります。

5月の中旬には恒例の稽古場周辺の清掃兼、お花見飲み会を行い、パワフルな舞台を

目指そうと考えております。

4月の末に道演集の仲間が演じた「ユタ」を観たのも良い刺激になりました。それではまた。  
(五十嵐陽子)

〔劇団 新芸〕

今、新芸としての活動はできていません。4月28、29日の道演集の総会で団員が顔を合わせたきり例会がストップしています。小樽では、6月23日にユニーク・フリーク・シアター、7月1日に劇団うみねこの一般公演があり、そちらの賛助出演や、主メンバーの長期出張が入ってきて身動きがとれないことが起因です。が、来春めざして台本候補を読みまわっています。おもしろい本が3冊ほどありますが、いずれも単独では上演

できず、合同かまたは人材を借りてのことになるうかと思われまます。  
(宮津)

〔劇団 弘演〕

「弘演」はいつもだれかに守られているように思う。――作間雄二かな、青山司かな、あの人も、この人も――「弘演」が窮地に追い込まれると、必ず助け舟がやって来る。

10年間稽古場としてお借りしていた、アップルハウスから引越さなくてはいいけなくなり、新しい稽古場を探しあぐねていたところ、知人の紹介でやっと見つかった。しかも立派なフロアに鏡張りというところが稽古場だ。いつの時もギリギリのところでも乗り越えてきた。

でも悲しいこともある。創

立以来38年間、弘演の事務所をおかせてもらったたり、稽古をしたり、打ち上げの宴会場となりほんとお世話になった「喫茶ブラジル」が幕を閉めることとなった。「ブラジル」は弘演はもとより、弘前の文化の発祥地であった。

昨年、青山代表を失い、そして今また、弘演の拠点である「ブラジル」を失ってしまった。とても悲しいことなのだが、何か守護神が、「自分たちだけでやってこらん」「今が出発なんだよ」と言っている気がする。

5月19日(土) 劇団員・OB・団友・後援会の方々に、「喫茶ブラジル」とのお別れ会を開く。そして「ブラジル」に、「今まで、弘演を支えてくれてありがとう」「これか

らは新しい稽古場を拠点に頑張っていくます」と言おう。

(作間しのぶ)

〔黒石演劇研究会〕

夏も近づく今日この頃ですが、皆さんいかがお過ごしですか？

わが研究会は、会員の退会やら休会やらで、頭を痛める毎日が続いております。何せただでさえ会員不足なのに、1人は退会、1人は休会といった具合で。そんな状況で大ホール公演を決めてしまった私たちはやっぱり無謀？

さて私、先日、ある劇団のある芝居を見に行きました。非常にローカルで、涙あり笑ありの津軽弁オンリーの芝居でしたが、それだけに言葉遊びが多く、久しぶりに横っ腹が痛くなるくらい笑ってきました。津軽弁のみなので、地元の人でなければ95%理解できないと思いますが、それ

が私には逆に自然で新鮮でした。

毎回、どことなく硬い演技をしていた自分が、少し恥ずかしくなりました。芝居とは何か、また新たに思わされたような気がしました。

役者それぞれが見えたのです。自分も舞台の上で素になれたらなーとつくづく思います。逆に、永遠のテーマなかも知れません。

そんな芝居もあっていいと思いましたが、一度でいいからお客様が何も考えず笑える芝居してみたい、と思う今日この頃です。やっぱり芝居っていいな！  
(清野)

〔劇団 やませ〕

今年もまた北東風ヤマセに悩まされそうです。朝から晩まで海霧がかかり、寒い毎日が続いています。農家の方々も心配願です。

さて、劇団やませは……。

昨年上演した創立30周年記念作品「九戸政実」が、6月2日に政実の故郷二戸市で公演の運びとなりました。午前中は市内の全中学生に、夜は一般公演となっています。

この「九戸政実」、来年の2月に鑑賞団体である八戸市民劇場の例会にとの声もあるようで、なかなか政実から離れられないようです。

8月は稽古場公演。11月には本公演。今年は少しゆとりある活動と想っていたのですが、なかなかそうもいかないうです。

ヤマセによる冷夏が心配されるのですが、せめて劇団やませが温かい文化の風を吹かせることができればと思っている今日この頃です。

〔劇団 仙台小劇場〕

現在、「アートオブジエクト2001」と題する仙台市太白区の区民演劇をプロデ

ユースしています。区民から公募した題材が石垣によって「おらえの河童さ」「はしひめ物語」「赤石伝説」の3作品に創作されました。総勢50人が3つの班に分かれて稽古しています。劇団はその演出・指導とスタッフを受け持っています。12月には全メンバーによる一晩物の創作劇を予定しています。

しばらく劇団の稽古場を離れた練習が続きますので、連絡がとりにくいかと思いが、FAXなどでよろしくお願いたします。

(石垣政裕)

〔劇団 だいこん座〕

5月12日に松谷みよ子/原作・新屋英子/脚色・石川富志夫/演出「童の子太郎」を鶴岡市中央公民館ホールで公演しました。歌と踊りが太鼓と三味線の曲ということで、マスターするのには大変苦労し

ましたが、太鼓のグループの方に助けてもらいました。赤鬼、黒鬼、天狗、雪女、童などが出てくるので、衣裳、お面の工夫、音響、照明も効果をあげるために活躍しました。太郎役は新人の男の子だったので、声もよくとおつて期待はたえてくれました。

良い舞台をつくるには稽古のつきかさねが必要なのですが、結果が困難になっていきます。子どもたちのよろこぶ姿をみたくて児童劇を続けているのですが、演じる側にそのための情熱がなければ良い舞台は創れません。もう一度初心にかえって「なんのために芝居をやっているのか」みんなで話し合うことが大切です。今回の公演で3人の若者が加わってきました。うれしいことです。

#### 〔劇団 銅鑼〕

◆創造月間と称する銅鑼の勉

テージ。土くれにとつて井上作品は5作目、6作目の挑戦です。終戦間近の広島に、スミレの花のように咲いたすがすがしい人間群像を描きたいと思っっています。

(石塚)

#### 〔東京芸術座〕

驚異的支持率を誇る「小泉内閣」が出現し、国民の中に危なっかしい期待感を抱かせています。「小泉」の派手な言動とパフォーマンスをマスコミがこぞって持ち上げています。はるか昔によその国で、派手な身振りとおボラで、国民の心情をひきつけ、民族浄化の名のもとに他民族を大量殺戮したファシストがいますが、国民の8割の支持を得ていると言われる「ライオンヘア」なる人物に重ね合わせると背筋が寒く感じられます。

さて「新劇」は権力に組

強会は、必須課題でありながら公演活動などで持続しにくいレッスンを集中的に実施する時期のことです。毎年1月～3月の農閑期ならぬ演閑期を利用して演劇講座や研究発表会を企画してきましたが、今回は文化庁の「芸術団体の活動基盤整備事業」の補助事業により盛りだくさんのプログラムを組むことができました。鈴木瑞穂講座を皮切りにジャズダンス、沖縄舞踊、狂言、太鼓、ゴスペル、ヴォイストレーニングの習い貯めに劇団員は大忙し。

なかでも特筆はレオニード・アシモフ氏を迎えたスタニスラフスキー・システムのワークショップです。俳優必修のこのシステムは小山内薫、久保菜、千田是也をはじめ優れた先人の研鑽努力にもかかわらず、実践面でなかなか定着できず今日に至りませんでした。定着できなかったがため

に「スタ・システムは古い」などと片づけてしまった傾向も否めません。そんな現状はとて、とても残念なことだったと、無知の悲しさを思い知らされました。

アシモフ氏はヨーロッパでもアメリカでもスタ・システムの種を蒔き育て、日本でも始めています。受講の機会があればぜひおすすすめです。

◆学校公演「センボ・スキハラ」は今年も5月から巡演が始まりました。なお9月にはポーランド公演も決まりました。「らぶそんぐ」(大峰順二)作、玉野井直樹/演出は6月から巡演です。

◆「秋田殺人事件」(内田康夫)作・平石耕一/脚色、演出)は8月20日～26日まで銅鑼稽古場で上演します。これは昨年の「序章」「藍色回廊殺人事件」についてドラマフアクトリー Vol.3 の企画です。(菊地佐玖子)

川信廣/演出)は長野県北信地区の公演。

【NEWS NEWS】は熊井啓監督の映画「日本の黒い霧「冤罪」」の原作で平石耕一作品。この作品は松本サリン事件を題材にしたもので、99年に立ち上げ中信地区を巡演しました。この6月20日～24日に俳優座劇場(六本木)で東京公演を行います。夏場恒例の「あの日は」(乾一雄)構成・山口みる/演出)は、語りつぐ戦争体験のオムニバスで7月20日福島市で。

2001年第29回、夏休み児童青少年演劇フェスティバルに「12人の怒れる男たち」が参加、7月27日(金)東京都児童会館(渋谷)。(郡司)

〔京浜協同劇団〕  
藤田傳/作・内田勉/演出の「とりあえずの死」を4月

#### 〔演劇集団 土くれ〕

創立34年、第49回公演は、当初予定していた永井愛作品の上演許可が下りず、悪戦苦闘の末、同氏の「時の物置」に変更。若手学生役の客演を含め16人の登場人物が一九とあって、稽古期間4カ月という厳しい条件を克服、10月19日～21日の4ステージの公演を終えました。会場の麻布区民センターに702人の観客を集めほぼ満杯でした。

舞台成果は、20歳代前半の観客から「流されて生きている」と反省しています。というアンケートをいただくなど概ね好評でした。とりわけ多目的ホールに建てた舞台が好評、その雰囲気を感じられる写真をお送りします。

さて、創立35年第50回の節目の舞台は、一昨年アタックして振られた、井上ひさし/作「紙屋町さくらホテル」です。10月11日から13日の4ス

に稽古場の「スペース京浜」で11ステージ上演しました。

「日本兼民伝」というサブタイトルがついているこの作品は、満蒙開拓団として中国に渡った人々のうち、中国に残された婦人のことを題材にしたものです。重いテーマでしたが、別項劇評にもあるようにかなり好評で、「京浜らしい舞台」との評価が多く、若い人たちが喜んでくれたのもうれしいことでした。

次は、川崎市など行政側主催の「かわさき演劇まつり」で、川崎演劇塾などとともに合同公演をやりまします。出し物は、いずみ凛/脚本の「ふたごのバツタ ロルトとギー」で、団のぼるの演出。8月4日(土)、5日(日)、川崎・多摩市民館で3ステージ。公募の子どもたちや大人のサポーターなども加わって、60人くらいの規模になります。30回目という節目なので、市の委

託金100万円(年間)を2年分(200万円)充てるほか、入場料ももらって2200人の観客目標をかかげます。

秋には、北海道で注目の渋谷健一さんの作品で、劇団湖(うみ)が上演して好評を博した『冬の提灯』を瀬谷やほ子の演出で11月に行います。

劇団員城谷護は腹話術『ゴローちゃん』でこの春プロデビュール。早くも九州・普賢岳、北海道・奥尻島などへ飛んでいます。

#### 〔劇団 やまなみ〕

定期総会を4月22日(日)に町営の温泉「百楽泉」で開催しました。2000年度の劇団活動を振り返ると、けっこう精力的に公演をやってきたな。2月20日都留市「鉄道員(ぼっばや)」原作/浅田次郎・脚本/山本忠利・演出/梅津幸三 7月23日文学

館ホール「ザ・ニッポン株式会社」作/河野通方・演出/梅津幸三 11月4日長坂町「異聞女取川哀話」作・演出/河野通方、「山姥」「屁たれ嫁コ」語り:梅津幸三、「白旗の少女」語り:坂本英子

11月24日大泉村「雪娘」一人芝居:梅津幸三 2001年2月3日文化ホール3月24日、須王町・ふれあい館「あ・し・た」「山姥」「屁たれ嫁子」「白旗の少女」と駆け足で通り過ぎた1年のような気がします。

もう少し充電期間があってもいいかもしれない:「さわやかな舞台を観せてもらいました」なんて感想をもらうと、また、がんばってしまおう芝居馬鹿:若い劇団員が増え、そのエネルギーにおおたしている経験豊かな? 劇団員。しかし、最近、観客動員数が下降きみ。足腰が弱くなったのか。良い芝居を情熱

をもって創ること、お客さんを増やすこと。芝居づくりとは何かと総会の中心はまさにこの点の論議に集中しまし



た。こうふ演劇祭参加「ピアニヤン」9月15日は2ステージとも会場一杯のお客さんを迎えて開幕しよう!で、総会終了後、みんなで温泉にはいい日頃の疲れを癒しました。(小代田)

#### 〔劇団 静芸〕

2月に静岡ファミリー小劇場(市委託公演)さねとうあきら/作「おこんじょうるり」公演を好評のうちに終わり、今、6月10日(日)静岡市文化祭での松田正隆/作・伊藤幸夫/演出「紙屋悦子の青春」公演の稽古にとりこんでいる。残業、出張、研修など、稽古場に集中することも大変な中で、何人か応援をえて厳しい状況での稽古である。

そういえば、この作品の舞台になる、鹿児島の出水航空隊に劇団創設者の山崎欣太氏が、第14期(作品は13期)の海軍飛行学生として訓練を受

け、特攻隊員として出撃寸前に敗戦を迎えたところであった。多くの生々しい心情などを教えていただき、胸のつまる思いの中で稽古をしている。

この公演が終わると、11月24、25日(清水市民文化会館)の「巴川界限」(小島真木/作)の清水公演にとりくむことになっている。(山崎三郎)

#### 〔劇団 川崎演劇塾〕

去年の6月に、「たとえれば星のかけらもうひとつの銀河鉄道」(神崎あゆみ/作)を上演しました。新人たちによつては、初デビューとなる舞台で、劇団のそれぞれが力を出し合い、お互いが、星のかけら。なんだと思えるような芝居づくりでした。素敵な宮沢賢治の世界を観客と一緒に役者、スタッフも楽しむことができました。

恒例の幼稚園公演では、他の学校からも公演してほしいとお呼びがかかり、劇団内ではうれしい悲鳴があがっています。去年の9月には養護学校の体育館を使って「きばのないおおかみ」(鈴木広計/原作)を上演しました。広い体育館のはじからはじめてを使って駆け回り、子どもたちをまきこむほどの元気な舞台で、でもほろっとさせるところもある良いお芝居でした。

今年の2月に行われた幼稚園公演では、「泣いた赤鬼」(浜田こう介/原作)で新人を主役に起用して挑戦しました。子どもたちにも赤鬼と青鬼との友情が伝わったようでした。この舞台では、人間を使った影絵を取り入れるなど、新しい見せ方にも挑戦しました。

去年から今年にかけて、他劇団との合同公演が続いています。

去年の11月、神奈川県演劇連盟40周年記念・合同公演「西遊記」。来る8月、第30回記念公演、かわさき演劇まつり「ふたこのパッタロールとギー」。

合同公演は、他劇団と一緒にに行くことで、新しい出会い、新しい刺激、新しい芝居感が生まれる場所でした。「西遊記」では、舞台を支えてくれるスタッフが皆プロという、幸せすぎるくらい環境で演出の加藤直氏からたくさんの影響を受けてきました。そして、初めての語り芝居を経験しいろいろな発見、驚き、感心、刺激:にもまれた公演でした。まさに皆が、旅の道半ばにいました。

そして今、夏に行われる第30回記念公演、かわさき演劇まつり「ふたこのパッタロールとギー」の公演に向けて稽古の真っ最中です。サポーターの方や子どもたちも出演

とあって、また新しい環境の中で始まっています。今回はミュージカルとあって歌と踊りの稽古も入り、内容は盛りだくさんです。皆の気合は十分! 楽しくて感動的な舞台を二期待ください。(小川千枝)

#### 〔劇団 蒼生樹〕

劇団員濱田綱子が昨年7月27日、志半ばにして夭逝してから早いもので1年が過ぎようとしています。しかし、いまだに稽古場に彼女が、ひよっこりと顔を出してくれそうな気がしています。

彼女から私たちは、多くの仲間がひとつになって芝居を創りあげる大切さと楽しさを教わってきたような気がしています。そんな彼女の気持ちを引き継ぎ大事にしていこうと、これまで劇団創立以降、彼女とともに芝居を創ってきた旧劇団員や仲間に参加協力

をお願いして追悼公演をおこなうこととなりました。

作品は、昨年の岩手県湯田町での演劇フェスティバルで劇団大阪によって上演された『そしてあなたに逢えた』です。

彼女に笑われないよう、参加者全員で頑張っています。是非、大勢の皆様にご覧いただきたいと思っています。

演田絹子追悼公演  
(平丸)

【そして あなたに逢えた】  
(近石綾子/作・演田重行/演出)

7月13日(金) 午後7時  
7月14日(土) 午後2・6時  
7月15日(日) 午後2時  
横浜市教育文化ホール

【劇団 R-IN】

6月9日(土) 静岡市市民文化会館中ホールにて、葉書エイズを題材にした『平成純情伝』を公演予定。6月28日

9月8日(土)  
太白文化小劇場

9月22日(土)  
南文化小劇場

かつて全り演でもたびたび上演されたレバですが、名芸なりの舞台上に仕上げたいと思います。

並行して、在名の反核・平和文化団体や医師の会ほか多くの人たちが協力して行う「グローバル・ピース・フェスティバル2001」にバックアップ参加します。栗木/作『神話』(演出/木崎裕次)も上演されますが、催し全体は世界へ発信するユニークな中身なのでご覧いただければ幸いです。

8月4・5日

名古屋市公会堂と鶴舞公園  
それから秋は、名古屋市文化振興事業団公募戯曲の入選作品『合縁奇縁』(作/千葉茂・演出/加藤雄二)を上演します。中部ブロックの活動

(木) メディア百人劇場にて、一人芝居『いざなぎの女』公演予定。

仕事のノルマがきつくて公演に出られない劇団員や、仕事のストレスで自律神経失調症になって仕事も劇団も辞めなくてはいけない劇団員など、最近の社会の厳しさが劇団にも影響が出てきた。と同時に、若い人の、きついことはやりたくない、笑って稽古したいという傾向が強くなっている。

創立14年にして、劇団のあり方の変更を余儀なくされる状況になってきた。そろそろ腹をくくって、時代遅れの古くさい劇団といわれてもいいから、自分たちの信じる演劇のあり方を貫いて討ち死にする道を選ばずか。アマチュア演劇を取り巻く厳しい状況は変わらないが、若者に迎合したレベルの低い芝居もしたくない。ねばり強く芝居をつ

報告や劇評が少ないと指摘されていますので、今後協力して誌面へ反映していくようがんばります。よろしく。  
(栗木英章)

【名古屋演劇集団】

4月に劇団演集プロデュース、テアトロ5公演「ONとOFFのセレナーデ」(古城十忍/作・狩野恭光/演出)を打ち上げました。これは、劇団演集の若手を中心とした公演でした。4月といえばちょうど桜が満開、新人公演と呼ぶにはピッタリのものでした。

さて、今号が発刊される頃は夏真っ盛りだと思えますが、演集の次回公演は秋の予定です。

作品未定

11月2日、4日  
名古屋市西文化小劇場  
公演へ向けての活動だけでなく、新人教育等もやってい

くるのは古い劇団にまかせて、ここは一丁気持ちよく筋を通すのも悪くない。

まっ、しかし、尻すぼみの公演では格好悪いし負け犬みたいでこちらにも意地がある。レベルの高い芝居を一回は成功させてから考えることにしよう。全国のリアリズム演劇会議に参加している劇団の方々には、最後まで頑張ってください。 (中村和光)

【劇団 からっかぜ】

劇団からっかぜです。ようやく今期の上演計画が決まりました。上演作品は、さねとうあきら/原作『おこんじょうるり』、演出/布施佐一郎です。

【公演日程】

●アトリエ公演  
10月6日(土) 19時  
7日(日) 14時・19時  
●市の芸術祭公演  
11月中旬〜12月初旬に予定

かねばなりません。団員数が増えるというのはうれしいこととです。新しい風がスーッと入ってきたような心地よさがあります。やがて新旋風を巻き起こし、熱となり、劇団が、演劇会が活気づくことを願っています。 (磯谷 誠)

【劇団 はぐるま】

『鉄道員(ぽっぽや)』が終了しました。19ステージで1454人のお客様に見ていただくことができました。目標はもうちょっと高かったのですが、満席になったステージもいくつかあり、来ていただいたお客様には、満足していただけたと思っています。

幕開きはキハ12の走行シーンから始まります。道具部のこだわりで、本物そっくりのちよっと小さな運転台を作りました。走行中やブレーキ時には小刻みに揺れるように工夫してあります。手をかけれ

●移動公演 11月〜12月の間で3カ所予定。

観客動員目標は12000人です。前期も目標を達成したので、今期も目標を達成させたいと思っています。 (飯島けい子)

【劇団 名芸】

5月18・19日、シェイクスピア『十二夜』(脚本/栗木・演出/佐野秀明)上演を終えたばかりで、打上げ二日酔い状態にてこの通信を記しています。

苦手な喜劇への挑戦で役者一同苦労しましたが、3ステージ642人のお客様にますます楽しんでいただき、ホッとしています。

一息つく間もなく、これからは恒例の子ども劇場へ向かいます。

【十一びきのネコ】  
脚本/井上ひさし  
演出/近藤亜由美

ばもっと本物っぽくできたんでしようけれど、冒頭での雰囲気づくりには充分だったと思います。あと、雪マシーンも購入したのですが、狭い御浪町ホールでは音が大きすぎてボツになりました。今度大きな舞台で使ってみたいものです。

この芝居での問題はもうひとつあって、ダブルキャストが4組あったこと。3週間のロングランであることや、舞台を踏むチャンスを広げ、お互いに刺激になるだろうところだったので、それを受ける方は人の2倍稽古しなければなりません。娘の雪子がダブルだった乙松(三島幸司)と、若い運転士がダブルだった仙次(松渡治郎)。相手が違えばタイミングも受け方も変わってきます。見ている方は楽しいけれど、当人たちは大変だったようです。次回公演は、夏のミュージ

カル劇場です。

原作/E・Fアージョン・脚本/こばやしひろし・演出/波田正子で、『魔ノ森の黒鬼と銀のシギ』を7月20日から3日間5ステージ上演します。14年ぶりの再演です。

大がかりな舞台転換も多く、また登場人物も多いため、舞台監督、演出の苦労もたくさんありますが、毎年楽しみにしていただく子どもたちのため、その親のために、楽しい舞台をつくり上げたいと頑張っています。会場は岐阜市民会館。キャバからいけば、8000枚のチケットを売り上げたいところですが、最低でも5000枚はさばいて、たくさんのお客さんに見てほしいと思っています。

9月3、4、5日には、岐阜市民創作劇「信長 本能寺への道」の本番があります。作・演出はこばやしひろし。信長シリーズ4作目です。長

良川国際会議場の前庭にステージを作り、金華山、岐阜城をバックにした野外劇です。邦楽を含めたオーケストラ、合唱を中心にして、日舞、洋舞、演劇各部門が参加する大がかりなものです。この顔合わせが先日よりありますが、

4度目ともなると知った顔も多く、なごやかなうちに結団式を行いました。ただ、演劇部門の中心となるべきはぐるまが夏の公演を抱えていますので、6月1、2日の本読み以後は変則スケジュールで対応していくことになりました。はぐるまのホームページ、のぞいてみた方いらっしゃるかでしょうか。長いこと更新できずにいましたが、この原稿を書いている時点でかなり新しいものに差し替えました。自慢できるものでもありませんが一度遊びに来てください。

<http://www.ocn.ne.jp/~kaguruma/>  
(内田 薫)

〔劇団 夜明け〕

創立45周年記念公演第1弾、50回目の定期公演、21回目の小劇場公演 井上ひさし/作・鈴木弘文/演出「闇に咲く花―愛敬神社稲荷物語」4/19〜22 5ステージ 549人。

あなたはホットするところありますか? 劇場が、稽古場が、そういうところになるように、いい公演、いい稽古を続けること。45年間続けて来れたことを、中津川の人たちに感謝したい。

99年秋の国民文化祭で学んだことが、その後の1公演、1公演で繰り返され、少しずつ身についてきた感じがする。このことが確認された5月12、13日の劇団総会だった。そして50周年までの5年間、具体的な目標を掲げ歩いて行くこと。

次の公演は秋。稽古場での長期公演。夏は中津川の地域

の人たちと二つの舞台を創る。(鈴木弘文)

〔劇団上野市民劇場〕

5月の伊賀盆地は、まわり山々も植えつけの終わったたんぽも眩しいばかりの緑一色ですが、5月19〜20日に劇団創立50周年記念公演第1弾「芭蕉翁桃青―その内なる枯野から」を無事終えることができました。

この公演は、7年前に国民文化祭みえて県下の劇団の合同公演「蝶の宴」の作者島田九輔さんが私たちの記念公演のために書き下ろしてくださったもので、劇団歴40年の福北辨の一人語りによるものでした。芭蕉の生誕地でもあり前評判もよく、3回公演とも満席で1時間30分の熱演は大好評のうちに幕を閉じ、遠くは岡崎、名古屋、岐阜から仲間の皆さんにもお出でいただきましたこと、誌上にてお礼

申し上げます。

ひきつづき6月3日は記念祝賀会を催します。50年という大きな節目にあたり次世代がしっかり受けとめて新たな一歩を踏み出せる意義深い催しになるよう願っています。

次回公演は、記念公演第2弾「忍びの者」(村山知義/作・杉森正美/演出) 9月30日上野市民文化会館です。伊賀の里へのお越しをお待ちしております。(大東)

〔劇団 すがお〕

第63回公演―ななわ小劇場、飯島早苗/作・石垣正司/演出、「餓爛とか爛漫とか」6月15日〜17日、5ステージ。

先の公演が女3人芝居、今度は女4人芝居で勝負です。現在の劇団すがおは、女上位(?)時代で、女性が頑張っています。男は実働3人しかおらず寂しい状況です。そこでどうしても女性中心の芝居

にならざるを得ません。

創立40周年の記念事業の一環として上演します。評判のいいアトリエ(ななわ小劇場)での公演です。いつもは4ステージで、押し合いへし合いの状況で、今回初めて1ステージを増やして5ステージ公演としました。

秋公演は、名芸の栗木英章さんに依頼して創作劇を予定、テーマは「男女共同参画」です。三重県からの依頼公演を県下の3劇団で、17会場を手分けして公演します。第一稿も上がって、ただ今公演企画の調整中です。(加藤武夫)

〔劇団 たけぶえ〕

近くて遠い国といわれる日本と韓国、その複雑で悲しい過去を引き受けた両国の若者たちは、今をどう生きればいいのか…。そうしたテーマで合同公演ができないか、と3

月17日から20日にかけて、韓国から「劇団馬山」の李代表を武生にお招きして相談をいたしました。時機に合った企画ということでも新聞などで大きく報道されました。

3年後を目指してワークショップやシンポジウムそれぞれお互いの公演への参加など交流を深めながら実現に向けて作業を進めていくのですが、ただ演劇を創るだけではなく、その過程で武生・馬山両市の政治家や芸術家、そして多くの一般市民を巻き込みながら21世紀における日韓関係の新しい姿を探っていくことを合意しました。そして2回目の会談として5月19〜22日、馬山国際演劇祭に合わせ代表・柴野が韓国に赴きました。

そうした中で4月25・26日には、日本近代一幕劇撰「黄楊の櫛」(作/岡田八千代)「息子」(作/小山内薫)を上演

いたしました。

この試みは昨年が続いて2回目なのですが、今回も熱心な人々に支えられて好評に終えることができました。ただ稽古の段階から団員の中で戸惑いがあった「黄楊の櫛」には全体に不評の声が聞かされました。時代を超えた作品に現代の視点で挑もうとするときの問題を指摘されたのだと思います。これからこのシリーズを続けていく上での一つの課題だと考えています。

引き続き5月からは「市民劇場」が始まりました。今年「結城(松平)秀康越前入国400年」ということで福井ではいろんなイベントが行われていますが、越前藩の付家老として同じく府中(武生)に入った本多富正を題材にした作品に取り組みます。

94年に1年間郷土紙に連載された小説で(作者は武生在住)、二代藩主松平忠直をめぐ



ぐって越前藩取りつぶしを謀る幕府に抗する晩年の富正の苦悩を描きます。

目下、作者自らが脚色に取り組んでおります。

◇公演予定

「水仙は見ていた」作／馬田昌保・演出／柴野千栄雄  
11月11日、午後2時、武生市文化センター大ホール

(柴野)

〔劇団 京芸〕

皆さんこんにちは。ただいま京芸は学校公演で走り廻っています。若手にとっては血と汗と涙の日々、中堅の間人には練磨と向上の日々であります。「そうべえまっくら」のけ」と「GO TO WREST」の2作品で、全国小中学校、おやこ・子ども劇場を薦進中——なのです。あいかわらず劇団財政は苦しい感じがします。「貧乏ひま無し」とはこのことか。でもひ

まがあった方がもっと貧乏にちがいないので、忙しさに負けず頑張って良い芝居を創りたいです。……ってことで新作「さよなら竜馬」をドカーンとやります。現在着々と計画進行中。

——時は幕末、京都のとあるお寺にいわゆる「幕末の志士」の卵たちが集います。志士は高いけれど何をすればいいのかわからない彼ら。間違ったり迷ったり泣き言を言った。坂本竜馬をめぐって若者たちが立ち上がる。「信じるものがあるだろうか？ だれかのせいにしていないか？」寺田屋騒動のその夜、彼らは自分たちの生きる道を見つけられるでしょうか？——現代の若者にぜひ観てもらいたい作品です。観て、元氣になったらいいなあと思っております。

9月14日(金)15日(祝)

・京都呉竹文化センターにて

上演いたします。皆様、どうぞお楽しみに。(赤土)

〔劇団 未来〕

2001年2月16〜18日大阪新劇協プロデュース・大阪自演連合同公演、清水巖／作「1995こへべ曼陀羅」(エルシアター)公演では森本景文／演出をはじめ劇団未来ほか7劇団(関西芸術座・劇団息吹・劇団大阪・大阪府職員演劇研究会・劇団きづがわ・座わだち・劇団生駒)の総力を挙げての取り組みとなり、お陰をもちまして大成功に終わりました。ありがとうございます。

さて、劇団未来では第55回公演として、砂本量・真柴あずき／作・森本景文／演出により「郵便配達夫の恋」を上演いたします。社会的な素材やテーマに頼らずに、人間の「良さ」をどう描きだせるか。さらに、今回は単なる

ダブルキャストではなく、「あかり」役を歌手(原作)の場合(肉戸恵美)と声優(潤色)の場合(三原和枝)の2本立てにして挑戦しています。

今、劇団未来は、植田、藤岡、平尾、植木、金沢などのベテラン陣がいろいろなこと、第一線からはずれていますが、大変心細い状態ですが、中堅・若手の頑張り来年度の劇団創立40周年を意気高く迎えるためにどうしたらよいかについて苦悩しています。皆様の暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

6月15日(金)7時  
16日(土)2時、7時  
17日(日)2時

森ノ宮 プラネットホール (西尾臣示)

〔劇団 コーロ〕

夏の公演予定です。  
8月7日(火)午前10時、午後2時(予定)

01年吹田市民平和のつどい

「カモメに飛ぶことを教えた猫」ルイス・セプルベタ／作、玉野井直樹／演出、主催 吹田メイシアター

8月19日(日)午後1時

「だれが石を投げたのか？」ミリアム・プレスラー／作、ふじたあさや／演出、吹田メイシアター(吹田演劇祭として)

9月1日(土)2日(日)時間未定

「わいとま、ぎやあいうとたたききると」森田博／作、村上嘉利、谷町劇場

〔劇団 きづがわ〕

春の公演「月光の夏―挽歌―」(6月9、10日)クレオ大阪西)の再演まであと3週間余り。ケイコをすればするほど、発見があって楽しいのですが、自分たちの非力さに焦りも生まれます。公演成功のために「成功させる会」をつく

り、関大名誉教授の鱈坂真先生や、勤労協の中田進先生など、たくさんの方たちに協力していただいております。先日(5/14)は、「公開ケイコと学習のつどい」を成功させ、普及の取り組みのピッチがあがってきています。

日本国憲法のすばらしさ、それを押しつぶそうとする改憲の企み——その危険な流れの中で、私たちに何ができるのか？——自分に問いながら、残り3週間を駆け抜けたかと思っております。ぜひ多くの方に観ていただきたい作品です。来てくださーい！

(Y)

〔劇団 大阪〕

新劇協・自演連合同公演「1995 こへべ曼陀羅」が終わり、3月2〜4日総会を開催、30周年第1次企画を決定しました。  
★5月24〜27日 プロデュー

ス公演

「ゴビ砂漠殺人事件―例外と原則―」

作／B・プレヒト・翻訳／市川明・演出／堀江ひろゆき

谷町劇場

★7月7日 八尾市文化振興事業団企画

「そして、あなたに逢えた」作／近石綾子・演出／熊本一八尾プリズムホール(小ホール)

★10月11〜14、18〜21日

第53回本公演

「浪華―揆大塩乱始末」

作／井上満寿夫・演出／熊本一

谷町劇場

★2月22〜24日 新劇協プロデュース・劇団大阪企画

「大転換」(仮題)

作／井上満寿夫・演出／熊本一

近鉄劇場

「ゴビ砂漠……」は「プレヒト劇場」と名付けて幕間にビール、ワイン、酒等ワンドリンクサービス付き。役者が

ウェイター・ウェイトレスに変身します。

「そして……」は買い取り公演。4回目の再演となります。

「浪華……」は28年前、第3回本公演として闘争中の大映映画労組の協力を得て、初の本格時代劇に挑戦した作品の再演です。ただし、今回は谷町劇場という狭い空間での公演ですから、演出をはじめスタッフの力量が大いに期待されると思います。

「大転換」は劇団発足当時から追求してきた「銀行シリーズ」の一連の作品で、時あたかも金融再編の真っ只中、今の時代にふさわしい作品になる予定です。

忘れていました、劇団の杉本進と伊藤節子が4月13〜15日「ヒロシマのマチエール」(広島友好／作・栗田満右・演出／素(す)の会プロデューサー)を上演しました。作者の広島氏も山口から駆けつけて

いただき、厳しい意見をいただいたようです。しかし、杉本が一人で企画、制作をこなしながらの出演と大奮闘でした。

#### 〔劇団 潮流〕

2001年になってはや6カ月、忙しい毎日です。公演班は木村玩/作・池下雅子/演出「ぼくらのふしぎな七日間」(小学校、中学校、親子劇場対象)、吉永仁郎/作・藤本栄治/演出「大江山妖鬼伝説」(中学、高校、一般)、水上勉/作・藤本栄治/演出「あひるの靴」(高校、一般)の3作品が作り替え、稽古をかさねて移動公演をはじめていきます。作品によっては4月からほとんど休みなしの班もあり、少々疲れ気味ながら観客の皆さんに支えられて公演を続けています。

また秋の一般公演は清水邦夫/作・藤本栄治/演出「弟

よ」を9月6日から7日まで大阪梅田HEP HALLにて上演します。劇団にとって初めての清水作品です。坂本龍馬の姉乙女を中心に龍馬暗殺後、残された家族、友人、恋人など龍馬をとりまいた人々が迷走、奔走する様を通して死後もなお人々の心をとらえて離さない維新の傑物の姿を清水邦夫独特のユニークな視点で描きます。今から稽古にはいるのが楽しみです。どうかご期待ください。

(堂崎茂男)

#### 〔関西芸術座〕

初めまして梶山文哉といえます。今年で入団して5年になりました。キャッチフレーズは、ちよっぴり笑顔がかわいいう27歳です(自称)。今年の3月まで、あの知る人ぞ知る「遙かなる甲子園」という舞台を3年間やっています。このお芝居は、4月にキ

ヤストがリニューアルされ、現在も各地で上演しております。

僕は、今年の9月5日(水)9日(日)に劇団のスタジオで上演される「ピートキッズ」というお芝居に出演します。この作品も前と同じく巡演作品です。ドラマをメインとした、中学校のクラスバンド部のお話で、主人公(僕!!)の家庭の問題や生徒たちの友情を扱った作品です。原作は風野潮さん、脚本は斎藤樹実子さん、演出は文学座の高瀬久男さんにお願ひしています。皆さんに生演奏をお聞かせできるようにと生徒役の役者は去年の10月から楽器を猛特訓中です。僕も両手、右足が腱鞘炎になりながらも日々ドラマの稽古に励んでいます。劇団にとっても僕にとっても、とても大事な芝居になります。今までの経験を生かし、さらに上を目指して芝居

をつかっていきたいと思いを

それと劇団では、クリスマス公演と題し、12月22日(土)、23日(日)の2日間、同じくスタジオで「宇宙のみなしこ」を上演します。中学生の日常の悩みやいじめの問題などをとらえ、その中から前に進んでいこうとする中学生達を描いており、巡演3年目を迎え、各地で好評を得ている作品です。原作は森絵都さん、脚色は井上登紀子さん、演出は劇団の演出家、松本昇三です。

最後に、5月16日(水)9日(日)までスタジオで行われた「わりかん」が盛況のうちに千秋楽を迎えることができました。お越しいただいた皆さん、本当にありがとうございました。さらなる飛躍を目指し関西芸術座はこれからも走り続けます。(梶山文哉)

#### 〔劇団 かすがい〕

さわやかな良い気候になってきました。そして、だんだんと夏に近づきつつあるのが感じられるほど、稽古場はヒートアップしています!! それは、太陽の熱さだけではありません。現在、6月17日の尼崎ピッコロシアターでの公演に向けて、今回も数名の助っ人役者さんたちに加わってもらい、熱のこもった稽古の真っ最中だからです。

上演するのは「ピアニヤン」慣れない歌やダンス、そして博多弁に苦勞しつつも、皆楽しんで稽古をしているので、きっと観客の皆さんにも楽しんでもらえるものができると思っています。助っ人役者さんの中から1人でも団員になってくれる人が現ればまたうれいのですが!! 稽古の合間には、講師2人を招いての狂言教室も開催しました。実際に狂言を演じる

ことから教えてもらい、あまり馴染みのなかった古典芸能の魅力に触れることができました。一般参加者の方たちが一所懸命に演じているのに混じって、団員も一緒に学び、狂言だけに限らず、広い意味で演じるということの楽しさを再認識しました。さて、6月の公演が終われば、次は10月9日11月の3週間にわたって行う稽古場公演に向けて始動する予定です。(松下芳美)

#### 〔神戸職演連〕

こんにちは、神戸職演連です。今後の活動予定についてご報告します。9月22日に兵庫県立文化体育館にて国鉄演劇祭を開催いたします。もともと神戸職演連は国鉄や神戸税関、全損保などの各職場にあった演劇部が集まってひとつのサークルとなった経緯があり、各地の

国鉄演劇部が合同で開催する演劇祭を全面的にバックアップしております。以前は、新潟、神戸、岡山、米子、松山の国鉄演劇部が集まり、毎年1回、演劇祭を行っていましたが、現在は神戸、岡山のみ参加で2、3年に一度のペースでの開催となり、今年には神戸で行います。

本公演としては、来年の1月26、27日に神戸アートビレッジセンターにて第52回公演「銀色の狂騒曲」(作/高橋正樹)を上演いたします。職演連では、以前に高橋正樹さんの「遺産ラプソディ」を上演しましたが、高橋作品にはどこかわたしたちの持ち味と通じるところがあり、どんな舞台になるかとても楽しみです。今回はキャストが12人と多人数ですが、飲み会やお花見などで培った(?)日頃のチームワークを活かし、稽古に励んでいきたいと思いま

す。今後とも神戸職演連をよろしくお願ひします。(衣笠奈緒美)

#### 〔劇団 四紀会〕

皆さん、お元気ででしょうか。新世紀が幕を開け、新政権も発足した2001年。この原稿が紙面に掲載されるころにはその政界地図もどうなっておりますことやら、まさに「事実は小説よりも奇なり」ならず「演劇よりも奇なり」というところでしょうか。などと私たち創造者が、評論家になってはいけませんね。本題に入ります。

111回公演「風にのれ、ブッピー」、4月8日をもって5カ所6ステージを無事終えることができました。集客では残念ながら、昨年と同じ家族劇場公演に格段の差がついてしまいました。逆に作品としては、ずっと好評だっ

たこともあり、来年の数字に結び付けていかねばと思っております。

この公演の合間をぬって、定例総会を開催。創造・普及・組織の各方面から、様々な問題について議論が交わされました。

5月には、有志による稽古場発表会「第2回勉強会」が行われました（すみません、現時点で観ていないので何とも）。また、新しい教室33期が開講（しているはず）、入れ違いに32期生は、7月の卒業公演を経て、劇団との関わり方を選択していきます。

そしていよいよ、今年のメイン・イベント、112回公演「新開地物語」です。友好劇団・市民参加の皆さんを含め、総勢80人にのぼるキャスト（前号では50人と言っておりましたが）によって繰り広げられる超大作を、創立45周年記念事業として取り組んで

まいります。乞うご期待!! 最後になりました、8月のゼミにも、ぜひ参加しましょう! それではまた。

(里中)

★当面の予定(移動公演除く)  
・神戸勤くもの演劇教室第3期卒業公演「キャンデルは燃えているか」  
成井豊/作・小森清太郎/演出

7月7、8日 県民小劇場  
・よみがえれわが街「新開地物語」創立45周年記念事業No.1、北島道善/作、内田昌夫/脚色、岸本敏朗/演出  
9月8、9、14、16日 神戸アートビレッジセンター

#### 〔劇団 あしぶえ〕

2001年春公演「二十一夜待ち」(木下順二/作・園山士筆/演出)のロングラン公演も夏が近づくころには、暑さとの戦いになります。厚くて重い和服を幾重にも着こ

んで、舞台の隅から隅まで走り回り、稽古が終わるころにはみんな汗だくで、その場にへたり込みそうになることもしばしばです。それでも本番にいらっしやるお客様の、心から喜んでくださる表情を思い浮かべながら、役者は疲れを吹き飛ばしてがんばっています。

新しく始めた、「子ども」と「先生」の観劇料金を半額(子ども500円、先生1000円)に値下げする試みも、今回で3公演目に入りました。少しでも子どもたちが観劇しやすい環境を提供しようとする私たちに賛同していただき、「それなら」と今公演のチケットをお求めくださる方も、少しずつですが、確実に増えてきています。

また6月10日には「ゼロ弾きのゴーシュ」隠岐・西ノ島公演、7月15日には「二十一夜待ち」斐川町公演を予定し

ています。

一方、しいの実シアターのある八雲村では、11月8日(木)と11日(日)に開催される「第1回八雲国際演劇祭」(YITF)に向け、村、村民、劇団が一体となり準備態勢に入りました。連日連夜開かれる15ある委員会の会議。参加するボランティアの人たちが、前回の演劇祭を振り返り、「ああでもない」「こうでもない」と知恵を出しあいながら、少しでもよりよい演劇祭を「みんなで」「楽しんでながら」つくっていきましょう、がんばっています。

今回の演劇祭のコンテストに参加する劇団も、国内外から選り抜かれた実力派の劇団ばかり。海外からは、カヨーテ(オランダ・阿姆斯特ダム)、劇団銀河(韓国・慶州北道)、ラ・クロス・コミュニケーションシアター(アメリカ・ウィスコンシン州)、国内か

らは、劇団支木(青森市)、大杉ミュージカルシアター(石川県小松市)の5劇団がコンテストに参加します。特別公演として、ジエスト・イン・タイム(カナダ・ノバスコシア州)と劇団あしぶえの上演も決定しました。山陰の観光も合わせて、今秋はぜひ、八雲村へお運びください。

(古川創一朗)

#### 〔演劇集団和歌山〕

3月16日〜18日まで松田正隆/作・笠井隆男/演出による「紙屋悦子の青春」を5ステージ上演しました。この公演は新人公演でしたが、予想以上の反響があり、いい舞台になったのではないかと思います。

さて、次回は創立30周年記念公演第2弾、劇団の座付き作者、楠本幸男の新作です。作品は「ジンタ懐かしシネマの夜―築地未来座物語」で、

和歌山の活動小屋を舞台にした物語です。

恋あり、駆け落ちあり、生演奏ありのドラマで、現実と映画の錯綜する井上ひさしばりの作品です。ご期待ください。

9月14、16日、22、23日

#### 〔劇団 演劇街〕

財政難であるという。通信も字数制限。前号は演劇雑誌の心臓と言ってもいい戯曲が載っていないかった。ピンチである。ホームページを開設して新しい読者を開拓するか、さもなければ思い切ってインターネットマガジンにするか。

劇団有志参加の秋吉台国際芸術村主催の、日韓合同公演ブリッジ「夏の夜の夢」も3月で無事終わり、成果と課題を残しました。舞台をつくりあげていく過程でのぶつかり合いやその超克の中に演劇人による日韓交流の確かな一歩があったのではないかと考え

ています。

この夏から秋にかけて劇団企画による「ワークショッブリーダー養成のための講座」を開催します。地域社会に演劇を通して貢献できるワークショッブリーダーを自前で養成していこうとするものです。教育的側面と技術レベルアップの側面の2回講座にする予定です。

夏には「ヒロシマのマチエール」(広島友好/作)のドラマリーディングを予定しています。小会議場で上演後、お客様を交えて作品合評するようなアットホームなものにしたいと思っています。

5月に若干名入団。ホームページも開設予定。地道に演劇活動を行っていきます。

(広島友好)

#### 〔シアトルハカタ〕

卯月公演「楽屋」作/清水邦夫・演出/野口ひろとし・

会場/ポンブラザ

好評のうちに、初めて2日間本番、一日仕込みの百人劇場で7ステージ公演にチャレンジいたしました。毎回満席で、ポンブラザの舞台も「楽屋」の舞台として雰囲気、使い勝手もすこく合っていて、無事終わったことにホッとしています。

現在、公民館公演、留守家庭の子どもたちへ観せたいとのご要望が多く、しかし観客が100人〜150人と少数でしたので、少数公演用にと「プレーメンの音楽隊」を創りご要望におこたえしようと考えました。夏休みファミリー劇場「風の中の天使たち」原作/中村ブン・構成/テアトルハカタ・演出/中村ジョー。塾を舞台にエリート先生を中心としたスーパーアカデミーエリートクラスに対し、勉強よりも大切なものがある、と訴える「たわし先生」。

夏休みまででクビになるかもしれないが、皆ひとりひとりの良い所を何かひとつ見つけてみせると人間臭いたわし先生……。シチュエーションも、

訴えたいことも、描きたいことも、わかるつもりなんです。が、中心の「たわし先生」のキャラクターに悩んでいます。

学生時代の頃、日活映画で石原裕次郎主演「ヤクザ先生」を観たときの感動を今、思い出して、現代の人たちに現代っ子といわれている若者たちに感動を与える作品創りへと挑戦いたしております。

◎「風の中の天使たち」

原作／中村ブン・構成／テアトルハカタ・演出／中村ジョー  
7月27(金)・28日(土)、大博多ホール

◎「はだかの王様」

作／徳満亮一・演出／中村ジョー、8月8日(水)14時開演、九州エネルギー館ホール

◎「長靴をはいた猫」

作／石山浩一郎・演出／黒江昭治、8月23日(木)14時開演、九州エネルギー館ホール

〔青年劇場〕

21世紀の幕が開き半年、青年劇場はいつにない忙しさで過ごしてきました。

2月「かもめ」7ステージ、

4月「殞の海」13ステージ、

5月「真珠の首飾り」再演2

ステージ・首都圏含む全国巡

演21ステージ・学校公演4ス

テージ。その間2月〜3月に

またがり多くの劇団員が参加

したボイストレーニングや狂

言の稽古(急浮上した文化庁

の芸術団体活動基盤整備事業

により予算がつき実施)が行

われました。創造性を高めつ

つ、各公演の観客組織を広げ

る……しかし短期間の中で交錯

する普及活動を成功させるこ

とはなかなか困難でした。

さて、ちょうど「新しい歴史教科書をつくる会」などの

戦争を美化する動きがある一方で、「殞の海」は、日本の戦争責任・戦後責任を見つめ直すものとして上演されました。特にタイトルの海にちな

み、潜水隊と名付けられた青年たちの歴史学習と共に統一観劇日を設けて観客を広げ

た取り組みは、観劇後に作家・島田九輔氏を囲み大いに盛り上がりしました。ただ、観客

目標の5800に対し、土・日を除き苦戦をしました。ご覧いただいた4415人のみなさま、ありがとうございます。

ただ今は「真珠の首飾り」の全国巡演中で、昨年引き続き沖縄(5カ所)公演でこ

ととしては最後となります。

小泉政権になりひとときわ平和憲法改悪の流れが強まる

今、戦争放棄・主権在民などむしろ私たちの宝とも言える

日本国憲法の知られざる誕生のドラマとして、一般公演も

高校公演(保護者も参加)も成功しています。

9月の第79回公演「ソウルの位牌」は、飯尾憲士さんの原作をもとに瓜生正美が書き

下ろします。演出に、一昨年「ゴドーを待ちながら」日本

公演で話題を呼んだ韓国の劇団サンウルム代表の林英雄

氏を迎えての上演です。お楽しみに！ (伊藤かおる)

〔個人会員〕

3年ぶり、再び今年から個人加盟しました。1年に2、

3本あちこちで演っております。「使つてやる」というところが

あります。声をかけてやってください。

9月には、劇団池袋小劇場の「夏目漱石」に、来年1月

は劇団石るつの「美しきもの

の伝説」に客演します。

その節は、よろしくお願います。(川島柳一)

## 京浜の役者層の厚さ

横浜演劇研究所長 飯田 克衛

### 京浜協同劇団『とりあえずの死』

藤田傳／作 内田勉／演出

京浜協同劇団が、藤田傳の「とりあえずの死」を本年4月14日から23日までの15・19日を除く8日間に11ステージ、劇団小劇場「スペース京浜で」上演した。

この芝居からは、かつての日本軍国主義の犠牲になった様々な人や状況の一つが浮き彫りにされてくる。

中国東北部に国策として開拓のため送り込まれた人々は、敗戦によって多くの女性や子どもが身の置き所を失い路頭に迷った。作者藤田傳がハ

ルピンに現地取材したとき、中国政府の国費で維持されている外国人養老院を訪れた際に、さまざまな国の人たちに混じって4人の日本人が存在することを知り、その人たちとそれぞれを登場させて彼女たちの過酷な半生を描く戯曲を書き、92

年7月に俳優座が初演した。この作品は、まさに京浜協同劇団に打ってつけの作品といえるし、それだけに見応えのある舞台となっていた。様々な社会派の作品を手掛け

てきたキャリアのなせるわざと言ってもよいだろう。現在の老女が過去を観るときは自身の役者が、当然若い役者が演ずる。戦争体験のない人たちが、若干のちぐはぐさを見せはしたものの、それなりの戦いの場の迫力を出せたのは、演出や劇団の先輩の教導もある。と同時に、時代考証と言っては大げさだが、衣裳や小道具にあまり違和感がなかった出来も大きな助けになっていた。

重要なのは、作者が何を感じて書いたか、劇団はそれのどこに共感して何を観客に訴えようとしたのか、ということだろう。ここに出てくる4人の老女は結局1人を除いては日本へ帰ることは叶わなかった。作者

老舗劇団「演集」の若手中心で起こしたプロデュース劇場「テアトロ5」の「ONとOFFのセレナーデ」は、パソコン通信・チャットを題材にしている。今日、ケータイ・メールの普及などにより、パソコン通信は決して目新しい素材ではなく、この戯曲もすでに陳腐化していると言えるかもしれない。しかし、今回の舞台は、デジタル世代といわれ、無機化しつつあると思われがちな若者たちが、人間同士の本物の心の結び

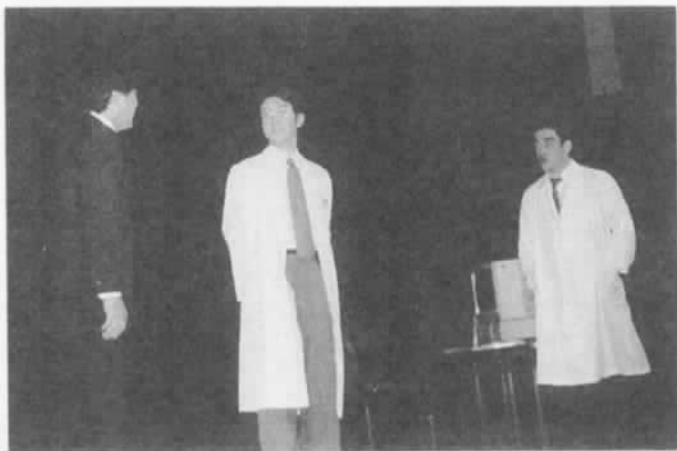
つきや信頼関係を渴望していると感じさせてくれた。特に、中心となる3人をはじめ、若手がのびのびと舞台上に立っていたようで心地よかった。人を信じず、世の中を斜に眺めている「ヤリタイ(磯谷誠)」が、実際には会ったことのないチャット仲間「シタイ」の最後の望みを叶えようと叫ぶ、その激しい思いは、ヤリタイ自身が自ら遠ざけて(OFF)いた周囲との関係をつなごうとする(ON)ためのス

## 若手のエネルギーを感じた舞台

劇団演集プロデュース「劇場テアトロ5」

「ONとOFFのセレナーデ」

古城十忍/作 狩野恭光/演出



劇団名芸

長田 芳枝

は公演パンフレットに脚本を書くだけの野次馬でしかなかったと慚愧の



念を記しておられる。しかし、こうして上演され、多くの人たちが観、それぞれの人なりの感動や反省といったさまざまな思いを、胸に新たにしてくれたことが、今の日本でいかに大事なことかと思う。

京浜の役者層の厚さは、4人の老女をそれなりの年齢の役者が演じて存在感を見せた。滝江という人物は眠れぬ夜を何とか紛らわせようとしてつもう1人の自分と語り合う。物語はそこから始まる。足が悪いのだろうか松葉杖を持っているのだが、どこが悪いのか分からない使い方のため、観客のとまどいを誘ったのは室野さんらしくないと思った。

日本から来るはずの戸籍を証明する手紙を待っている貞美は、院長が手紙を取り上げているのではないかと疑い、夜も眠れない。その割には一見磊落な性格をも見せているのは、演ずる瀬谷さんのキャラクター

なのだろうか。

夜半に徘徊する芳を演じた鬼丸さんは、交通事故の重傷の身から立ち直り、車椅子での出演だが、慎ましやかな演技が、止まってしまった時計を直す時計屋を待っている徘徊老女を、図らずも表現していた。

もう1人の光子は、自分の分身に夫が待っていると起こされる。夫の松太郎を演ずる護柔さんと光子役の若菜さんのコンビも悲しく観客に迫る。

これら4人の老女の思いが分身となって現れ、状況がある時は激しく、ある時はひたひたと、狭いスペース京浜の舞台にみなぎらせたのは見事と言うべきで、とりわけ大きな声で反戦を叫ぶのではない内田さんの演出、特に幕切れが、舞台装置や音響、照明の努力と相まって観客に静かに訴えた。

パークのように思えた。

有能で計算高い若手医師と、素直で屈託のない「天涯孤独」を演じ分けた津田昌一は、どちらも、これこそ彼のキャラクターというように、イキイキとしていて気持ちいい。「小夜子—看護婦」は、ダブルキャストで井上雪を見た。「ヤリタイ」をゲス呼ばわりしながら、本当は彼と心を通わせたいと願っている看護婦は、むずかしい役だと思いが、前半の類魔的な雰囲気も、また「ヤリタイ」が最後に自分に寄せてくれた信頼を感じて喜ぶかわいらしさも魅力的だった。

そして、最後に少し出てくるだけなのに、「シタイ」役—谷口彰宏の新人らしいさわやかさが、哀しいラストを印象的にしてくれた。

パソコン通信の世界は、虚構を演じることもでき、相手が見えないために傷ついたり、犯罪にまで発展す

る可能性もあり、手放しで肯定するつもりはないが、逆に、顔を見てはともいえない本音をさらけ出せる場ともなり得る。より強い信頼関係が生まれる可能性もあるのかも知れない。

私自身は、いまだに携帯電話のかけ方もよくわからないアナログ人間だが、「生身でぶつかり合えば心も通じる」というのも夢物語のように思われる。顔を見ながら話すばかりが「真実」ではないだろう。

デジタル世代を、「虚構の薄っぺらな人間関係」とひとくくりに切り捨ててしまいたくない。「ONとOFFのセレナーデ」は、無機質とも見えるデジタル世代こそ、熱い心の結びつきを求めているのか、と感じさせてくれる舞台だった。

そして、若い世代の情熱と、先輩たちの支えから生まれてきた「テアトロ5」—この存在そのものにエネ

ルギーが感じられた。これからの更なる活動に期待しています。

(4月11日 名古屋市西文化小劇場)

## 静かな熱演

劇団上野市民劇場50周年記念公演

福北<sup>ふきたわかく</sup>辨<sup>わたかく</sup>ひとり語り「芭蕉翁桃青」——その内なる枯野から——

島田九輔／作 杉森正美／演出

熱演である。だが、静かな熱演……。墨染めの衣を身につけ、笠と杖を手にした芭蕉翁桃青は、下手奥から投射された一筋の光へ、誘われるようにあらわれる。

彼は生きてあらわれたのか、あるいは死してあらわれたのか。その一筋の光は、冥界へ続く道のようにであり、光に包まれた彼は、冥土への途上であるかのようにも見える。

そして彼は、静かに、自分の人生を語り始める。極めて静かに……

劇団はぐるま 浅野 公三



抑揚をおさえた語り口は、終始変わらない。抑揚をつけられない、淡々とした口調であればこそ、凄まじく生きた芭蕉の、風雅な風情とはほど遠い、市井の人たちとさして変わらぬの、彼の実人生が説得力を持つてくるのだろう。

自分の不注意から死なせてしまった妹のこと。俳諧の道に生きるため、犠牲となつて、結果、死に至らしめた妻・考のこと。そして江戸に出た後、養子に出していた実子・友之助

(桃印という俳号を持つ)とのこと。さらに、江戸深川の芭蕉庵で、妾奉公人として働いた、貞と友之助の、駆け落ちのこと。

きあうこと、社会の問題を自分の問題として受け止めること、そして失われてはならないものを次の世代に演劇という媒体を通じて伝えることを意味する。「次に伝える(手渡す)」とはこの芝居の作者の言葉にもあるけれど、「春演」の委員として、古くからの自立劇団グループと、生まれて間のない若者劇団達の間を仲介し交流させることに骨折っている彼に、とても似合った言葉だ。

この作品は別冊で出された「100号記念戯曲集」に掲載されているから、本誌の読者はご存知だろう。美術教師の男は、高校生の娘をモデルに、ガンで逝った妻の肖像を描いている。見せないとやっていいその絵を、ある日男は娘に、見てよいと告げる。妻であり娘であるその絵の顔には、引きつったケロイドが描かれていた。妻は原爆の胎内被爆者だったのだ。そしてその影響は娘にも？

遠い夏の日の惨事が、現在の不安として2人に意識される。娘の困惑を見て、男は知らせるべきだったのか自分に問う。やがて……。娘は8月6日の広島に、その絵を持って行くと言った。

われわれは原爆に関わる幾つかの優れた戯曲を持っている。被爆当事者、また被爆二世を登場人物とする物語だ。広島、長崎への原爆投下から半世紀以上経った今、原爆も戦争も体験していない私などが、その悲劇を過去の記録でなく現在の問題として引き継ごうとするなら、私たちの世代にそれは被爆三世の不安として立ち上ってくるのかもしれない。原爆はその時、潜在した不安、現れないかもしれない悲劇であり、声高に真正面から言い立てるのをためらわせる。そこに杉本の静かな、しかし立ち向かわねばならないものを揺るぎなく見つめようとする「いずま

い」は、ふさわしい表現、いや、在り方として見えてくる。

妻を奪い娘にすらその毒の爪を伸ばしてくる原爆への怒りよりむしろ、無力な自分への慚愧が見える。しかしけっしてあきらめではない。娘に告げたとてどうなるだろう、不安をかきたてるだけだ。しかし隠していることは逃げることにしかならない。生きるとは運命に立ち向かうことであれば、男は父親として、娘に事実を告げる義務がある。その葛藤と、母娘の肖像を人々の苦しみを代わりに背負う菩薩として描いた哀しくも暖かい願いの気持ち、杉本はある程度まで示すことができている。彼が娘を見つめる視線、叱りつける声、そこにいとおしさとともに、しっかりと生きてほしいという願いが感じとれる。それは演技者としてと同時に、人間としての彼の蓄積のたまものだろう。対して娘は、近い死

人は、芭蕉に限らずだれでも、黙して語らぬ世界を持ったまま、死に至るのではないか。年を重ねるほどに、事の大小軽重はともかく、臍に傷を持つ身となっていくのではないか。そして、後世の人たちは、推測と想像でその陰の部分を整理し、合理化し、納得させていく。

福北辨は、芭蕉の姿を借りて、人

間という存在の有様を語りかけてきた。それはどこかで、キリスト教的な世界観にある「原罪」の観念に至る——そう思うのは、私の考えすぎなのであろうか。

静かな語り口でありながらの熱演。今年、64歳になる福北辨は、「生きてることが罪なんや。けど、生きてかなあかんちゃうか。罪、背負っ

てたかてな。ちゃう？」と、舞台から問いかけているように、私には思えた。

顔を合わせば、気軽に声をかけ合える辨さんの、決して軽くない役者・福北辨を、垣間見ることのできた90分。ちよと桑名市上空で、航空機どうしが衝突した日だった。

(5月19日・20日公演)

## 悲しみの、静かな肌あい

演劇評論家 神沢 和明

### 素の会 『ヒロシマのマチエール』

広島友好／作 粟田尚右／演出

劇団大阪のベテランである杉本進が、同じ劇団の伊藤節子と二人芝居のユニットを組み、「大阪春の演劇

まつり」に登場した。ユニットの名は「素(す)の会」。俳優として30年のキャリアを積んできた杉本が、

あらためて自分を見つめ直すための機会である。しかしそれは俳優の「技術」を見直すためのものというよりは、リアリズム劇の演技者としての「あり様」、俳優としてなすべき「仕事」を自分に確認し、観客に問いかけようとしていると私には思える。その姿勢は、社会と人生に謙虚に向

へ向かうかもしれぬ運命をいきなり告げられ、菩薩の役割を押しつけられたわけだ、戸惑い以上に、親たち

への怒りが心に沸き立つ。その反発はしかし、やがてより大きな不条理を見つめてみようという心に昇華してゆく。その昇華は不足したが、娘の心の様々な動きを、伊藤は演技のテクニックと引き合わせた台詞でかなり表現した。途中で娘が、父親の回想の中で若い時の妻になる、その変換はうまく見えてこなかったが、これは本と演出にも責任がある。二人が黙って見つめ合う時、その間を

なくものが無言の空間の中に感じられた。

全体に脚本が、書き込むことを避けているかのように思える。意図はわかるが、舞台で表現すると何か物足りない思いを抱かせる。前後する時間(回想以外にも、冒頭が最後とつながるなど)関係や、男が「おれは(ヒロシマに)行く資格ない」とこだわる心もちの真意など、読者でなく観客として対するならば、もう少し材料がほしく思う。

杉本をよく知る演出家・粟田備右は父と娘の交流という要素もきっちり抑えている。ただ、作風と演技がともに静かなため、内包するテーマが弱まるのを心配してか、最後に閃光と廃墟と化した町の写真を導入して印象を強めようとしたが、木に竹を接いだようで逆効果だった。むしろかしいものだ。

(4月13日 プラネットホール所見)



## 意外に鋭い

演劇評論家 阿部 好一

### 関西芸術座『わりかん』

津々見俊丈／作 梶本潔／演出

関西芸術座は昨年一般から戯曲を公募、佳作三編のうちの一つが、この『わりかん』である。一家の主人が死に、残された老妻(坂本和子)長男(福寿淳)、長女(神宇知薫)、長女の夫(蔵多哲雄)、それに老妻のいとこ(藤山喜子)、この5人が織りなす物語。

老妻にはもともと神経症の傾向があり、最近痴呆症の様子も見えてきた。長男が引きとるところだが、彼は貧乏な劇作家で、しかも一家が住

む大阪を離れて東京で一人暮らし。長女は電気店の主婦だが、店の手伝いで忙しいうえ、すでに夫の母が同居しているから、引きとるのは無理だ。

どの家庭でも起こりうる——いや、現に起こっているであろう典型的な高齢化社会の問題を描く。全二幕。上演時間は1時間半に満たない。と、こう書けば、ただ時流に乗っただけの軽い風俗劇と思われそうだが、人物の内面を探る作者の筆は見

かけ以上に鋭い。

例えば、長女の恵子の心理。母は病氣、兄は甲斐性なし、自分と自分の夫は忙しい。やむなく母を老人ホームに入れようとしているが、兄は、兄の了解をとろうとするが、兄は渋る。恵子は「ではどうするのか」と代案を求めて強く迫る。この限りでは、彼女は親兄弟の心情を踏みにして悔いなく冷たい人間であるかのように見える。

一方、彼女は妊娠4ヵ月。やっと待望の赤ん坊に恵まれたというのに、彼女は半ば本気で妊娠中絶を考えている。なぜか。終わり近くにあって彼女の本音がほとぼしる。どんなに愛情を持って育てても、病気に



なったら親は老人ホームに入れられる、親なんかつまらん、子どもなんてつまらん。子どもを生みたくなないと言う彼女の気持ちの中に、母をホームに入れようとする自身への嫌悪がかいま見える。内面の心のひだを戯曲はとり出して見せた。

彼女の夫は実直な商人だが、その言葉にも意外な重さがある。妊娠中絶を言う妻に向かって彼は「お前やおれの気持ちよりも、おなかの子の気が大事やないか」と言う。さりげない言葉だが、人間のエゴイズムを衝く鋭さがある。

大阪出身の作者だけに、大阪弁が生き生きと駆使されていて、それが老母の今後をどうするかという現実問題を描くのに適していた。あけすけに語られる大阪弁リアリズム。一方、東京の演劇関係者から電話がかかってくると長男は共通語でやりとりする。生活的には無能力な彼の話

す気どった対応。この対比もおもしろい。

大詰め近く、親と子の意外な一面



が明らかになる。亡父の四十九日は老妻敏恵の誕生日だった。だが、子どもたちはそれをすっかり忘れていた。長男などは母親の年齢さえあやふやである。彼らがあわててパースデー・ケーキを買いに走ったあとの敏恵のせりふが利いている。子どもが親の誕生日を忘れても、「子どもが親の誕生日を忘れても、親の心は子どもよりもはるかに深い。」

人物の対立や和解を、演出は俳優の立つ位置の一つ一つに気を配って、目で見てわかるように描き出した。木田昌秀の装置も克明で効果をあげている。出演者はベテランぞろいだが、いわゆる新劇風の発声が目立って突然鋭く響くなど、全体の流れが時に渋滞したのが惜しい。上演回数が多くなれば、やがては解消する問題だろうが。

(5月16〜20日 関西芸術座スタジオ)

曲 小劇場話劇  
去年の冬

作 諭 栄軍  
訳 坂手日登美

登場人物

陸少豊 男 58歳 嘱託劇団員  
白蘭 女 25歳 大学卒業間もない職業学校の心理学教師、李成の婚約者  
李成 男 29歳 外資系企業勤務

時 現代

所 中国、大都市のある高層住宅の一室

\*孤独が心を襲う時、友情、肉親の愛情は、日ごとに貴くなる。

劇のすべては2LDKのアパートの居間で展開する。部屋のレイアウトに工夫が凝らされており、部屋の主人が比較的高い教養の持ち主であることを示している。

ソファの前に小さなテーブルがある。

壁に沿って設えた低い戸棚の上の目目を引く所に、ステレオがあり、その上に額に入れた写真が飾ってある。中の写真は年若い女性の白黒写真。

居間の壁の良く目立つ場所に、1本のイングリッシュ・ホルンが掛けてあり、近くにコードレス電話がある。

居間には5カ所の扉がある。正面の一つは廊下に出る扉で、一つはキッチン、一つはトイレにつづく、上手の一つは小さい方の部屋のドア。

小さい方の部屋は書斎のような感じで、非常にきちっと整理されている。ベッドが置いてあり、明らかに寝室として使われていることを示している。

下手の部屋はダブルベッドが置いてある。壁にはスポーツ選手や映画スターの写真がランダムに貼られている。全体は雑

然とした感じ、

(一景)

舞台の上は真暗で、何の音も聞こえない。少し間を置いて、かすかに水滴の落ちる音が聞こえ、それがだんだんはっきりとしてくる。やがてとらえどころがなくなる。

照明は水滴の音と共にF・I。

陸少豊が、寂しい感じの居間に座っている。胸にイングリッシュホルンを抱いて、ぼんやりと眼の前に散らかっているインスタントラーメンの空袋を見ている。どうしようもないほど孤独で、何かにじっと耳を傾けているようである。そして、それは虚しい意識の中の水滴の音である。

陸少豊 (つぶやくように) ポトリ、ポトリ、雫がおちる、そしてみんな流れてゆく。

ドボルザークの『新世界より』第二章の主題の旋律が、舞台空間に初めは小さく、あるかなしから分らないくらいに、そしてだんだんと広がってゆく。限りない思いにひたっていた陸少豊は、やがて立ち上がり、窓のカーテンを開ける。暖かい光が部屋を照し、一条の光がまぶしく眼を射る。彼は再びソファに座り、ゆっくりと、イングリッシュホルンをなでる。それはあたかも、管から流れ出る音楽に耳を傾けているようである。

突然ドアのベルが鳴る。陸少豊は本能的に電話を取りあげるが、ドアのベルが鳴っているのに気づく。

陸少豊 どなたですか？

白蘭 (戸の外で) すみません、こちらは18棟8号室でしょうか？

陸少豊 (そつと戸を開ける。戸口に白蘭が立っている) だれをさがしているのかね？

白蘭 こんにちは。私、貸部屋をさがしている者です。不動産屋さんから、こちらに一部屋あると聞いたので。

陸少豊 君には貸せないね！

リッッシュホルンを壁にかける。突然、ドアのベルがまた鳴る。陸少豊は戸を開ける。戸口には、白蘭と李成の2人が立っている。

陸少豊 (耐え切れず) 君たち、いったいなんのつもりだね？ 私は貸さないと断ったでしょう。

白蘭 ごめんなさい、私たち、ただ謝まらうと思つて。

李成 さきほどは、失礼しました。

白蘭 実は、私たち、あなたの出された条件は別に悪くないと思うのです。もし本当に貸そうと思つておられるならですけど、いまは自分の条件に合った部屋を見つけるのは、ほんとうに大変なんです。でも私たち決してあなたを不快にさせる気じやなかったんです、お騒がせしました。(李成とともに去ろうとする)

陸少豊 (呼び止める) ちょっと待つて。その、入つて話をしましょう。あなたたち、身分証明書は？

李成 あります、あります。(身分証明書をとり出し) 私は李成と言います。彼女は白蘭。

白蘭 どうしてですか？

陸少豊 私は一人ぐらしなのでね！

白蘭 一人ぐらしですか？ けど……けど、それとどういう関係が？

陸少豊 失礼！(陸はすぐさま戸を閉める。イングリッシュホルンを壁に掛けながら) それとどういう関係があるかつて？ 実際にはつきりとしているじやないか？

ベルが再び鳴る。

陸少豊 (戸を開ける) 貸さないと断つたでしょう！(頭を上げて見ると立っているのは李成である) 君、ここで何をしているのかね？

李成 部屋を借りに来ました。不動産屋が、

おたくに貸し部屋があると言つたので。

陸少豊 じゃあ、そちらに聞きに行つてくたさい。

李成 それが、あつちは、あなたが出している条件がちょっとおかしいので、仲介ができないつて言うんです。

陸少豊 おかしい……?! 私はただ、まだよく考えてないだけですよ。

李成 よく考えてない？ じゃどうして貸

陸少豊 (身分証明書を見ながら) また結婚してない？

李成 ええ、まだです。

陸少豊 (笑つて) 正直だね、気に入つた。君たち、子どもがいるなんて言わないでくださいよ。(ちよつととまつて、李成と白蘭を質問するように見る) うん、よかった、そうでなければ商談中止。

白蘭 子どもはきらいですか？

陸少豊 いや、そうじやないが、実は彼らが怖いんだよ。君たち知つてるね、この賃貸の条件を？

白蘭 知つてます。①この市で働いてること、②この市の居住証明書をもち、外地戸籍の若者であること、③仕事がまじめであること、休日が規則的であり、居住期間は絶対に静かにすること、部屋代は月額6000円、個人所得税は含まず。その他、必要な時は家主とおしやべりをする、それから……。

李成 それから、必要な家事は家主といつしよにする。

陸少豊 簡単に言えば三共同、共に食べ、共に住み、共に働く。

白蘭 ええ、私たち、わかつてます。

し部屋の広告なんて出したんですか？

陸少豊 (暗然と) ちよつと試してみようかと思つて。

李成 (理解できない) 試してみる？ まさか冗談を言つてるんじゃないでしょうね？

陸少豊 失礼、戸を閉めますから。李成 ちよつと待つててください。話を聞きりしてください。あなたは貸すつもりがないのに、どうして賃貸広告なんか出したんですか？ 私たちは遠くから来たのに、ひまつぶしのつもりですか？

陸少豊 (煩わしくなつて、戸を閉めようとする) 失礼といたしやありませんか？

李成 ちよつと、待つててください。これでは、訳がわからないじやないですか？

陸少豊 失礼。(再び戸を閉めようとする)

李成 (詰めよつて) なんでそんなに急いで戸を閉めるんです、私を泥棒とでも思つてるんですか？

陸少豊 (気分を害して) そんなこと、だれも言つてませんよ。(ピンと鍵を掛けてしまふ)。

陸少豊は、ゆっくりと、注意深く、イング

陸少豊 私は陸少豊と言います、お知りおきください。

白蘭 (突然) ワァー、陸少豊、あなたはあの陸少豊さんでしょう！ 私ひとめ見た時から、ずつとそうじやないかと思つてたんです。私、あなたの芝居観たことがあります。ビデオですけど、大学の芸術鑑賞ゼミで先生が選んで観せてくれたのは、全部陸少豊さん主演でした。「ハムレット」、本当にすばらしかったです。(李成が小声で彼女を制する) すみません、私有頂天になってしまつて。

陸少豊 いや、ずつと以前のことですよ。

別にひけらかすようなことでもありません。部屋を見てください！ ここは居間で、私たち3人の共同。あつちが私の部屋、ちよつと小さいですが、こちらの大きい方があなたたちに貸そうと思つている部屋で、もとは子どもたちが使つてました。あちらはキッチンとトイレ、ここはバルコニー、見はらしが良いでしょう。

白蘭 ええ、とてもいい感じ！

陸少豊 君たち、ここにどれくらい住む予定？

白蘭 ちよつと長く貸していただければ……。

私は大学を卒業したばかりですし、彼の会社は部屋をくれません。それに引越しを何度もするのは大変だし。

李成 まず1年分の部屋代を納めます。その、私たち3人がうまくやっているといるかどうかかわらないでしょう!

陸少豊 もし、まずまずだ、と思つたら、まず半年分納めてくれたまえ!

白蘭 半年分?

李成 半年分とはありがたいですね!

陸少豊 では、そうしましょう!(白蘭に)あなたは教師だということだが、何を教えているのかね?

李成 彼女は心理学を教えてください。

陸少豊 それはいい、けど先生というのなかなか大変な仕事だね。私の妻が教師でね、ずつと苦勞のしつづけだった。

白蘭 本当に? 何を教えてらっしゃったのですか?

陸少豊 英語です。(李成に)君は何を……(老眼のために身分証明書を遠く離して見る)会社の名前は……ええと?

李成 (得意になって)それは英語です。大文字です、わかりにくいでしょ、ウイ、イ、エス、ティ、エイ、エル……。

白蘭 さようなら!(戸口から、出て行く)

陸少豊 VESTAL、もとは処女という意味のラテン語から来た言葉だね、しかし古めかしい名前ですね。(李成がばつての悪い思いをしているのに気づき)何をしている会社ですか?

李成 代理業務です。

陸少豊 代理? いやあ、しょっちゅう聞くんですがね、その代理という言葉、ところがこれがどういう仕事なのかさっぱりわからない、君、時間のある時教えてください、じつさい、近頃は新しい言葉が多くて、ついてゆけません!

李成 陸先生は英語を勉強されたのですか?

陸少豊 いや、あれは妻が、学校で英語を教えていて、家に帰ってから私にも教えてくれたのです。だからちよつとわかるだけで、娘や息子がアメリカに行く前にも彼女が英語を教えました。季蘭といひます。2年前に亡くなりました。

白蘭 陸先生、先生はおいくつですか? ごめんなさい、私だしぬけに失礼なことをして!

陸少豊 58です。年を取りました。

白蘭 58? 私はまだ50歳にもなつてらっしゃらないと思つてました。だって、同

じ年の方に比べて、ずつとお若いです! 陸少豊 先ほどは、私の方こそ失礼しました。気分が良くないもので、初めは部屋を貸そうと思つたんですが、後で、迷いはじめてね、だが君たち2人を見て、やっぱり試してみようと思つたんです。

白蘭 陸先生、あなたは私たちの想像してた家主のイメージよりずつとすてきでたのかね?

陸少豊 じゃ君は、どんな家主を想像してたのかね?

白蘭 私の言いたいののは、あなたが私の家主さんだなんて、思いもしなかった、ということですが、本当にすばらしいわ!

李成 もし何か必要なことがあれば、私の携帯に電話をしてください。番号は名刺に書いてありますから。

陸少豊 そうしましょう、それに私は君に代理とはどういう仕事か教えてもらわなければならぬ!

李成 とんでもありません、陸先生。

白蘭 (ステレオの上の写真を発見する) 陸先生、この写真の方はお嬢さんですか? 陸少豊 いや、それは妻の若い頃の写真正す。

白蘭 きれいな方。(壁にかかっているイ

グリッシユホルンを発見する) 陸先生、これは何という楽器ですか?

陸少豊 イングリッシユホルン、私の友達が残していつてくれたものでね。

白蘭 イングリッシユホルン、初めて見ました、とてもきれい。

李成 (テーブルの上の幾袋ものインスタントラーメンの袋と食べ終つたばかりのカップ麺の空を見て) 陸先生、こんなにたくさんインスタントラーメンを?

陸少豊 (急いで隠して) つい便利なもので!

李成 では……陸先生、いつ越して来たらいいか連絡してください。

陸少豊 わかりました。できるだけ早く! 部屋の中のを整理しておきます。君たちもつてくる荷物は少なければ少ない方がいい、ここにあるものはなんでも使

つてください。自分で言うのも何だが、私は気楽な人間でね、一緒に住めば、わかつてもらえらと思つけれど。

李成 では……、失礼します。ありがとうございました。

白蘭 さようなら!(戸口から、出て行く)

うとする)

陸少豊 さようなら!(彼らを呼び止める)

そうだ、李君、この次来る時に賃貸契約書をもつて来るのを忘れないように、万一あとから何か問題が起こつたらいいので……。

李成 (笑つて) わかりました。じゃ、失礼します!

白蘭 さようなら!(2人退場)

陸少豊は考えにふけりながら、戸を閉める。そして電話を取りあげる。

陸少豊 おかしいだろう! 私はあんなにひどい条件を出したのに、彼らは本当に引越して来るのだよ! 鄭君、君知るかかい? 私は部屋を貸したのだよ、だが、部屋を貸したからって、何の役に立つのだろう? 煩わしいかも知れない、わかっているんだよ、私は他人に煩わされるのが嫌だつてことは。

照明、急速に暗くなる。

(二景)

目覚し時計のはっきりした音が鳴り響くと同時に、明るくなる。白蘭がベッドから飛び起きる。

白蘭 李成、起きて、起きて。もう7時よ。私朝ごはんの仕度をしなくっちゃ、今日は第1日目なんだから、印象良くしないと、ねえ、早く起きてつたら。

李成 なんだよ! 部屋を借りたんだ、家政婦になつた訳じゃないだろ。

白蘭 余計なこと言わないで、早く起きて、起きて。(白蘭はそそくさと部屋の扉を開け、乱れた髪や衣服を整える。慌ただしくトイレに入り、しばらくして水洗の音がして、出て来る。この時、陸少豊の部屋の扉が開いていることに気づき、そつと近付いて中を見る。中にはだれもいない)

白蘭 (自分たちの部屋に向かって大声で) 李成、早く起きて! 陸先生はもう外に出てつたわよ、早く。(部屋の中は動く気配がない。そこでステレオをつけ、音量を最大にする。すぐに崔健のジャズの

音が激しく鳴り響く)

李成 なんだよ！ 音を小さくしてくれよ。

白蘭 起きていたら！ 陸先生はもう起きてるのよ！ 早く、何か食べるもの買いに行つてよ。

李成はズボンをさげて、慌ててトイレに駆け込み、ガタンと扉を閉める。

正面の扉が開いて、野菜や米をさげた陸少豊が、入つて来る。彼は明らかに家の中の音楽にとまじう。

白蘭 (扉を開けて出て来る) ちょっと、

早くしないと会社に遅れるよ。早く！(陸少豊を発見する) 陸、陸先生！ おかえりなさい！(天をゆるがすような音楽に気づき、慌てて駆け寄り、切る) 陸先生

……あの……あの……李成がその……

李成 (トイレから大声で) オーイ、どうしたんだよ？ music, music, なんて切るんだよ！ 彼は今いないんだぜ。(水洗の音と共に李成がズボンの前を上げながら飛び出して来る) ほんとにもう、わかったよ！ 何を食べる？ 早

く言つてくれよ！(白蘭を見る、白蘭の

視線の先に陸少豊を発見する。急いで逃げようとして白蘭につかまる。はずかしそうに) 陸、陸先生、失礼しました。

陸少豊 (ゆらゆらと手に持った買物袋をゆらしながら) いやいや、お互いに慣れるでしょう！ 2人とも起きたのだね、部屋の具合はどうかね？

白蘭 問題ありません、陸先生！

陸少豊 今晚、食事を作つてみようかと思つてね、私は不器用で、今まで一度も料理をやつたことがないんだが、ちよつと試してみようかと。

白蘭 帰つて来てから、いっしょに私も作ります！

陸少豊 それは嬉しいね！大根と肉の炒めものと海老とニラ、君どうかね？

白蘭 大好き！

陸少豊 好きかい？ 後でまずいっておかないでくださいよ！ だが、もうこれ以上インスタントラーメンは食べたくないのですね！ オイ李君、じつと立ってないで、この米を運んでくれないか？ 一挙に若い人が2人も増えたんだ、きつと米が足りないと思つて。

白蘭 (笑いながら米袋をさげて中に入る。

李成は取ろうとするが白蘭にさえぎられる) 歯を磨いて、陸先生、どうぞ休憩してください、私、朝食の仕度をします。ごめんなさい遅くなつて。(李成はそそくさとトイレに入る)

陸少豊 朝ごはん？ もう作つてあるよ。

白蘭 えっ？！

陸少豊 ああ、私は起きるのが早いのでね、あずき粥だよ、出かけるとき小さな火にしておいたが、もう煮えた頃だと思つてよ。(突然何か匂つて来る) 大変だ、焦げたみたいだ！(陸少豊はあわてて台所に駆け込む)

李成 (白蘭は彼について台所に入ろうとするが李成につかまる) 俺、今晚帰つて来るの8時か9時になる、先に食事してくれよ、待たなくていいから。

白蘭 (冷たく) 夜帰つて来る時、寒いから、たくさん着てつて。

李成 会議があるんだ、本当に抜けられないんだ。

白蘭 抜けられない？ どうして、だれから抜けられないの、だれがあなたを離さないの？！

李成 何わけわからんことを言つてるんだよ？

白蘭 別に、どうつてことないわ、私に何か言われるのがそんなに怖い？

陸少豊が焦げた粥と碗と箸をもつてくる。

陸少豊 しまった、しまった、全部焦げてしまった。きつとうまい粥ができてると思つたのに、経験がないものでね！

白蘭 (鍋の中をよく見て) 大丈夫、かえつていい匂いです！

陸少豊 慰めてくれなくてもいいよ、でないと、これからいつも焦げた粥を食わされるよ！

白蘭 平気です。

李成 陸先生、料理は苦手ですか？

陸少豊 苦手？ いやできないのだよ！

これは私の生涯で初めて作つたものなんだ！ 妻が生きてた頃は、私は一度も台所に入つたことがなかった！ そうだ、李君、今晚いっしょに飲もう、もう長い間、家で酒を飲んでいないんだ！

李成 すみません、私たぶん駄目です！

陸少豊 駄目？

李成 ええ、今日は残業で、たぶん帰りが遅くなると思つています。

陸少豊 おおそういうことか、じゃ気にしないでくれたまえ、これから先、まだまだ機会はたくさんあるさ！

李成 (時計を見て) O, M Y, G O D, すぐに出かけなけりや、また、遅刻だ、すいません、2人でゆつくり食べてください！(部屋に入りカバンをつかむと、逃げるように出て行く) B Y E — B Y E

！(うしろ手で戸をガンと閉める)

陸少豊 白蘭、李君は忙しいんだ、外資企業はみな厳しいからね！

白蘭 外資企業？ このままでゆくと彼、

企業の奴隷になつちゃう/陸先生、私、ずつとお聞きしようと思つていたのですけど、どうして部屋を貸すのですか？

お金のためではないでしょうか？

陸少豊 ああ、多分妻のためだよ、妻が亡くなる時に、私にだれか面倒を見てくれる人を捜して再婚するように言つていたのだが、そんな気になれなくてね！ 友だちの鄭というのが私のために相手を捜してくれたらしたが、どうしても駄目なんだよ、それで部屋を貸して人に住んで

もらえば寂しくないのじゃないかと思つてねえ！

白蘭 どうしてアメリカにいらつしやらないのですか？ 子どももあなたが、あちらにいらつしやるのでしよう？

陸少豊 アメリカに行く？！

白蘭 習慣がちがうからですか？

陸少豊 かも知れないね！(粥を盛つてさ、食べよう、冷えてしまつて！)

白蘭 はい、陸先生、いままで食べた中で、いちばんおいしいです！

陸少豊 ほんとうかい？

急速に暗くなる。

(三景)

舞台が明るくなる、崔健の「新長征路上の搖滾」(ジャズ)が鳴り響いている。居間で李成がエプロンをつけて、忙しそうに食卓の上に料理を並べたりしている。扉が開き、陸少豊が戸口に立つ。李成はさつと駆けて行き、ステレオを切る。

李成 すみません、うるさかったでしょう！

陸少豊 大丈夫だよ、友達に鄭がいつも言

つてるんだ、「ロックの音がうるさいと  
感じるようになったら年を取った証拠  
だ」ってね。

李成 そいつはうまい！ それにしても、  
今日はどうしてこんなに早いですか？

劇場に行かれたんじや……。

陸少豊 顔合わせをして、ちよつと日本の  
話をするだけだよ。

李成 稽古が始まると忙しくなるんでしょ  
う？

陸少豊 そうだよ、だが何十年も忙しくし  
てきたので、もう慣れてしまった。ん？  
なんかいい匂いがある、食事を作ったの  
かね？

李成 ずつと、先生の作った食事を食べて  
いますから。

陸少豊 いやいや、私は、ただ白蘭の助手  
をしているだけだ、だが、今日は君の手  
料理が食べられるんだね！

李成 そう言われると、緊張するなあ。

陸少豊 私も、帰り道で、蒸し鶏を買って  
きた。できたてだよ。

李成 じゃ、僕にください……（陸少豊の  
鶏を受け取り、台所に入り、すぐにウイ  
スキー（シーバスX・O）の瓶と足付き

のグラスを持って出て来る）陸先生、白  
蘭が帰って来たら、すぐ食事にしましよ  
う。

陸少豊 ああ、いいとも。私はまだ腹はへ  
つてないし、それに白蘭もじき帰って来  
るだろう。

李成 前に、一緒に飲みましようと言つて  
おきながら、ずつと機会がなくて、お話  
びの意味で、前の分もあわせて先に二杯  
飲みましよう。

陸少豊 おおつ、憶えてたんだ！ やあ、  
洋酒とはスゴイ！

李成 笑われるかも知れませんが、この酒  
は私が買ったんじやなくて、昨日、会社  
のパーティーがあつて、その残りなんで  
す。（食卓の前に座り酒をつぐ）陸先生、  
乾杯！

陸少豊 乾杯！（酒を飲む）オー、これは  
辛い！（酒瓶を取りあげて眺め）オー、  
シーバス！

李成 日本人がよく飲むやつです！

陸少豊 こんな強い酒は、長い間飲んでな  
い！ とても駄目だ！

李成 （続けて酒をつぎ）この酒は北京人  
の好きな酒二鍋頭より強いんですよ。そ

うだ先生、冷蔵庫の中に、何本か二鍋頭  
が入ってるじやありませんか、飲んでる  
のを見たことはないけれど。

陸少豊 妻が生きてた頃、強い酒は身体に  
悪いって、飲ませてくれなかった（笑）  
けど、私はいつも、こっそり飲んでたん  
だ、そして、一瓶飲み終ると、彼女はす  
ぐに一瓶買って、補つておいてくれる、  
だから冷蔵庫の中には、いつも4本入っ  
ていたというわけだ。

李成 ということは、奥さんが亡くなって  
から、先生は冷蔵庫の中の酒に手をふれ  
てない、ということですか？

陸少豊 飲んでしまつたら、だれも買ひ足  
してくれないからね。（この話を続けた  
くない）さ、李君、飲もう、（あおるよ  
うに飲む）君たちがここに住むようにな  
つて、もう何日もたつけど、今まで1度  
もゆつくり話をしたことがなかったね？  
そうだ、君はこの街に来て、何年になる  
のかね？

李成 大学の4年間を入れると、もうすぐ  
8年です、抗日戦争を1回開つた計算に  
なります！

陸少豊 8年ねえ、どんな体験をしたのか

な？

李成 僕は、男はいろんな経験をした方が  
よいと思つてるんです。僕は東北の小さ  
な町から来ました。家は貧乏で、母はい  
つも僕に「李成や、父さんも母さんもお  
前に頼るしかないのだよ」つて言うんで  
す。母は淡々と言うだけでしたが、かえ  
つてそれが自分の小さい頃からの目標に  
なりました。

母は、ずつとマッチ工場でマッチ箱作  
りをしてました。父は退職するまで、セ  
メント工場でセメント袋の積み下し作業  
をしていました。僕は兄弟の中で、ただ  
一人勉強が好きだったし、大学も受かっ  
たので、父母は一生の希望を僕に托した  
というわけです。暗い電灯の下で母がマ  
ッチ箱張りをしている後姿、父の絶え間  
のない咳を永遠に忘れることはできませ  
ん。だから、小さい頃から「苦勞」とは  
何か、「人に抜きんでる」とはどういう  
意味か知つてましたし、時には、自分は  
自分のために生きているのではなくて、  
彼らのために自分の大部分はあるんじや  
ないかと思つたりします。僕は彼らに誇  
りに思つてもらいたいし再び苦勞をさせ

たくない、だから大学を卒業した時、故郷  
に帰らないと決めました。今僕には仕事  
があるし、奮闘する目標もあります。こ  
の街に足場を築いて、少しでも多く金を  
稼ぎたいのです。この大都市がくれた最  
大の恩恵は、公平な競争の機会を与えて  
くれたことです。

陸少豊 うん、その点は確かだ、それにと  
ても重要なことだ。

李成 今の社会は競争が激しく、現実的で  
なければ、すぐに淘汰されてしまいます。  
一人の男が生きて行くのは本当に疲れま  
す。何事にも細心の注意を払い、綿密な  
計画を立て、勤勉でなければなりません。  
ちよつとした不注意がすべてをためにし  
ます。肉体的にも精神的にも大変な重圧  
を感じます。時には、この大都市に、頼  
りにできて心を許せる人がただの一人も  
いないのだからかと、つくづく思います。

陸少豊 これが競争社会というやつさ、悲  
観さえしなければ大丈夫だよ。

李成 悲観してなんかいません。それに、  
あなたに苦しみを訴えているわけでもあ  
りません。僕には何の後たてもなく、支  
えもありません。けど、これが、僕を鍛

えてくれました。例えば、僕と白蘭のこ  
とですが、僕は白蘭が好きです。だから、  
自分たちの将来のことを考えずにはいら  
れないのです。

陸少豊 白蘭も君のことを、とても好きだ  
と思つよ。

李成 それは僕もわかつてます。僕も彼女  
が好きです。じやなかったら、どうして  
一緒に寝ることができましたか？ 先生の  
言いたいのは愛情についてでしょうか？  
僕は実際愛情というものは寝ることから  
始まるのだと思つます。中国何千年の封  
建社会が、こういう規律を生み出したの  
です。

陸少豊 （笑う）君、愛情というのは真摯  
なものだよ、それは信じなくちゃ。

李成 その点については、僕の視点と決し  
て矛盾しません。あなたからはあなたと  
奥さんの長年にわたる愛情を感じること  
ができます。でも、あなたがこれを愛情  
と思つたら、これは……失礼かも知  
れませんが、やつぱり寝ることから生ま  
れたのです。あの、セックスについて、  
話してもかまいませんか？

陸少豊 もちろんさ！

李成 僕は、性の解放は生産力を推進する  
と思います。その実、セックスは回数が  
多くなると、質量が低下する。質量は守  
らねばならない。また、同時にマルクス  
主義経済学者は、実生活において具体的  
に運用しています。もし男の一生がこの  
規律に従うとすれば、愛情を得るのは簡  
単だと思いますね。

陸少豊 そうか？ それはとても新しい  
考えだが、私は人生をゲームのようにも  
て遊ぶことには賛成できないねえ。妻と  
私は何十年も一緒に暮らしたが、天地を  
覆すような偉業も成し得なかったし、愛  
情も天地を驚かすようなものではなかつ  
た。しかし彼女が示してくれた一つ一つ  
の細やかな思いやりや配慮は、私にいつ  
も一人の夫として、父親としての喜びを  
感じさせてくれた。彼女の愛情は、その  
一生をかけて証明したものだし、それは  
私が一生かけて体験したことなのだよ。  
日常生活の中の実に多くのものは、それ  
を失なうから、初めてその大切さに気  
づくんだよ。

李成 もちろん、僕も自分の感情を大切に  
思っています。こんなことを言うのは、僕

が決して愛情を求めてないということでは  
なくて、求めてはいるけど、強制はし  
たくないということです。愛情は尊重し  
ます、だけど屈服はしません。奴隷的な  
愛情と、地主的な生活のどちらかを選ぶ  
としたら、僕は後者を選びます。これが  
現実というものです。

陸少豊 李君、君は私の若い頃を思い出さ  
せる。その頃、私には追い求める理  
想があった。時代は違っているかも知れ  
ないが、とても似ている！

李成 私たちがですか？ 陸先生、こんな  
言葉があります。両者の愛久しければ、  
吾に共に暮らすべきや、……これって、  
スゴイですよ、そう思いませんか？

陸少豊 2人の愛が確かならば、毎日共に  
暮らす必要はないということかね、実に  
リアルだ。

李成 陸先生、あなたは奥さんを愛してい  
たと言いつつ、わかんない、ずつとそう思  
ってはきたけれど。

李成 では反対から見ると？  
陸少豊 反対から？  
李成 奥さんは、あなたを愛していたと言

えますか？

陸少豊 ああ！ この点は絶対に肯定でき  
る！

李成 そう言うだろうと思つてました！そ  
れでこそ男だ！

陸少豊 (大笑い) そうか？ 男の感か  
ね？

2人は互いに飲む。白蘭が扉を開けて入っ  
てくる。

白蘭 あら、もう飲んでるの？

陸少豊 うれしいね、今日は李成が食事の  
仕度してくれたんだよ。

李成 君の帰るのを待つてたんだ！

白蘭 食事の仕度をただ1度しただけで、  
そんな得意そうな顔をして。(白蘭はト  
イレに入る)

陸少豊 ちょっと待つて。(陸少豊は台所  
に入り、李成は料理を準備する。少しし  
て陸少豊が一瓶の二鍋頭をさげて出てく  
る)さ、瓶を開けてくれたまえ！(酒瓶  
を渡す、李成は受け取るのをためらう)

李成 この酒はさわらないで、僕はずい  
僕が一瓶買ってきました、それに洋酒もま

だあるし……。

陸少豊 買いに行くことないさ、これを飲  
もう、今日はおれしいんだ。みんなで楽  
しく飲もうじゃないか。

白蘭 (トイレからハンカチで手を拭きな  
がら出てくる)ね、李成、開けたら、今  
日は先生がこんなに喜んでらっしゃるん  
だし……。

李成 これはね、先生の奥さんが、冷蔵庫  
の中に入れておいたものなんだ。先生は  
ずつと飲まないでいるんだ。

白蘭 ごめんなさい、私行つて買つてきま  
す！

陸少豊 白蘭、もどつておいで、開けて、  
飲もう、妻も喜ぶさ。

李成 はい。(瓶を開け、酒を注ぐ)白蘭  
俺たちの陸先生に対する敬意を表して、  
乾杯！

陸少豊 ありがとう。(3人乾杯をする)  
わあ、2年ぶりだ。二鍋頭を飲むのは、  
(突然電気が消えて、まっ暗になる)

白蘭 あらっ、停電かしら？

李成 たぶん、ヒューズが飛んだんだ、隣  
は電気がついてる！ 陸先生、ヒューズ  
はどこにありますか？ 直してきます。

陸少豊 その必要はないよ、君たち見てこ  
らん、ほら、初冬の月の光、こんなに明  
るい。月の光の下で食べながら語ろう！  
どうかね？

白蘭 うわあ！ いいアイディア、とても  
ロマンティック、先生、停電が好きなん  
ですか？

李成 それは、お前だろ！  
白蘭 そうなの、私停電大好き、小さい頃  
住んでいた所はね、いったん停電すると、  
あたり一帯、何キロ四方も、一晩中まっ  
暗闇で、なんにも見えないの。ほんとに  
すこいんだから。

李成 いかれてる！  
陸少豊 (台所から蠟燭をもつてくる)白  
蘭、以前私は停電が嫌いだった。いった  
ん停電したら、本も脚本も読めない、予  
定がメチャクチャになる、けど、この頃  
以前の停電の風景をよく思い出すんだ。

停電すると、妻の秀蘭が蠟燭を灯して  
テーブルの上に置く、子どもたちはその  
テーブルで宿題をし、そのかたわらで、  
秀蘭が編み物をしている。私はね、ただ  
黙ってタバコをふかす。こんなに小さな  
1本の蠟燭の光が私たち一家を明るく照

えますか？

陸少豊 ああ！ この点は絶対に肯定でき  
る！

李成 そう言うだろうと思つてました！そ  
れでこそ男だ！

陸少豊 (大笑い) そうか？ 男の感か  
ね？

2人は互いに飲む。白蘭が扉を開けて入っ  
てくる。

白蘭 あら、もう飲んでるの？

陸少豊 うれしいね、今日は李成が食事の  
仕度してくれたんだよ。

李成 君の帰るのを待つてたんだ！

白蘭 食事の仕度をただ1度しただけで、  
そんな得意そうな顔をして。(白蘭はト  
イレに入る)

陸少豊 ちょっと待つて。(陸少豊は台所  
に入り、李成は料理を準備する。少しし  
て陸少豊が一瓶の二鍋頭をさげて出てく  
る)さ、瓶を開けてくれたまえ！(酒瓶  
を渡す、李成は受け取るのをためらう)

李成 この酒はさわらないで、僕はずい  
僕が一瓶買ってきました、それに洋酒もま

していた、あんなにも温かく、おだやか  
に。さあ、君たちのために乾杯しよう。

李君がみなみと注いでくれたまえ、君た  
ちが引越してきてくれて、私はまた、家  
というものを取りもどしたよ、ありがと  
う！(3人立つて飲む)

李成 先生、僕、突然、よい考えが浮かび  
ました。同意して下さるかどうかわから  
ないけど？

陸少豊 なにかな？ 言つてこらん！  
李成 私たちに何か芝居の一節を演じてく  
ださいませんか！

白蘭 (手を打つて) 名案だわ、陸先生、  
お願いします！

陸少豊 ダメ、ダメ、ダメ！  
李成 先生、私たちがほんとうに聞きたいん  
です。

陸少豊 本当に？ うん、じゃちょっと考  
えさせて、何をやるかな？ ん、じゃ「ハ  
ムレット」の中の「生きるべきか、死ぬ  
べきか」のところを演ろうか？

白蘭 (興奮して) はい！  
陸少豊 (ずつと醗酵していたものが爆  
発するかのよう)「生きるべきか、死  
ぬべきか？ それの問題だ！」(突然、

李成のポケットベルが鳴る、李成は頭を下げて、ポケットベルを見る。陸少豊は照れくさくなってやめる。

白蘭 だれ？ こんなに遅く！

李成 社長。

白蘭 退社後も休ませてくれないの？

陸少豊 きつと何かあるんだよ。

白蘭はじつと動かない、じつと、李成が立ち上がり電話をかけるのを見ている。

李成 (電話が通じ、非常に簡単に話す。

日本語である) こんばんわ！ ああ、そうですね、わかりました、必ず行きます、必ず、失礼します！ (電話を置く) すみません陸先生、ちよつと出かけなければならなくなつて……

陸少豊 わかった、私たちは食べたし、飲んだし、話もした、とても楽しかった。仕事があるのなら早く行きなさい。

白蘭 (杯の中の酒を飲み干し) 李成、もう遅いわ、行かなくてもいいでしょう、それに、私たち食事をしている最中よ、今日は陸先生もこんなに喜んでらっしゃるのよ。

陸少豊 仕事なんだ、彼を行かせてやりなさい、だが外は寒いからね、たくさん着て行きなさい。

李成 すみません。白蘭、明日社長の誕生日パーティーがあるんだ、僕に準備を手伝ってくれって。

白蘭 (冷やかに) じゃ、彼女は どうしてもつと早く言わないの——行かないで。

李成 そんな理屈のわからないこと言わないでくれよ。それに、彼女は僕の会社の社長なんだ、言うことは聞かなきゃならないんだ。

白蘭はぼおつと李成を見ていたが、猛然と立ち上がり、部屋に駆け込みベッドの上で倒れる、ドアはピンと閉じられる。

李成 すみません、彼女はちよつと強情なもんで。

陸少豊 気にしないで、だが、私たちの交わした賃貸契約書にケンカをするべしという規定はなかったよ、この次はだめだよ。

李成 ええ、ええ、すみません。僕行かない。

けりや……

陸少豊 帰ってきたら白蘭を慰めてやるんだよ！

李成 わかりました！ (服を持って出て行く)

陸少豊 じゃあね。(テーブルの上の蠟燭を取りあげ、そつと吹き消す。ひとりで座っている。それから杯を取りあげ、酒をぐつと飲み干す。そして、静かに電話を取りあげる) 鄭君、私は本当に感謝してるんだ、君が私のために考えてくれたこの方法を！

照明 F・O

(四景)

明かりが入ると、白蘭がスタンドの灯の下で何かを編んでいる。ひっきりなしに腕時計を見る。李成が入ってくる。彼は陸少豊の部屋の戸が半開きになっているのを見出し、こつそり首を伸ばして中を見る。陸少豊はいない。

李成 (部屋に入る) また寝てなかったのか？

李成 (恥じて) 残業だったんだ、仕方なく。

白蘭 あなたを責めるつもりじゃ、ただあなたともう一度踊りたいと思って、だから待ってたの、ねっ？

李成 ああ。

白蘭 じゃ、音楽をお願い。李成、これから毎年クリスマス夜の夜に、私たち踊りましょう？

李成は C・D をかける。「新世界より」の旋律が緩やかに広がる。

李成 なんだまたこの曲だ、ここには別の曲がないのか？ (変えようとする)

白蘭 (制止して) 変えないで、私この曲好き。

李成 (衣服をちよつと整え、白蘭の前に立つ) お嬢さん、私は李成と申します、一緒に踊っていただけですか？

白蘭は身を起こし、イングリッシュホルンの哭くが如く、訴えるが如くの旋律に合せて抱き合せて踊り始める。

白蘭 待つてると思わなかったの？

李成 だれのを編んでるんだ？

白蘭 陸先生の、このところ先生元気がないの、ずつとだれかに電話してる、寒くなつてきたし、マフラーをプレゼントしてちよつとびつくりさせてあげようと思つて。

李成 へえ、ずいぶんとやさしいんだ！

白蘭 どうして？

李成 なんだって？

白蘭 どうしてこんなに帰ってくるのが遅いのって聞いているのよ？

李成 君は、俺がいつも遅く帰りたいと思つてるとも言うのか？ 俺の会社は日本人の会社だ、チクシヨウ、もうロボットになりそうだ。

白蘭 あら、あなたは朝から晩まで、社長がああだ、こうだつて言ってるわ、あの日本の女はどうしてあなたを奴隷みたいにこき使うことができるの？

李成 やめてくれよ、そういう言い方は、国営企業の君のようにはいかなさ。

白蘭 じゃどうして日本企業なんかに入つたの？ 後悔してるんでしょ国営企業を辞めたこと、当然だわ。

李成 もう一度言ってみる。俺が日本企業に行かなかつたら、この部屋が借りられたと思うか？ 部屋代、生活費、水道

電気、ガス、携帯電話だつて月千元はかかる、君が払ってくれるとでも言うのか？

白蘭 部屋を借りただけじゃない、何がそんなに偉いのよ！

李成 言ってくれるじゃないか、君は俺が金の成る木を持つてるとも言うのか？

白蘭 静かにして、真夜中なのよ！

李成 彼はいないさ、俺がケンカを楽しんでるとも思つてるのか？ 朝から晩まで、やりきれないよ！

白蘭 いらない？ さっき、ホルンを磨いているのを見たわ。

李成 じゃ、自分で見てこいよ！ 散歩にでも行つたんだろ！

白蘭 李成、ダンスをしましょう！

李成 ダンス？ 突然、なんだよ！

白蘭 (失望して) 2年よ。

李成 2年？

白蘭 2年前のクリスマスのダンスパーティーで私たちが知りあったのよ。去年のクリスマスはあなたが私の学校に来て、一緒に踊つた。そして今日はクリスマス。

白蘭 ひどい煙草の匂い、また、バーに行  
ったの？

李成 ちよつと寄つただけさ。

白蘭 社長と一緒に？

李成 仕事の話をしてたんだ。

白蘭 李成。

李成 ン？

白蘭 私のこと愛してる？

李成 えっ？

白蘭 ね、愛してる？ 愛してない？

李成 こういふ話はしないでおこようよ。

白蘭 私のこと愛してる？ 私、まじめに  
聞いているの！

李成 愛してると言つたら愛してる、愛し  
てないと言えば愛してない。君はどうし  
てそう幼稚なんだ。(白蘭は話すことを  
やめ、頭を軽く李成の肩にのせる)

白蘭 (自分に語りかけるように、軽く)  
私たちが初めて踊つた時のこと……、あ  
の時の曲憶えてる？

李成 いろんな曲があつたんだ、憶えてら  
れないよ。

白蘭 私たちが初めて踊つたのがこの曲  
ドボルザークの『新世界より』だった。  
あんなに強く抱きしめて踊ってくれた。

李成 どうって……。今の会社を辞めて、  
1ヵ月たった6、700元の会社に行け  
って？ それぐらいの仕事、どこにでも  
あるさ、めずらしくもない。

白蘭 だけど、ちゃんとしたところだし、  
公費医療とかあるし、その他も。

李成 じゃその上、俺が何をするか、聞き  
たいわけ？

白蘭 だから今相談してるんじゃない、わ  
かつてたら聞かないでしょ？

李成 何も聞くことなんかない、辞職！

白蘭 今日、陸先生に相談したの、先生は、  
もう一度話し合ってみたらって！ 急が  
ないようにって！

李成 それでもう一度俺がどうするか聞い  
てるわけ？

白蘭 李成、今日はどうしたの？ そんな  
にビリビリして……。

李成 どうしたかだつて？ うるさいんだ  
よ！

白蘭 うるさいって、何が？

あなたの腕の中はとっても温くて心地よ  
かった。そしてあなたの好きな詩をブレ  
ゼントしてくれた。『あなたは、その決  
して広くない肩で、私のために支えよう  
とする、永遠に屈伏しない天空を』  
李成 だれかの詩をちよつと引用したん  
だ。

白蘭 今あなたは私の傍にいて、あなたの  
肩はあの時と同じように広い。でも私と  
ても寒い、あなたの心はもう私の傍にい  
ない、とても遠く離れてしまったみたい。  
李成 (離れて) どういうことだよ、俺の  
は標準的な踊り方だ、君の方が上手にな  
ってないだけだ、やめよう、何もわざわざ  
ざあざあがしすることないだろう？

白蘭 卒業してから今日まで一度も踊って  
ないんだもん、上手になるはずないでし  
よ。

突然、トイレの水を流す音がして、陸少豊  
がトイレから出て来る。李成と白蘭はあわ  
てて離れる。

李成 (照れくさい) 陸……陸先生、僕た  
ち先生が家にいないと思つて！

白蘭 君がだよ！

白蘭 あなた、おかしいんじゃない！

李成 おかしいのは君の方だ！

白蘭 私はただ、考えを決めたかどうか聞  
いただけなのにどうしたというの、言い  
たくないんじゃないわ。私が余計なこと  
をした？ 気が狂つてる！

李成 お前、口をつつしめ！

白蘭 何よ、私はあなたの帰ってくるのを、  
ずーっと待つてたの、聞きたくないん  
ならやめる、だれもあなたのことを心配な  
んかしないんだから、もしだれかいるん  
なら、そっちに行つたら。(怒って、テ  
ブルの傍に座る)

李成 白蘭、俺たち、ちゃんと話し合おう！  
(電話のベルが鳴る、急いで電話を取り  
あげる) 今日ワ、モシモシ……ハイハイ、  
バカ、ハイ……ハイ(大笑いする) O・  
K……ハイ……私も家に着いたところ  
です、本当に楽しかったです、ありがとう  
ございました。オー、へへへ、ハイ……。

白蘭 (突然立ち上がり電話を奪い取り大  
声で) アンタ、なんなのバカヤロー！

李成 (急いで電話を取り返す) なにする  
んだ？ 気でも狂つたのか！

陸少豊 いや、別に何も、トイレに入って  
たもので、おどろかせて悪かったね。ク  
リスマスおめでとう！ (腰をかがめて部  
屋に入り扉を閉める)

白蘭 (C・Dを止める) 陸先生が家にい  
ないって言ったじゃない？

李成 トイレに入つてただなんて、知るわ  
けないだろう？

白蘭 話にもなんないわ。(部屋に入る)

李成はテレビをつけ、腹を立ててソファに  
寝ころがってテレビを見る。ひっきりなし  
にチャンネルを交える。

陸少豊が出てくる。

李成 どうかしましたか？

陸少豊 なんでもないんだ、眠れなくてね、  
煙草を吸おうかと(テーブルの上から取  
りあげ) 李君、テレビの音を、ちよつと  
小さくしてくれないか？

李成 あ、すみません。(李成は慌ててテ  
レビの音を小さくする。陸少豊は部屋に  
入る)

白蘭 (部屋から出て来て) 李成、この前  
言ったこと考えてくれた？

白蘭 そう、私狂つてる、それがどうした  
の(電話に向かって) いやな日本女、私  
の家に電話なんかかけてくるな、バカヤ  
ロー、出てゆけ、いやな日本女、いやな女！

李成 これは会社の同僚だ、お前、なんて  
ことをするんだ！

2人は電話を取り合つて争う。突然壁に掛  
けたイングリッシュホルンがゴトンと音を  
立てて床に落ちる。陸少豊が部屋の扉を開  
けて出てくる。白蘭は手の中の電話を振り  
出し、顔を覆つて自分の部屋に逃げ戻り、  
部屋の扉をピンと閉める。李成はイングリッ  
シュ・ホルンを取り上げるが、どうしてよ  
いかわからず陸少豊を見つめる。

李成 すみません、陸……。

陸少豊 どうしたんだ、どうしたんだ！

李成 陸先生……このホルン、もし壊れて  
いたら僕……僕弁償します。

陸少豊 (ホルンを奪い取り、爆発したよ  
うに) 君が……弁償する？ 君は自分を  
何さまだと思つてるんだ、弁償できる？

明日……、明日、出て行つてくれ。(身  
を翻して部屋に戻り、ピンと扉を閉める)



(五景)

明かりが入る。白蘭は居間のソファに座ってテレビを見ている。突然、彼女の視線がテーブルの上の花瓶に差してあるカーネーションに行き、彼女はゆっくりとそれを自分の気に入る形に整える。この時正面の扉が開き、陸少豊が浮かない様子で入ってくる。彼は額の上をちよつと怪我している。

白蘭 (振り向き、陸少豊を発見して) 先  
生お帰りなさい!

白蘭 今日は初日ですね、大成功だったんでしよう! 李成が残業でなければ、2人で観に行けたのに。私たち花束も差しあげようと思つてたんです。

陸少豊 こんな多居、見なくたっていいよ!  
白蘭 陸先生、この前の晩のこと、まだ1度も謝つてませんでした。私がいけなかったんです。どうぞ李成を責めないでください、ずつと、機会があればお詫びしよう……。

陸少豊 もう過ぎたことだ、行つて休みなさい!

幕は千里の彼方にあり  
話すことも得ず君凄涼ならん。  
我が面は埃りにまみれ  
びんは霜の如し  
例え相見ても識らざるなり。  
夜来の夢、忽ち古郷に帰る。  
小さき軒の窓辺、  
君美しく装いぬ、  
互に言葉もなく、  
唯千筋の泪あるのみ。  
年々断腸の思いや増す、  
明月の夜  
低い松の丘の君を思ふ。  
陸少豊は身を回して白蘭を発見し、はずかしそうにソファに座る。

白蘭 陸先生、私、ここで少し音楽を聞いてもよいでしょう。何かあったのですか?  
陸少豊 (答えたくない) 李成……まだ帰つてきてないのかね?  
白蘭 また、先生、ほんとうにどうしたの? 何かあったとしても、もう家に帰つてきたの。一切、もう過ぎてしまったことです。

白蘭 お酒を飲んだのですか? 突然、陸少豊の額の傷を発見する) 先生、額の傷どうして……。

陸少豊 なんでもない、カスリ傷だ、大丈夫だよ、白蘭行つて休みなさい。私をちよつと一人にさせてくれたまえ。

白蘭 はい……では先生も早くお休みになってください! 初日で、きつとお疲れでしょう?

陸少豊 疲れる? (苦笑して) 疲れたね。  
白蘭 お休みなさい。(静かに自分の部屋に戻る)

陸少豊 お休み。(心が定まらない様子でソファに座る。傍のスタンドが弱い光を放っている。彼はテーブルの上のカーネーションをじつと見つめ、取り寄せて香りをかぐ。電話のベルを聞いたような感じで、無意識に受話器を取りあげる、一人言のように) 鄭君、少豊だよ、本当に君と話がしたい。知ってるかい、実は今日秀蘭が死んでから初めての舞台だったんだ。だが、たったあれだけのセリフなのに忘れて出てこない、俺は老いぼれてしまったのか? 老いぼれて、生活や、仕事、事業から置き去りにされて残つて

いるのはただ孤独だけ、生命が尽きてゆく寂しさだけだ。いったいどうしたらいいのだろう? (陸少豊は目尻の涙を拭く。C・Dのところに行き、C・Dをかける。サンサーンの「瀕死の白鳥」の旋律が流れる。彼は秀蘭の写真を凝視する) 秀蘭、今までにこんなに落胆したことは1度もなかった。俳優としてもうだめなのか? あの感覚を取り戻したい、だけど、つかめないんだ。今私は、ただ家に帰りたい、そしてもう1度、秀蘭お前の煮た紅豆粥が食べたい、ほら、いつも私のために煮て、テーブルの上に置いておいてくれた、あの紅豆粥さ!

この時白蘭がそつと部屋の扉を開けて出てくる。白蘭は静かに扉に寄りかかり、立っている。明かりは彼女の後ろから射している。彼女は、あたかも一つの影像のように陸少豊を見つめて立っている。

陸少豊 (気持を込めて吟ずる)  
生死を分かちて十年

両者は茫茫とへだたりぬ  
思わずとすれど忘れがたし

陸少豊 ありがとう白蘭、ほんとに何でもないんだ、ただちよつと気持ち晴れなくて、もしかしたら、一種の虚しさのようなものかもしれない。芝居がハネて、劇場からすべての人が出て行く。私は鞆帳を再び上げ、広々とした舞台上立つ。目の前にあるのはガランとした観客席。私の生命はこの一刻に凝縮され、まさにこの一瞬私は芸術という宗教に帰依する。

だが今になって、ゆっくりと降りて行く鞆帳が恐ろしくなった、明日また鞆帳が上がる時、自分はまたこの舞台上立っておられるのだろうかと思ふのだ。  
白蘭 できます。それにあなたにたくさん観客があなたを待っています。  
陸少豊 ありがとう、白蘭、君にとって「人生」という芝居の幕は上がつたばかりだ、芝居はこれから始まる、けど私には、幕を下ろす合図の音が聞こえるような気がする。そして観客はもういない。  
白蘭 (いたずらっぽく) いいえ、陸先生、鞆帳は序々に上がり、芝居は間もなく始まります。観客は続々と詰めかけています。あなたは舞台の上で華やかに、光り輝いています。ね、聞こえるでしょう、観客

の万雷の拍手が! みんな手に花を持って、舞台に向かって歩いてくる。あなたを祝福するために。(白蘭はテーブルから花を取りあげて) 陸先生、あなたのお芝居はすばらしかったです、お花を受け取ってください!

陸少豊 (わざと) そうかな?

白蘭 (わざと) そうです! あなたは人の心をとでもよく理解できる人だから。

陸少豊 ありがとう!  
白蘭 (少しして) 陸先生、先生はほんとうに良い方です。そしてきつと良いお父さんです。

陸少豊 白蘭、父という文字はね、腰をまげてやつと子どもを背負えうという意味の字だ。だが、私は決して良い父親じゃなかった。仕事人間で、家のことはあまりかまわなかった。もちろん妻や子どもを愛してはいたが、仕事や芝居の方がもっと大切だった。子どもが出国したいと言つても、決して理解しなかった。この中国にも良い仕事があるのに、どうしてそんな冒険をする必要がある。自ら苦勞を買いに行くようなものだとおつてね。妻が死んだ時も私は彼女のそばにお

らず、舞台に出ていた。子どもたちはひどく怒った。息子が出て行く時、私たちは大喧嘩をした。彼は私に舞台がそれほど大切なら、結婚したり、子どもを作ったりするべきじゃない、家があるのに顧みないのは犯罪だと言うのだ。彼らは一生涯私を許さないだろう。白蘭、君のお父さんはどんな方なんだね、まだ一健在なんだろう？

白蘭 私が大学2年の時に亡くなりましてた。

陸少豊 すまない。

白蘭 陸先生、私たちがここに来てもう大分過ぎました、そして私は先生がどんなに家族や、奥様を愛してらっしゃったか深く感じています。一人の人間の心の中にこんなにも真摯な愛があるとしたら、家族に対して恥じることなんか絶対ありません。でも、私、李成からはそれが感じられないのです。

陸少豊 李成には勇猛心といった風なものがあるねえ。

白蘭 彼はずっと出国することを考えてます。

陸少豊 前と違って、それもまた悪くない

陸少豊 今はそれを後悔している。

白蘭 だしぬけでこめんない。あの、奥様を理解しておられましたか？

陸少豊 理解？

白蘭 私は女です、女がもし、あまり深く理解していない男と結婚するのは、閻羽が長刀一本で敵将の宴会におもむいたと同じくらい危険だと思います。(単刀赴会：三国時代の名将 閻羽が愛刀一本のみを持って敵将の招宴におもむいたという故事)

陸少豊 それは、うまいとえだ、確かに結婚するには勇気がいる。

白蘭 結婚のことも考えました。でも、いざ李成に面と向かうと、その勇気がなくなってしまうのです。

陸少豊 それは君、どうしても李成と話し合わなくちゃ、これは対策を考えるんじゃない、互いに理解と意思の疎通を図るためにね(戸が開き、李成が入ってくる) 李成？

白蘭 こんなに遅くなって。

李成 陸先生、今頃食事ですか？

陸少豊 噂をすれば影だ、今、君のことを話してたところだ！

と考えている、ま、少くとも視野を広げることでは、そうは思わないかね？

白蘭 わかりませんが、彼はしたいようにするでしょうけど。

陸少豊 だが、外国も天国じゃない、みんな自分で食って行かなくてはならない。おや、食べる話が出たら急に腹が減ってきたぞ、家に何か食べるものはあるかなあ？

白蘭 まあ、また食事をしてなかったのですか？ 私、もう外で食べられたとばかり、今夜、私紅豆粥を煮たのです、待っててください、すぐ持ってきます。

陸少豊 (驚いて) 何だって？

白蘭 紅豆粥です！ お好きでしたよね？

陸少豊 好きだよ、大好きだ。

白蘭 じゃ、すぐに。(下がってすぐに小碗に粥を入れて出てくる) 陸先生？

陸少豊 ん、なんだね？

白蘭 先生は李成のこと、どう思います？

陸少豊 君と李成は一緒に暮らしてるんだ、私より君の方がよく知ってるはずじゃないか。

白蘭 私たちは知りあって2年になりました、時間的には長くも短くもないし、彼

のこと私とても好きです。

陸少豊 それは私もよくわかる。彼も君のことが好きだよ。だが今は経済的な成功を第一だと考えているんじゃないかな？

白蘭 もし、もし私が先生の娘だったら、李成と結婚することに同意しますか？

陸少豊 (ちよつと意外である) どういうことかな？ 実際、李成は働き者だし生活に目標がある。

白蘭 同意されますか？

陸少豊 何だっけ？

白蘭 私の質問にまだ答えていません！

陸少豊 それは、双方気が合うかどうか見なくちゃならないし、それに縁があるかないかにもよる。

白蘭 では先生は？

陸少豊 私？

白蘭 ええ、一人の夫としては、どんな考えを持っておられますか？

陸少豊 男にとつては、仕事が第一で、夫であるというのは兼業だが、女の人にとつて妻であることが往々にして専業だ。私と妻はこの法則をととても尊重してきてた。

白蘭 それで結果は？

李成 私のことでですか？

白蘭 身体中が酒臭い、またバーに行ったのね？

李成 白……白蘭、君に、君に話があるんだ……話が。陸先生、ちよつと席をはずしてくれますか？

陸少豊 おお、わかった、わかった。

白蘭 待ってください、陸先生！ 何のこと？ 後からでいいでしょう、先生はまだ食べ終わってないのよ。

李成 白蘭、(深く息を吐いて) 俺たち……俺たち別れよう！

白蘭 別れる？！

李成 白蘭、俺は君が好きだ、だが俺たち、現実的にも見なくてはならないんだ。

白蘭 どうしたの？

李成 す……突然かも知れない、だけど……。

白蘭 だけど、けど何なのよ？ 話して！

李成 白蘭、冷静になつてくれよ。

白蘭 とつても冷静だわ、私、ただ、どうしてなのかわりたい。心配しないで、出会いたい、別れもきれいに、というのが私の信条なんだから。

李成 わかった。俺も君も外地人で俺の仕事

は不安定だし、この上海という大都会に溶け込むのは容易なことじゃない。俺たち2人はいろんなことを助け合つてやってきたし互いに必要だった。けど、ずつとこんな風になつて行くことが、不安なんだ、そうさ、俺は君が好きだ、けどそれが何の役に立つ？ 現在の条件からは将来どうなるかわからない。白蘭、互いに苦しむのはもうやめよう！ 君だったら、家も金もある上海戸籍の男を探すのは訳ない。だが俺は、機会があればすぐつかまえずなくちゃならない、これ以上待てないんだ。

白蘭 あなたは機会をつかんだというところ？

李成 そういうことだ。

白蘭 じゃあお祝いを言わなくては。

李成 彼女は俺の会社の……。

白蘭 あの日本女……でもずいぶん……。

李成 俺より8つ年上だ、俺の会社の社長だ。

白蘭 ふん、日本のオバサン、いいじゃない！ 李成 彼女は俺をとて愛している。

白蘭 あなたも彼女を愛してる、というわけ？

李成 わからない、すまない白蘭、君を傷

つげたくない、このことはもつと早く話さなくては、互いに傷つかないためにも  
と思つて。酒を飲まなくては話す勇氣が  
なかった。

白蘭 あなたに感謝しなくてはならないと  
いうわけね。

李成 このことは理性的に処理するべきだ  
と思つて。

白蘭 理性的？（突然立ち上がる）ふん、  
じゃ何も言うことない、行つてよ。

李成 俺の言いたいのは……

白蘭 みんな友だちだとしても言うの、そつ、  
私理的でないし、教養もない、じゃ、  
あなた何言うつもりなの、何も言つて  
もらう必要ない！ 傷ついたりしないわ！  
祝福してもらいたい？ 2人の日中友  
好に對するひとかたならぬご尽力に、感  
謝します！

李成 すまない、荷物を整理しなくては、  
彼女が下で待つてるんだ。（李成は部屋  
に入り荷物を整理する）

白蘭は屈辱に耐えかねベランダに出る。  
李成が荷物を持って部屋から出てくる。白  
蘭は振り返る。目が合う、李成は身を翻し

て出て行くこととする。

白蘭 待つて！

李成はちよつと立ち止まる。意味がわから  
ない。

白蘭 キスして（李成はぼかんとする。手  
に持った荷物が床に落ちる。それから疑  
わしげに近寄る。そして、さつと頬にキ  
スしようとする。顔と顔が触れるくらい  
に近づいて見つめ合う。白蘭はビシリと  
音を立てて李成の頬を打つ。李成はあえ  
て撲られる。動かない。彼は依然として  
白蘭を見つめている。見つめ合う。空気  
は一瞬凝固する。

李成 （まるで歯のすき間からもれたよう  
な感じの声で）ありがとう。（ふり返り  
荷物を取り上げると、身を翻して出てゆ  
く。そして軽く戸を閉めると退場）

白蘭はぼんやり、ひっそりと閉じられた扉  
を見つめる。そして軽く静かに歩いて行き、  
戸をにわかに乱暴に閉める。戸に寄りかか  
り、むせぶように、しゃくりあげる。

白蘭 （くやしそつに）そんな風に、陸先  
生は、そんな風に言わない。そつでしよ、  
先生は私をのしつたりしない、そつで  
しよ？（泣く）

陸少豊 白蘭、私は君をのしつたりしな  
い、だが言うことを聞かなくてはだめだ、  
さ、下りてきなさい、さ！

白蘭 （聞こうとする様子はない）人は死  
んだらどうなるのかしら、人は死んだら、  
何でも得ることができるのかもしれない、  
例えは先生の奥さんのように。あな  
たのような人が愛してくれたとすれば、  
彼女は死ぬ価値がある。死は怖ろしいも  
のではない、そつでしよ、人は死んだ  
らどうなるのかな？

陸少豊 （ためらいながら）死んだらどう  
なるか？（不安な様子で居間の中を歩き  
始める、ぶつぶつがやいているが、突  
然人が変わった如く、大声で雷が鳴り響  
くが如く）わかつた！ じゃ答えよう、  
死んだらどうなるかだつて？ なんにも  
ないさ、死んでしまえば何も感じなくな  
つてしまふんだ。だが君、わかるかね、  
残されたものがそれをどう感じるか？  
妻が病院でひとり寂しく死んだあの夜、

私は舞台の上で、臆せず、意気軒昂にハ  
ムレットを演じていた。そして舞台を終  
わつて病院に駆けつけ、彼女の氷のよう  
に冷たい身体を抱きかかえた。その時の  
気持、君にわかるか？ それはまるでナ  
イフで自分の肉を切り裂かれるようだつ  
た！（白蘭は一瞬震える）もしかすると、  
李成は君にひどいことをしたかも知れな  
い。けど、それはすべて彼の責任だろ  
うか？ 君に何の問題もないと言えら  
うか？ 君は何を求めてるんだ？ 同  
情、それとも哀れみ、それとも李成が考  
えを変えること？

白蘭 （椅子から飛び降り、くやしそつに）  
先生の言う通りだわ、ほししいのは哀れみ  
と同情、だつて、だつて私はこんなにも  
くやししく悲しいのだから。（泣きながら、  
陸少豊にすがる）

陸少豊 私はすつと君は強くて、物わかり  
が良い子だと思つてたんだ。わかつた  
よ、泣きなさい、泣きなさい、苦しみを  
話さない、胸の内にためておかない方  
がよい、自分一人で苦しめないことだ。  
白蘭 幻想にすぎないってわかつてるの、  
でも、どうしたら彼を引き止めることが

て出て行くこととする。

白蘭 待つて！

李成はちよつと立ち止まる。意味がわから  
ない。

白蘭 キスして（李成はぼかんとする。手  
に持った荷物が床に落ちる。それから疑  
わしげに近寄る。そして、さつと頬にキ  
スしようとする。顔と顔が触れるくらい  
に近づいて見つめ合う。白蘭はビシリと  
音を立てて李成の頬を打つ。李成はあえ  
て撲られる。動かない。彼は依然として  
白蘭を見つめている。見つめ合う。空気  
は一瞬凝固する。

李成 （まるで歯のすき間からもれたよう  
な感じの声で）ありがとう。（ふり返り  
荷物を取り上げると、身を翻して出てゆ  
く。そして軽く戸を閉めると退場）

白蘭はぼんやり、ひっそりと閉じられた扉  
を見つめる。そして軽く静かに歩いて行き、  
戸をにわかに乱暴に閉める。戸に寄りかか  
り、むせぶように、しゃくりあげる。

白蘭 （くやしそつに）そんな風に、陸先  
生は、そんな風に言わない。そつでしよ、  
先生は私をのしつたりしない、そつで  
しよ？（泣く）

陸少豊 白蘭、私は君をのしつたりしな  
い、だが言うことを聞かなくてはだめだ、  
さ、下りてきなさい、さ！

F・O

(六景)

F・I

明かるい月の光が窓を通して差し込み、居  
間の床の上に、まだらに窓の影がうつつて  
いる。白蘭は手にX・Oの瓶を握り、魂が  
抜けたように舞台の上をうろついている。  
日本の歌舞伎のように、突然舞台の前にき  
て深々とおじぎをする。

白蘭 （日本語で）おかえりなさい！ ど  
うぞよろしくおねがいます！（白蘭は  
リビングに戻り、椅子を一脚いっしょう  
けんめいにベランダに運んでくる。そし  
て椅子の背に座る。足を高く上げる。非  
常に危険であるが、全く意に介していな  
い。目は遠いところを見つめている。非  
常にしっかりとした感じで酒を飲んでい  
る。精一杯平静にうたう）私の空は、永  
遠に永遠に雨が降っている……（突然大  
声でわめく）私は自分の決して広くない  
肩で、君のために、永遠に屈伏すること  
のない天空を支える！（少しうなだれる）  
なぜかな？（続けてうたう）私の空、永

できるか考えずにはいられない、わかっている、感情をつなぎ止めることはできないんだって、そんなことしたら、もっと惨めに、敗けることだって！ 李成を理解できるし、もうどうしようもないとわかっていて、でも、自分で自分をどうしたらいいのかわからない！ 先生、わかりますか？ 私の頭の中に、いつも一本の弦のようなものがピンと張っていて、それが切れるんじゃないかって、恐れた、それが、それが本当に切れてしまった、現在本当に切れてしまった！

陸少豊 どうしようもないことがあるんだ。私たちはただそれを受け止めるしかないんだ！

白蘭 できない……。

陸少豊 白蘭、知ってるかい、鄭君が死んで、私に残されたもう一本の弦も切れてしまったんだ！

白蘭 鄭さんが……死んだ？

陸少豊 死んでしまった！ 今も私はしじゅう彼に電話をしているが、あれは一種の習慣でね、ただだれかに心の内を聞いてもらいたくて、ドボルザークの交響曲「新大陸」が取り持つ縁さ。あのインク

陸少豊 だれかな？ 白蘭かい！ きつと鍵を持ってかなかったんだ！（彼は扉を開く、と李成が立っている。李成は手に贈りものと大きな封筒を持っている。

陸少豊 オ、李君！ 入って！ 早く入って！ 外は寒いだろ！

李成 陸先生、春節おめでとございませう。（部屋に入り贈りものを渡す）少し早いです、年賀にうかがいました！

陸少豊 それはどうもありがとうございます。見てくれ、もうすぐ年越しなのに、まだ何の準備もできていないんだ！

李成 先生、白蘭はいますか？

陸少豊 それが、今あいにく留守だ、年越しの買い物に出かけて、君ちよっと、ちよっと待っていなさい！

李成（封筒を渡す）あなたからこの封筒を渡していただけますか？

陸少豊 いいとも、だが、もうすぐ戻ってくる、やっぱり待っていなさい！

李成 だめなんです！ 陸先生、すぐ行かなくては！ 2日後に日本に行きます！ 陸少豊 日本に行く？ 来て、来て、座って座って！（2人はソファに座る、李成

リッシュ・ホルンは彼の形身だ。30年来のかけがえない友だちだった。毎年春節は私の家で共に祝った。彼は一生独身だったのね、彼の言葉を借りれば、音楽と結婚したというわけさ。去年彼のオーケストラで内部試験があった。規定によれば、もう試験は免除される年齢だ。だが彼は自分の年に屈服したくなくて、あえて試験に参加した。そして、心臓発作をおこし演奏中に舞台の上で倒れた。彼は自分の命で芸術に最後の祭りをしたのだ。（沈黙）鄭君の死は私の心に大きく響いた。身の回りの多くのものは時と共に失われてゆく、だが生活は続いてゆく！ 李成は現実的でありすぎるかも知れないが、ある意味で正しいとも言える。別れるのは君たち2人のどちらにもよいことかも知れない、李成は君より生活の大変さを知っている、チャンスはつかむものだ。李成はためらわなかったんだ。

白蘭 陸先生、今までだれも私にこんなことを言ってくれませんでした。私もう酔ってません、大丈夫です。

陸少豊 ほんとうに？

白蘭 ほんとうに。ありがとうございます！

李成 いや、煙草はやめました。に煙草をすすめる）李君、どうかね！

陸少豊 おつ、そうか、そうか！

李成 僕、結婚しました。彼女は金持で、私の一切の虚栄心を満足させてくれます！

先生は私が権勢に溺れたと思われるでしょうが、これは私の信条にマッチしているんです。白蘭には悪いことをしたと思っています。でも、だましてないことだけは確かです！

陸少豊 自分のことをそんな風に言っただけじゃない！ 君の良いところは何をすることも自分の考えを持っていることだ。2人のためには残念に思うが、理解もできる。

李成 ありがとうございます！

陸少豊 生活というのは一面の鏡だ、みんな自分をその中から照らし出すんだ。

李成 陸先生、憶えてらっしゃいますか、あなたはずっと初めの頃私に「真摯な感情を信じなければ」と言われました。あれからずいぶん多くの経験をして、やっとその意味の重要さに気がつきました。

陸先生、僕もう行きます！ 白蘭に必ずこの封筒を渡してください、お願いします！

た。  
陸少豊 札を言う必要はないさ、それより君の作ってくれた、あの紅豆粥、あの紅豆粥が私をよみがえらせてくれたんだ。

白蘭 あの、紅豆粥がですか？

陸少豊 私がどうして、君と李成に芝居を見せなかつたかわかるかい？

白蘭 いいえ！

陸少豊 あの日、大失敗をしてしまって、だけど、今は立ち直った、そうだよ、君が自信を取り戻させてくれたんだ。今日、また新しい脚本を受け取った。私が主役の大きな芝居だ。どうだい、明日、私の芝居を見に来るか？ 端役だが頑張るよ！

白蘭 お花を持ってゆきます！ それから、喝を入れて下さってありがとうございます！

陸少豊 おう、喝を入れた？ そうかい！

(笑)

照明急速に消える。

(七景)

照明が入ると、居間の中央で陸少豊がテーブルを拭いている。呼鈴が鳴る。

陸少豊 必ず渡すよ。でも、もう少し待たら！

李成 すみません。

陸少豊 では君、外国で暮らすんだから、注意して、自分を大切にいなさい！ 家に手紙を書きなさい、向こうに無事に着いたらきつと私に電話をくれたまえ。

李成 はい、きつと。陸先生、僕あなたの芝居を観ました。あなたの父親役、すごく良かったです、あなたは絶対に立派なお父さんです！（2人は見つめ合う、子どものように陸少豊に向かって大きく腕を広げる。2人は固く抱擁しあう）

李成（離れて）陸先生、僕本当に失礼します！

陸少豊 ああ、行きなさい！（陸少豊が李成を送り出そうとした時、扉が開き白蘭が入ってくる）

白蘭 あら、陸先生！（頭を上げ李成を見ろ）あなた？

李成 こんにちは！ 白蘭。

陸少豊 李成は君に会うために来たんだ、私に贈りものも持って来てくれたんだ。お、2人で話さない、私はちよっと買物の整理をするから。李君、帰らないで、

屋(はん)をここで食べて行きなさい。  
李成 それには及びませぬ陸先生、僕すぐ  
に行かなくては!

陸少豊 それはいけないよ、言うことを聞  
きなさい!(テーブルの上の品を取りあ  
げ、部屋に入る)

白蘭 洋服を取りきたんでしょ、全部カ  
バンに詰めてある、自分で持って行って、

李成 そうじゃないんだ!

白蘭 じゃ座ったら、お茶を入れるから!

李成 (お茶を受け取り)元気がい?

白蘭 元気よ、あなたは?

李成 2週間前に結婚した。これで移民の  
手続きがうんと早くなる……。

白蘭 おめでどう! 彼女のこ気嫌はいか  
が?

李成 いいよ!(何か言おうとしてやめる  
が、やはり勇気を出して口にす) 彼女  
は今病院にいる。先週の火曜日の夜、俺  
が突然高熱を出したんだ。彼女は自分で  
車を運転して俺を病院に連れて行ったん  
だ。雨が降っていて、寒くて道は滑りや  
すかった。彼女は焦って、車を猛スピード  
で走らせた……その結果、事故を起こ  
した。病院の診断では、脊椎損傷で半身

陸少豊 荷物の整理はできたかい?

白蘭 できました!

陸少豊 何時の汽車だったかなあ?

白蘭 10時です。先生、もう4回も聞きま  
したよ!

陸少豊 すまん、なんという記憶力のなさ  
だ! そうだ、これは私から君のお母さん  
への年賀の品だ、どうかよろしく伝えて  
くれたまえ! 家に帰ったら、うんと親  
孝行をしてあげなさい、一人暮らしで、  
いつも淋しいのだからね! それで、い  
つこちらに戻ってくるんだね?

白蘭 学校が始まる時には戻ってきます!  
けど陸先生、今年の2月の家賃をお渡し  
してから、引越しをするつもりです。

陸少豊 引越す? 李成が君に預けた、そ  
のマンションに?

白蘭 いいえ、私、あそこには住めません。  
職場の同僚が、郊外に部屋を見つけてく  
れました。バスで直接学校に行けるんで  
す。

陸少豊 おお、そういうことかね、だが続  
けてここに住んでもいいんだよ、部屋を  
貸したのは部屋代のためじゃない。もし  
君が気に入ってるのなら、ここを自分の

不随になると、こういう運命だったんだ、  
自分でわかっている、言い訳をしに来たん  
じゃないんだ。過去のことは、自分でし  
たことは後悔してない。それで、彼女の  
父親が中国支店を撤収することに決め  
て、会社が持っていた2軒のマンション  
を俺に処分させてくれた。俺は1軒を売  
り払って、金を親に送った。残りの1軒  
は、その1軒は君に贈ろうと思う、君が  
住んでいいんだ、何もかも揃っている。

今になって、改めて発見した、この大都  
市に信頼できる一人の友だちもいないっ  
てこと、だが、君は信用できる。(白蘭  
は涙をいっばいためて、じっと同じこ  
ろに座っている。李成は封筒を白蘭の前  
に置く)中には、マンションの権利書と、  
その他の証明書と、すべての部屋の鍵が  
入っている。俺もう行く、身体に気をつけ  
て、さようなら。(李成は身を翻し出て  
行くこうとする。振り返りソファの上にじ  
っと座っている白蘭を見る。ポケットか  
らC・Dを取りだし、そっと白蘭の前に  
戻り置く)

李成 白蘭、これは新年のプレゼント!  
ドボルザークの『新世界より』だ。(ぐ

家だと思ってくれていいのだよ。

白蘭 私ここが好きです。でも私、先生が  
煩わしい思いをされてるんじゃないか……。  
すいぶん先生に迷惑をかけてしまいまし  
た。

陸少豊 私の生活には、つまり煩わしいこ  
とがなさすぎるんだよ。

白蘭 陸先生、私を引き取って下さってあ  
りがとうございます。  
ときどき、あなたが私の小さい時亡く  
なったお兄さんのような、永遠にこない  
汽車を待っている広野の中の小さな駅  
で、期せずして出合った兄さんのような、  
そんな感じがします。(身体をまわし少  
豊に対し)私行かなくては!(部屋に入  
る)

エピローグ

陸少豊は落胆してソファに座っている。白  
蘭が編み上がったばかりのマフラーを持っ  
て、部屋から出てくる。

白蘭 新年のプレゼントです。(彼女はマ  
フラーを少豊の首にかける。彼は子ども  
のようにそれを受ける。白蘭は軽く少豊

るっと部屋を眺めて、白蘭に) 新年おめ  
でどう!(身体をぐるっとまわして退場  
する)

白蘭は立ち上がり、さっと2、3歩追いか  
けるが、がっかりしてソファに戻りC・D  
を取り上げる。熱い涙が溢れ出る。陸少豊  
が、年賀用品を手に静かに出てくる。

陸少豊 李君は?

白蘭 行きました!

陸少豊 何かあったのかい?

白蘭 いいえ、何も!

陸少豊 白蘭、李成は本当は……。

白蘭 いえ、もう何も言わないで! 私わ  
かるんです、彼のこと、ただ哀れで。私  
ただ彼が、私より幸せな暮らしをしてほ  
しいと思うだけ。(少しして) 私に彼の  
かわりにマンションの管理をするように  
と! ここに権利書と鍵が入っていま  
す。

陸少豊 君を信用してるんだ。  
白蘭は忍耐強く涙をこらえ、声を出さず、  
懸命に努力して平静を取り戻す。

の額にキスをする) 私急がなくなっちゃ、汽  
車に乗り遅れちゃいます。(陸少豊は彼  
女を戸口に送る) 先生、私お願いがあり  
ます。先生の子どもさんたちに電話をし  
てくださいますか?  
陸少豊 電話をする? 彼らは私の電話を  
受けてくれるだろうか?  
白蘭 先生が、そう思ってからっしやるだけ  
です、どうか避けないで。  
陸少豊 わかった、約束する!  
白蘭 新年おめでどうござります!  
陸少豊 新年おめでどう!  
白蘭 さようなら!  
陸少豊 さようなら!

陸少豊は白蘭をじっと見送る。気落ちした  
風で身体で扉を閉め、軽く扉に寄りかかり、  
ガランとした部屋を眺める。マフラーを取  
り、ていねいにたたむと、きちんとテーブ  
ルの上に置く。万感の思い。  
彼はどうしたらよいかわからないように部  
屋を整理したりする。電話の傍らに行き、受  
話器を取りあげ、かけようとするがやめる。  
彼は電気スタンドをつけ、カーテンを開け  
る、突然何かを発見したように軽くペラン

夕に歩み寄り、空を仰ぐ、光の下に幾片かの雪が舞う。

陸少豊 (子どものように手を伸ばす) 秀蘭、見えるかい、雪だよ、雪が降ってるよ！(突然電話のベルが鳴る。陸少豊は不思議な様子、信じられない感じで歩み寄り電話を取り上げる)

陸少豊 はい、私です、陸少豊です、だれ？  
陸強？ お前、陸強かい！ ああ、私だ、父さんだよ、私もお前たちのことを思ってるよ、いや、私に問題はないよ、孫たちも元気かね？ 妹もいるのか？ うん、わかった。もしもし、そうだ父さんだ、私もお前たちを愛してるよ、わかった必ず行くよ、えお前たちが迎えに来てくれるって？ ああ、ああ待ってるよ、お前たち、今ね、こっちは雪だ、本当に雪が降ってるんだ、うん、たくさん、たくさん雪が降ってきた、すごく大きな雪だ、春を告げる雪だ……。

光の中を雪花が舞う。

F・O

作者 喻榮軍

上海体育大学卒業、上海話劇芸術センター制作部員、制作部勤務のかたわら、戯曲を執筆、処女作『去年の冬』は、2000年1月に上演され、25ステージが満席となり、上海演劇界の話題をさらう。

第2作『WW・COM』も引き続き非常に好評。

翻訳者 坂手日登美

劇団「息吹」にて、制作、演出として活動後、1997年より中華人民共和国、中央戯劇学院高級進修生となる。

現在、中国現代話劇の研究、及び翻訳、演出などを行う。2001年6月、日本の作者・泊篤志／作『生態系カズタン』の中国語訳及び演出をする。

なお、『去年の冬』の上演を希望される劇団及び個人は、必ず訳者坂手日登美にご連絡ください。

## 自治体の文化行政に関するアンケート調査の結果

2000・6・15

全日本リズム演劇会議事務局

近年、自治体の文化施策は、箱物づくりからソフトの充実へさまざまな試みがなされていきます。芸術監督に著名な演出家を招いたり、あるいは中央(東京)演劇の紹介を自主事業の柱にするような「上からの文化施策」がある一方で、自治体と住民が一体になって地域文化を考えようとする「草の根の運動」が注目されるようになりました。地域の文化振興の担い手であるはずの私たちも、こうした動きに深い関心を持って活動をすすめることを東西の議長団会議で確認しました。

そこで、それぞれの劇団の拠点である自治体の文化施策と劇団の関わりについて実態

を調査し、情報を交換して、今後の活動に役立てたいと願います。アンケート調査をしました。

【調査対象】  
全リ演加盟劇団および友好劇団 計1195

【回答】

東28、西23、友好劇団22の計1173

アンケート結果から

(1) 自治体の文化施策への関心が高まっている。

劇団内で地域自治体の文化振興について話し合ったことがあると答えた集団は56、また自治体の担当者等と地域の

文化振興について話し合う機会があると答えたのは41集団ありました。

近年、自治体の文化施策に変化がみられ、さまざまな地域で積極的に新しい試みが模索されていますが、旧態依然の自治体も少なくありません。

行政側の施策の一般的な尺度は、住民への影響力すなわち「数」であり、「前例」です。私たち自身、観客増に努力しなければならぬことはもちろんですが、「文化」と「数の論理」とは対極であること、「前例」では他の自治体の先進的な具体例を紹介するなど、地域の文化団体や舞台芸術家と連携して、ねばり強く話し合っていくことが必要でしょう。

自治体の担当者または議員と話し合う機会があると答えた集団が49もあったことは予想外の朗報でしたが、さまざま

な機会をつくって、その地域に応じた文化振興策について積極的に提言していく姿勢が大切です。

(2) ほとんどの劇団が何らかの助成を受けている

助成を受けたことがあると答えたのは60集団で、その内訳は、会場費減免40集団、事業助成40集団、双方とも受けたいのは25集団でした。

事業助成といっても、劇団の定期公演に対する助成では、会場費減免と似てきわめて少額で、「市民演劇祭」のように自治体が共催する催しでも金額は決して多くありませんでした。

しかし、岐阜はぐるまの創作劇、愛媛の県民ミュージカル、島根あしぶえの国際演劇祭、北海道波の町制100周年記念創作劇、大阪の新劇団合同公演など、企画力のすぐれた、あるいはイベント性のあ

る催しには多額の助成金が投入されています。助成金の多寡のみを問題にしたり、一過性のイベントを過大評価するのは適切ではありませんが、地域の文化振興と集団の力の蓄積に役立つ企画を考え出すことで、自治体を大きく動かす時代になっていることは事実です。

一方、助成を全く受けたことがないと答えた集団が13集団あり、自治体の助成制度の有無を知らない集団も4集団ありました。助成を受けることを深しとしない集団はさすがになくなったようですが、本来、芸術活動には金がかかるものであり、芸術団体への助成は、時代の潮流であることと自治体に認識させるとともに、私たちとしても、せめて制度の有無を熟知しておくべきかもしれません。

助成申請を「公募」していると答えた集団でも、例えば

神戸市のように、毎年、募集要項を新聞紙上で発表し、パンフレットにして公共施設に置くといった、市民に開かれた施策を自治体に提言したいものです。

学校や山間部の町村への巡回公演を委託している自治体もあり、27集団が要請に応えていました。兵庫県では「県民芸術劇場」と称して、県と開催地の市町村(または学校)が、公演費を分担し合っており、市町村や学校の負担を軽減して芸術鑑賞の機会を拡げています。昨今、経済不況が深刻化しているので、こうした制度の新設・拡充は難しい状況でしようが、各地の具体例を収集して、それぞれの地域で生かして下さい。とくに巡回公演への依存が大きい職業劇団にとって参考になるでしょう。

(3) 自治体へのアプローチを積極的に

自治体の担当者を知っている59集団、担当者が公演または稽古場を親に来た47集団、それぞれ予想以上の数字でした。ことに、自治体の担当者が文化振興について真剣に考えていると思うが38集団もあつたことは、日頃から行政に対する批判の厳しい私たちが、近年の自治体の変化を感じることができたでしょう。しかし依然として、真剣に考えていないという否定的な回答も24集団ありました。この数値は、担当者個々の態度や、調査する側の主観にも左右されますが、行政側の相も変わらぬ官僚的態度に閉口させられていることも確かです。

が16集団ありました。一方、招待している53集団のうち、親に来たのは39集団、親にこない14集団ですから、あまりいい成績ではありませんが、どうせ招待しても来ないからと諦めないで、根気よく招待し続ける、ねばり腰が必要でしょう。なぜか大都市圏では招待しないのに親に来て、中小の地方都市では親にこない傾向が何えました。

また自治体では広報紙は必ずと言っていいほど発行されているはずですから、とくに中小都市の場合、あるいは公共ホールで上演する場合は、紹介記事を掲載するよう提言してはどうでしょう。

(4) ホールの運営について

ホール運営に関心を持っていると答えたのは47集団ですが、運営に市民が参加できると答えたのはわずか18集団、ほとんどが中小都市でした。

とくに大都市の場合では、ホール運営に様々な意見や不満を持ちながらも発言できないものどかしさが感じられました。

また、ホールの自主事業があると答えた60集団のうち、その自主事業に51集団が参加していました。そしてホールから創作劇上演やイベントなど何らかの協力要請がある37集団、協力している24集団とあわせると、ホール運営の民主化、使用料の低廉化が劇団活動にとって大きな課題であることがわかります。(別ページの「自治体・公共 ホールに何を望みますか」参照)

(5) 公民館などの利用は

公民館など、公共の施設を稽古場利用している集団は半数近く33集団ありました。問題はやはり使用時間で、最近改善された点を挙げてもらったところ、徐々に延長され

ているようで、22時までと答えた集団が23ありました。また使用料金も改善されているようですが、意外にも無料が16集団もありました。

しかし自治体によっては財政危機を理由に料金を値上げしたり、延長時間に割増料金を設定する動きもあるよう油断できません。

職員の意識は、まあまあレベルに達しているようです。

〔調査項目別の集計〕

(1) 地域の文化振興策への関心について

- ① 地域で、劇団あるいは他の文化団体との協議会等に加盟していますか  
51 劇団の協議会に加盟  
37 他ジャンルのままたがる協議会に加盟  
5 加盟していない
- ② 劇団内で地域の文化振興について話し合うことが

(2) 助成について

- ① 近年、助成を受けたことがありますか  
60 有る  
13 ない
- ② 「ある」場合、その助成の内容は  
40 会場費の減免  
45 事業に対する補助金  
4 その他

(3) 自治体の窓口(課・係)・担当者について

- ① 窓口・担当者を知っていますか
- ② 「ある」場合、助成の対象は

(3) 自治体の担当者または職員と話し合う機会がありますか

- 49 有る  
9 機会があれば出席したい  
13 ない
- 3 効果を期待できない

(5) 助成の制度がありますか

- 54 有る  
12 ない  
4 分からない
- ⑥ 毎年、公募していますか  
35 公募している  
18 特別に申請する
- ⑦ 学校や山間地域への移動公演や国民文化祭への出演要請(予算措置)はありますか  
27 有る  
28 ない  
12 要請があっても応えられない

- 59 知っている
- 12 知らない
- ② 公演に招待してありますか  
53 している  
16 していない
- ③ 担当者が公演（または稽古場）を見に来たことがありますか  
47 あり  
23 ない
- ④ 自治体の広報誌紙に地元団体の公演案内等が掲載されますか  
43 される  
23 されない
- ⑤ 公演の後援名義などをもらっていますか  
59 もらっている  
13 もらっていない  
⑦ 「もらっていない」のは何故ですか  
4 手続きが面倒  
7 メリットがない・不必要
- ⑧ 公共施設（図書館・公民館等）にチラシなどを置いていますか  
51 置いている  
20 置いていない
- ⑨ 職員は地域の文化振興について真剣に考えていると思いますか  
38 思う  
24 思わない  
8 話したことがないの  
で分からない
- (4) 公共ホール等の運営（あなたの地域での代表的なホール）について  
① 管理している行政単位は  
24 府・県立  
61 市立  
3 町・村立  
② 芸術監督・アートマネージャーがいますか  
7 いる  
62 いない
- ③ ホールの運営に市民が参加（意見具申）できますか  
18 参加できる  
40 参加できない
- ④ ホールの運営に関心がありますか  
9 分からない
- ⑤ 市民参加型の自主事業（演劇祭・音楽祭・合唱祭等）が催されますか  
60 催される  
9 ない
- ⑥ 市民参加型の自主事業に参加したことがありますか  
51 あり  
18 ない
- ⑦ イベントや創作劇上演などで劇団（または個人）へ協力依頼がありますか  
37 あり  
24 可能な限り協力している  
17 ない
- ④ 関心はあるが日程の余裕がない
- ⑤ 公共の会館（公民館等）の利用  
① 稽古場に利用していますか  
33 している  
34 していない
- ② その場合の料金は  
16 無料  
13 有料（比較的安い）  
17 有料
- ③ 申込み時期・抽選は  
11 1年前  
17 半年前  
21 随意  
13 抽選  
7 抽選なし
- ④ 使用時間の制限は  
27 21時まで  
4 21時半まで  
24 22時まで
- ⑤ 職員は文化事業に理解があると思いますか  
7 思う  
35 まあまあ  
15 思わない

- ⑥ 近年、改善された点を記入してください  
9 料金の減免  
4 使用時間延長
- (6) 自治体・公共ホールに何を望みますか。  
(各地域の最近の特徴、全リ演としての活動に参考になる事項などを記入下さい)
- ◆劇団新劇場  
使用料廉価の小ホールの建設（札幌は特に少ない）。助成事業の拡大。使用時間の延長（21時を22時にしてほしい）
- ◆劇団ベルソナ  
ホールは、使用する団体に対する理解がほしい。文化に対する関心を積極的に持つて欲しい。単に管理上のことしか関心がない。地元団体の活動に目を向けてほしい。財政難の理由により実質的補助金減の傾向。
- ◆劇団よる  
市民会館とは名ばかりの421席。昔の公民館がそのま
- ◆劇団にれ  
札幌で私どもが使用できるのは教育文化会館小ホール（収容360人）ですが、平日1日の使用料が30万円十物件費30万円、時間制限は21時まで。職員は文化事業に理解あるとは思えず、多少理解のある職員は異動させられる。申込み時期は1年前の抽選：「書き出すと限りがないほど、不満が多い現状です。」
- ◆劇団うみねこ  
①自治体が文化芸術活動に理解をもってもらいたい。②文化活動を続けている住民と触れあってほしい。③職員みずからサークルに入って実践してほしい。④住民本位の立場で規則や条例を見直してほしい。
- ◆劇団演劇集団  
近年、自治体財政の悪化により、鑑賞型自主事業を展開してきた公共ホールは、完全に事業規模が縮減されてきている。そういう中で、経費的な面を考えて、地元で活躍する団体を活用してのソフト展開をする方向に行っているのかという点、そうではない。公共ホール職員にアートマネー・マネジメントの視点がない。公文協の鑑賞型マネー・マネジメントだけの「ツケ」が出ている。地方の公共ホール職員が中央指向になっている。
- ◆劇団側の課題 ①ソフト展開できる企画の提示、提案す
- ることに協力協議の場をつくる（2〜3年計画で）②今までの手堅い作品づくりから、新しい市民、新しい感性、新しい芸術性を探求するような企画が必要だ。③エデュケーションプログラムの需要は確実に増える。学校公演等を行っている劇団は早急に研究すべきだと思います。
- ◆劇団海鳴り  
使用料の減免。
- ◆劇団波  
現在、当町の公共ホール（収容1008名）は、9〜12月中旬に実施される岩内文化祭（文化団体協議会共催）に出演する文団協加盟団体は、稽古使用料、大ホール使用料も含めてすべて無料という恵まれた条件下にある（中略）。これ以外の時期に公演を行った場合は、減免措置（50%）。今後はこれを無料にしてい



たい。

もはや文化は、中央発信・地方受信の時代ではない。地方が文化(草の根文化)を中央に向かって発信する時代であると思う。このような時、小人数のちっぽけな劇団が、まちままと芝居づくりをしていく時代は終わった。広く地域住民に呼びかけ、地域のエネルギーを結集させ芝居づくりをしていくことが、そしてその中心になることが、いまだ地域に生きる私たちアマチュア劇団に求められていることだと思ふ。北海道では過疎化現象が広がるなか、このような形での芝居づくりが徐々にではあるが広まりつつあると思ふ。

創作劇「波」は広く町民に呼びかけ「岩内市民劇場を成功させる会」として活動を開始する予定。会員100名を目標として運動中。

#### ◆劇団湖

演劇専用ホールの建設！

#### ◆劇団弘演

①使用料の減免(会場費・物件費)。②使用時間の延長。③駐車場の無料化。④照明・効果・平台等の整備。⑤ホール・スタッフの育成。⑥演劇に適したホール(収容2000~3000位)を新設してほしい。(弘前市は17万なので最低4箇所位)。

#### ◆劇団支木

現在、青森市文化会館(キヤバ12000)、青森市民文化小ホール(キヤバ1500)で、中規模のホールがないのでほしい。

#### ◆黒石演劇研究会

自主事業のなかに地元文化団体を活用してもらいたい。

#### ◆劇団やませ

もう少し自治体とつながりを持ちたいと思っている。八戸市の場合、音楽関係(市民オペラ交響楽団)へのつながりがきわめて強い。

#### ◆劇団未来半島

職員に対して文化的理解を求める。市内唯一の劇団として、自治体は公共設備設計に少しでも意見を反映してほしい。演劇活動Ⅱ反体制のような、石器時代のような思考を持つ人間が自治体に多い気がするが、信じられない。

#### ◆劇団仙台小劇場

ホールの設計段階から市民の意見を入れてほしい。完成後も変更等(使用上の問題解決のため)を随時検討すること。運営を市民主体の委員会にすべきである。

#### ◆だいこん座

毎年秋の公演は、市民芸術祭参加、県民芸術祭参加で行いますが、会場費の40%ほどの助成です。せめて芸術祭参加事業は会場費を無料にしてほしい。

#### ◆劇団群馬中芸

自治体の文化行政に対しては私たちが加盟する群馬文芸連を通して発言してきましたが、ここ数年、その活動が停滞しているため、自治体との接触がなく、最近の特徴を掌握していません。

また基本的な考え方として、地域の人々との結びつきを強め、地域の人々によって支えられて今日がある時、その考え方とどう関わるのか、団内でも十分な討議がなされていません。人々との結びつきを強め広めていくために必要な場合は考えていきたいと思ひます。

#### ◆劇団銅鑼

担当職員によって対応が違い、また異動があるため、関係の継続がむずかしい。

また私たちは「有会社社」のため、営利団体としてみられることが多いので、区との共催や後援名義がないと公共施設にチラシなどを置かせてもらえない。

地域の様々な団体とネットワークすることで、地域での活動がしやすくなってきたし、自治体との話もしやすくなってきた。予算の縮小化・異動がネックになっている。

地域の個々の団体(とくに地域の中でかたよりがある行政サイドとして扱いやすい団体)との対話は多いようだが、もう少し開かれた場での、地域の団体との話し合いの場を作っていけたらと思う。特に一番の問題は使用時間。これは区内団体とのネット

トワークをつくり、署名を集め、条例改正ができ、時間延長はできたが、使用者負担というところで、5割増の延長料をとられることになった。今後ともこの点は改善にむけて活動を続けていきたいと考えている。

#### ◆東京芸術座

練馬区の文化センターは第3セクター(財団)の運営で自主事業も行っているが、ほとんどが招聘公演(客を呼べるスタアが必要)。公民館では有料公演は不可。専門劇団の場合、地域の会館と提携して何かイベントを行うことはほぼない。自前の稽古場があるので、稽古で使用することもない。

#### ◆京浜協同劇団

県と川崎市が著名な劇作家が作った演劇集団「川崎演劇塾」の結成に際し、稽古場や

宣伝等を無料でやってあげるほか助成金を出している。地元の歴史や伝説をとりあげて公演するというふれこみだったが、2年たってもそうした公演はもたれていない。行政は、著名人に弱く、そのネットワークだけをたよって文化行政をやるうとしている部分もある。

川崎市は「新世紀フロンティア事業」として若者たちを一般公募し、「ヤングミュージカル」を2年がかりで準備、来年秋に上演しようとしており、これに1500万円をかけようとしている。われわれ地元の劇団には年100万円の委託金しか出していないのに、このような打上花火的なイベントは金を使おうとしている。当初、ワークショップの講師や演出家等、主なスタッフを大学教授などよそから連れてきてやろうとする動きがあったが、われわれの反対

で、ふじたあさや氏などに変わってはいきた。

こういうことを専門に全国を股にかけてやっている人がいて、自治体に持ちかけているのだ。全国各地でミュージカルがやられているが、こういう動きに注意する必要がある。

#### ◆劇団石るつ

2000年5月から一斉に会場費が20%値上げされた。東京芸術劇場の値上げに端を発し、江東区でもあらゆる施設、会場が値上げされました。今日の国家的財政破綻が都民や区民にしわ寄せられ、今後値上げの方向が出てくる。

東京都の場合、助成という専門劇団中心である。地域劇団の場合は、社会教育行政に組み込まれる傾向が以前から強い。

## ◆劇団蒼生樹

日常生活への助成……稽古場、道具製作に使える場の提供をかねてより申請していたが、横浜市が、横浜アマチュア演劇連盟5劇団協同使用のために借りたスペースの賃借料の一部を助成してくるようになった。

## ◆川崎演劇塾

川崎市には、いわゆる小劇場（キャバ150〜250）がひとつもない。したがって公共の施設で芝居ができる空間があっても、照明機材すべて持ち込み、客席も自分たちで階段席を組む等、大変な労力をかけてきました。6年ほど前から、横浜にある相鉄本多劇場（キャバ150）で公演するようにしました。川崎演劇塾」でありながら、現在は横浜でばかり公演をしております。

## ◆三浦半島劇団海

「三浦市では今から30年前に文化会館建設の運動が始まりました……」との書き出しで行政主導でなく市民のためのホール建設をめざす「市民ホールを考える市民の会」の活動を展開。劇団は会の連絡先となって働いています。

## ◆劇団からつかぜ

ホール申込みが、社会教育団体に入っていないと3ヵ月前しか手続きができないため、身近なホール使用が不可能になった。（社会教育団体とは、各公民館などを使用している団体で、私たちのように稽古場を持っている団体は認められない）

浜松市の場合には「楽器の町」を売り物として、市民オペラ合唱団には多額の助成金を出してプロを取り込み大々的に公演を行うが、その割に入場料が高いから、市民参加型を

つくるっているが、一部の私たちの鑑賞にすぎないような気がする。私たちの働きかけによって少しは演劇への力も増していくかもしれない。そのためにも観客数を増して市民権を与えられる良い作品を作っていきたいと思う。

## ◆岡崎演劇集団

市民参加型も音楽劇を行政（市）主導ではじめました（97年上演、98年上演、99年戯曲公募）。しかし予算額が少なく、問題を抱えています。ただ単年度予算では創作はつくれないという要望に応じて実質3年のスパンの企画がいま進行中です。

初年度の99年は戯曲公募だけでしたので、計上予算は、98年度の4分の1以下だったと思います。その分、上演年度（2001年）に多くなるか心配の種です。私としては二言目には「単年度予算だから」

とかたくなに言い張っていた行政サイドの姿勢の変化は評価できると思っています。

## ◆劇団名芸

愛知県は30%カット。名古屋市は15%カット。しかも市は10年間会場助成をもらったところは、あと3年で打ち切りという方針が出されて困っています。現在、市議との懇談会など愛知文団連を通して準備中。

## ◆劇団名古屋

名古屋市の助成が、私たちの場合2年後に打ち切られます。（1団体10年という制限が設けられたため）。文化振興事業団の形態を県・市ともとっています。理事等が長期にわたって固定。充分意見を述べる機会を得ていません。以上の点の撤回・改善を望んでいます。

## ◆劇団はぐるま

私たちの劇団はまあまあうまく自治体と連携しています。大垣市は「江馬細香と頼三陽」「揺らぐ明治にたつ」、今年は「江戸を動かした女―春日の局―」が10月に予定されています。岐阜市は「信長野外劇シリーズ」、来年は最後ですが「本能寺への途」で4作目です。

これ以上の要望には応え切れないと、いいでしよう。自治体が地元で創るという原因はいろいろあります。①地域発信が求められているのに、その要望に応える座付き作者がいる。②一定の観客動員力を持っている。自治体と協力すると3500〜5000人の観客が見込める。これは劇団にとっても自治体にとっても魅力である。しかし、岐阜市の「信長シリーズ」は別にしても壁は見えていない。町起こしになれば

その町の偉人、伝説と題材が決まってくる。劇団はぐるまの舞台創造を地域の文化として発展させる考えは全くない。これでは限界が来ることは明らかである。しかし、劇団はぐるまの舞台だけに多額の助成をすることは他の劇団の手前できない。合同公演ならいいということになる。劇団はぐるまが圧倒的に他の組織より大きく岐阜を代表する組織なのにできない。東京からの文化団体には何千万の金を使い、何も矛盾を感じないのだから不思議である。地域の文化を発展させる方向が見えていない。

## ◆劇団夜明け

5月、体育施設アリーナ（卓球24面、2000年インータハイ会場）に併設して間口8間奥行9間の花道つき、盆つきの歌舞伎ホール（客席600）が、多くの文化団体が望

んでもないのに建設された（総額63億といわれている）。市街地から遠く、どれほどの使用があるだろうかと多くの市民が疑問を感じている。

客席912の現文化会館と使用料はほぼ同一に設定されたが、この地域唯一の劇団としてどのように活用していくか、団内でも意見はまとまっていない。

市政の汚点として決定的に市民に浸透させるために無視し続けるか（そこまでは公演を親に行かないという観客もいる）、行政により頼りにされる劇団になるために活用を考える（人が集まる魅力ある企画が必要になる）か議論しなければならぬ。

ともかくいま言えることは、自治体のホール担当者が自主事業を検討する時、全く一方的に決めていく姿勢を改め、市民との対話の中から事業をすすめていくことが必要

である。中津川文化協会として申し入れたと考えている。

## ◆上野市民劇場

上野市（人口6万）の公共ホールは文化会館があります。客席1200の多目的ホールのため市内の芸術文化団体はほとんど利用しておりません。客席500〜600の芸術劇場の建設が望まれています。いまのところ何の見通しもない現状です。

反面、民間ホール（教育会館300可動式）が多く使用されています。またこのホールは、会館の趣旨に沿って申請すれば使用料が減額されます（半額・会館運営委員会で審議）。

## ◆劇団すがお

役人が人事異動で替わるたびに方針が変わる。その都度、発信事業をと働きかけてきたが、今年度、桑名演劇塾とし

視察などの助成についてもぜひ考えてほしいと現在交渉中です。13年度からは実現する可能性もでてきました。

◆劇団集団あり

公共ホールの全職員は地域文化推進者の自覚を持ってほしい。市民文化の窓口である対応が大切。多くの公共ホールの管理が外郭団体であり、責任者が行政の退職者の天下りの場となり、単なる施設管理者で、地域文化振興に障害になる面もある。

米子市では市民主体の文化協議会があり、その一部門にホール担当部があつて、市と話し合いを続けている。

◆テアトル・ハカタ

公共ホールの問題ではなく、日本全体が変わらなければすべてのシステムは変わらないでしょう。

◆福岡現代劇場

現時点で福岡市で一番必要なのは、1000〜2000名程度収容の公共ホールです。2000年9月に1000人収容の小劇場が建設されますので、使用したあとでまた報告します。

その他、自治体・公共ホールに対するさまざまな要望を記入していただきまし

た。とくに、箱物からソフトの時代へ、という論調が幅を利かしている状態からはほど遠い現実……演劇専用のホール建設、ホール使用料の低減、不況理由による文化予算削減への不安、行政側の相も変わらぬ中央指向と大型プロジェクト事業の発言が寄せられています。

また、著名な演出家を芸術監督に招いて途方もない予算を投入し、市民感覚とはほど遠い一流派の実験のために、税金を無駄づかいする自治体も現れています。

しかし一方では、演劇ホールや練習場の建設とい

った明るいニュースも報告されています。また、すでに「演劇会議」誌で紹介されましたが、島根県しいの実シアターや今年の演劇フェスティバル会場になった岩手県銀河ホールのように、芸術文化による町づくりに、地域劇団とホールと自治体の関係が全国的に注目を集めてもいます。

いずれにせよ、地域劇団にとっては自治体の動向と無縁で活動を続けることが至難になっているのは確かです。全り演としても、それぞれの集団が活動しやすい環境をつくりだせるよう、各地の情報をいち早く提供したいと考えています。

アンケートにご協力ありがとうございました。文責 梶 武史

近年の助成実績(抜粋)

千円

年	自治体	対象団体名	対象事業	内容	金額
1998	北海道	劇団さっぽろ	巡回公演	事業	1,000
1999	札幌市	劇団さっぽろ	市内巡回演劇教室	事業	500
1998	北海道	新劇場	移動公演	事業	1,600
1998	北海道	劇団にれ	移動小劇場(2箇所)	事業	350
1998	北海道	釧路演劇集団	25周年記念公演	事業	200
2000	岩内町	劇団波	町制100年事業創作劇	事業	2,000
1999	三笠市	劇団湖	一般公演	事業	700
2000	北見市	劇団河童	40周年記念事業	会場費	400
1999	三笠市	劇団湖	一般公演	会場費	700
2000	北見市	実行委員会	第19回演劇祭	事業	1,500
1999	青森県	劇団支木	国民文化祭	事業	685
1998	青森県	黒石演劇研	県民文化祭参加作品	会場費	200
1999	弘前市	劇団弘演	35回公演(市民文化祭)	会場費	100
1999	埼玉県	劇団埼玉	埼玉文学館「見沼の波留」	事業	3,150
1999	神奈川県	京浜協同劇団	京浜協同劇団	文化賞	1,000
1999	神奈川県	県演劇連盟	公演活動(1集団・年1回=15団体)	助成	1,200
1999	川崎市	京浜協同劇団	40周年記念公演	会場費	100
2000	川崎市	川崎演劇協会	かわさき演劇まつり(毎年)	事業委託	1,280
1999	東京都	東京地域劇団演劇祭(第10回)		会場費	5,234
1999	浜松市	アマチュア劇団	浜松市芸術祭演劇部門	会場費	880
1999	岡崎市	岡崎演劇集団	定期公演	事業	50
1996	岐阜県	劇団はぐるま	「新島の飛騨んじい」	事業	13,000
1999	大垣市	市民(はぐるま)	「揺らぐ明治に立つ」	事業	12,000
1999	名古屋市	劇団名芸	研究公演	会場費	55
1999	名古屋市	劇団名芸	市民芸術祭「302号室の春」	事業	300
1999	名古屋市	劇団名古屋	定期公演	会場費	90
1999	愛知県	劇団名古屋	定期公演	事業	700
1997	桑名市	劇団すがお	定期公演	事業	300
2000	桑名市	劇団すがお	日韓文化交流	会場費	200
2000	中津川市	劇団夜明け	定期公演(中津川文化祭)	事業	25
1998	京都府	劇団京芸	定期公演「そうべえ……」	会場費	380
1999	京都市	人形劇団京芸	35回正月公演	会場費	230
1999	大阪市	関西芸術座	スタジオ公演	事業	200
1999	大阪市	劇団息吹	定期公演	事業	200
1997	大阪府市	新劇団協議会	新劇団協議会合同公演	事業	3,200
1999	大阪市	劇団未来	定期公演	事業	200
1997	大阪市	劇団きづがわ	定期公演	事業	200
1999	大阪市	劇団大阪	定期公演	事業	200
1999	生駒市	シアター生駒	演劇フェスティバル	事業	1,200
1998	吉備町	劇団いこら	人権講座	事業	600
1999	和歌山県	演集和歌山	定期公演	事業	50
1998	神戸市	劇団四紀会	定期公演(40周年記念)	事業	1,350
1999	県(復興)	劇団四紀会	定期公演	会場費	248
1998	県(復興)	劇団四紀会	演劇教室卒業公演	会場費	165
1999	神戸市	劇団どろ	定期公演(市民公募)	事業	1,000
1999	県(復興)	神戸ボレロ	定期公演	会場費	150
1999	神戸市	劇団協議会	神戸在住劇団の演劇祭(6集団)	事業	1,080

## 全り演東会議総会

日時 2001年8月25日(土)午後3時から  
26日(日)午後1時まで

会場 山梨県早川町雨畑あまはた 「VILLA雨畑」  
TEL 0556-45-2213

内容 1. 講演(演出家と交渉中)  
2. 総会  
3. 交流会

会費 1人 11,000円前後  
☆各集団からできれば複数のご出席をお願いします。  
個人会員の方もご出席ください。

(連絡先) TEL 044-511-4951 京浜協同劇団 城谷 護

## 全り演西会議総会

日時 2001年8月24日(金)午後6時から  
25日(土)午後1時まで

会場 京都市左京区八瀬野瀬町48 養福寺会館  
TEL 075-721-8575

会費 1人 7000円ぐらい

## ゼミナール「熱闘10分間芝居in京都・八瀬」

日時 2001年8月25日(土)夕方から  
26日(日)午後1時まで

会場 総会場と同じ  
会費 1人10000円ぐらい

(連絡先) T/F 06-6768-9957 劇団大阪 熊本 一

1998	広島市	劇団月曜会	40周年記念公演	事業	100
1999	山口市	劇団演劇街	国際演劇祭参加	事業	500
1998	島根県	劇団あしぶえ	「ファーブル先生」	事業	300
1999	八雲村	劇団あしぶえ	「セロ弾きのゴーシュ」	事業	250
1999	八雲村	劇団あしぶえ	「二十二夜待ち」	事業	380
1999	八雲村	劇団あしぶえ	'99八雲国際演劇祭	事業	3,500
1999	鳥取県	県演劇連盟	県民文化祭	事業	700
1999	米子市	演劇集団あり	定期(春)公演(市共催)	事業	800
1998	松山市	劇団こじか座	定期公演	会場費	25
1999	愛媛県	実行委員会	県民ミュージカル	事業	6,000
1998	福岡市	劇団協議会	市民芸術祭(市主催)	事業	2,000
1999	福岡市	劇団道化	新作公演	事業	500

戯曲から文化評論まで

「勝山俊介作品集」が刊行

劇作家・評論家の勝山俊介さんの作品集が東銀座出版社からこのほど出版され、全り演にも贈呈されました。

(1) 短編小説集 (2) 戯曲集 (3) 講演・評論集 (4) 評論・随筆集の4冊です。

戯曲集では、話題をよんだ「回転軸」をはじめ、「風成の海碧く」、「創世記」、「風の檻」、そして最近作で「悲劇喜劇」にも載った「永遠の旅路ーアデルセンの恋」の5作品が掲載されています。4冊セット価で11429円(税別)。申し込みは、

TEL 03-3813-4561  
FAX 03-3813-4564

(京浜 城谷)

訂正

本誌105号の舞台写真のうち、テアトロハカタ「アリババと40人の盗賊」は、作/北野ひろしとなっていました。が、正しくは徳満亮一です。お詫びして訂正します。  
(編集部)

おねがい

(1) 舞台写真をお送りいただくときに、必ず書き添えてください。

① タイトル

② 公演日

③ 作者

④ 演出

(2) 劇団通信から公演予定一覧表をつくっております。劇団通信の公演予定には、次の項目を必ずお書きください。

① タイトル

② 公演日

③ 会場

④ 作者

⑤ 演出

\*不完全な記述が多いため、各劇団に問い合わせています。その手間が大変です。で、よろしくお願ひします。  
(編集部)



1st Yakumo International Theatre Festival  
第1回 八雲国際演劇祭

21世紀は、どんな時代になるでしょうか。  
「少子化」「高齢化」といった社会構造の変化に加え、「情報技術(IT)」がもたらすグローバル化によって「多文化社会」となることは間違いありません。この時、必要になってくるのは「国際理解」です。

この「国際理解」と、人の心をつなぎ潤いをもたらす「演劇」とを結び「国際演劇祭」を企画しました。

「八雲国際演劇祭」は、関わるすべての人が、演劇の深さと楽しさを味わい、感動し、新しい友情を育てること、また、地域がいいきと輝き、演劇が人々の暮らしの中に根つき、参加劇団の創造視野の拡大とレベルアップが図られることを目的としています。

日程 2001年11月8日(木)～11日(日)  
会場 コンテスト：しいの実シアター(島根県八雲村)  
特別公演：アルパホール(島根県八雲村)  
コンテスト参加劇団  
大杉ミュージカルシアター(石川県小松市)  
劇団銀河(韓国・慶州北道)  
劇団支木(青森県青森市)  
カヨーティ(オランダ・ケルク・アフェザート)  
ラ・クロス・コミュニティシアター(アメリカ・ウィスコンシン州)

特別公演  
ジェスト・イン・タイム(カナダ・ノバスコシア州)  
劇団あしぶえ(島根県八雲村)

劇評  
しいの実シアターでの上演直後には、カナダ・シンガポール・日本の3人の審査員による「5分劇評」があります。全参加劇団上演後には、アルパホールにて「総合劇評会」を開きます。

チケット発売  
2001年9月10日(月)  
短期間で満席になることが予想されます。チケットはお早めにお求めください。

八雲国際演劇祭 実行委員会  
〒690-2105 島根県八東郡八雲村平原481-1  
TEL (0852)54-2400 FAX (0852)54-2411  
http://www.yitf.org E-mail:admin@yitf.org

2001年7月中旬以降の公演

●劇団通信の中から7月中旬以降の公演や行事をまとめましたので、都合のつく方はぜひ観劇しあってください。  
●公演予定については、公演日・会場・タイトル・作・演出を劇団通信にはつきりとお書きください。

劇団蒼生樹	7/13～15	横浜市教育文化ホール	そしてあなたに逢えた	近石毅子/作 濱田重行/演出
劇団はぐるま	7/20～22	岐阜市民会館	鷹の森の黒鬼と銀のシギ	E・ブレイク/原作 小畑あさひ/脚本 渡田正子/演出
東京芸術座	7/20	福島市	あの日は	統一雄/構成 山口みる/演出
劇団コーロ	7/27	東京都児童会館	12人の怒れる男たち	レジナルド・ローズ/作 船垣純/演出
	8/7	吹田メイシアター	カモメの飛ぶことを教えた猫	ルイス・セフルベタ/作 玉野直樹/演出
	8/19	#	だれが石を投げたか?	ミリアム・アスラー/作 ふじたあさや/演出
京浜協同劇団	9/1・2	谷町劇場	わいどま、きやあいうとたたききると	森田博/作 村上嘉利/演出
劇団錦羅	8/4・5	川崎多摩市民館	ふたこのバツタロールとギー	いずみ彌/脚本 団のぼる/演出
テアトルハカタ	8/20～26	けいこ場	秋田殺人事件	内田康夫/原作 平石耕一/脚色・演出
	8/27・28	大博多ホール	風の中の天使たち	中村アツシ/原作 テアトルハカタ/構成 中村アツシ/演出
	8/8	九州エネルギー館ホール	はだかの王様	徳瀬亮一/作 中村アツシ/演出
	8/23	九州エネルギー館ホール	長靴をはいた猫	石山浩一/作 黒江昭治/演出
	8/4・5	名古屋公会堂	神話	栗木英章/作 木崎裕次/演出
劇団名芸	9/8	天白文化小劇場	十一びきのネコ	井上ひさし/脚本 近藤亜由美/演出
劇団はぐるま	9/3～5	長良川国際会議場	信長、本能寺への道	こばやしひろし/作・演出
劇団潮流	9/6・7	梅田HEPALL	第1	清水邦夫/作 藤本栄治/演出
関西芸術座	9/5～9	関西スタジアム	ピート・キッズ	風野潤/作 斎藤樹実子/脚色 高瀬久男/演出
劇団四代会	9/8, 9, 9/14～16	神戸アトビレッジセンター	ソウルの位牌	北島道善/作 内田昌夫/脚色 岸本敏朗/演出
青年劇場	9/13～29	紀伊國屋ホールほか	竜馬はどこへ行った	飯尾憲士/原作 瓜生正美/脚本 林英雄/演出
劇団京芸	9/14・15	京都呉竹文化センター	ピロニヤン	鈴木哲也/作・演出
劇団やまなみ	9/15	こうふ演劇祭参加	忍びの者	小川英子/原作 中村アツシ/脚本 久保朋/演出
劇団上野市民劇場	9/30	上野市文化会館	浪花一揆大塩乱始末	村山知義/作 杉本正美/演出
劇団大阪	10/11～14, 18～21	谷町劇場	紙屋町さくらホテル	井上ひさし/作 石塚幹雄/演出
演劇集団土くれ	10/11～13	麻生区民センター	木仙は見えていた	馬場昌保/作 柴野千栄雄/演出
劇団たけぶえ	11/11	武生文化センター大ホール	巴川界隈	小島真木/作 伊藤幸夫/演出
劇団静芸	11/24・25	清水市民文化会館		

# 全日本リハビリズム演劇会議 住所録

## 東 会 議

ブロック	劇 団 名	〒	住 所	電 話	F A X
北 海 道	劇団さっぽろ	063-0053	札幌市西区宮の沢3条4-14-8	011-663-6259	011-663-9198
	劇団新劇場	007-0871	札幌市東区伏古11条2-366-47	011-784-9908	
	ドラマシアターども	067-0074	江別市高砂町37-90 安全智康方	011-384-4011	
奥	劇団弘演	036-8183	弘前市品川町1 フラジール内	0172-35-4670	同左
	劇団支木	030-0822	青森市中央2丁目4-6	0177-77-4677	同左
	黒石演劇研究会	036-0305	黒石市乙徳兵衛町51 加賀谷方	0172-52-4097	
羽	劇団やませ	031-0841	八戸市鯉町字下松苗場14-184 椎谷方	0178-33-3850	
	劇団未来半島	035-0053	むつ市緑町26-2 團丸二物産内 仁木方	0175-24-1189	
	劇団山形	990-2423	山形市東青田町5丁目8-5	0236-32-4105	
東 北	劇団たいこん座	997-0832	鶴岡市青柳町43-32 たんぽぽ保育園内	0235-24-1688	
	仙台小劇場	980-0022	仙台市青葉区五橋1丁目5-13 平和友好会館2F	022-264-2340	同左
	劇団群馬中芸	371-0101	群馬県勢多郡富士見村赤城山大河原626-498	0272-88-2700	
関	劇団崎芸	362-0032	上尾市日の出町4-508-1	048-777-4430	同左
	劇団久喜座	346-0003	久喜市中央1-3-13 江原方	0480-21-0664	
	青年劇場	160-0022	東京都新宿区新宿2-9-20 関川ビル4F	03-3352-6922	03-3352-9418
東	劇団銅鑼	174-0064	東京都板橋区中台1-1-4	03-3937-1101	03-3937-1103
	東京芸術座	177-0042	東京都練馬区下石神井4-19-11	03-3997-4341	03-3904-0151
	劇団展望	166-0004	東京都杉並区阿佐谷南3-3-32	03-3393-2739	

ブロック	劇 団 名	〒	住 所	電 話	F A X
関	演劇集団石るつ	134-0088	東京都江戸川区西葛西3-15-8-701 いとうエリコ方	03-3804-0507	
	演劇集団土ぐれ	120-0003	東京都足立区東和5丁目12-7-103 石塚方	03-3629-3286	同左
	劇団阿修羅	157-0062	東京都世田谷区南鳥山2-33-15 川崎方	03-3309-8633	
東	京浜協同劇団	212-0052	川崎市幸区古市場2-109	044-511-4951	044-533-6694
	劇団蒼生樹	220-0046	横浜市西区西戸部町2-192-14 濱田方	045-242-3584	同左
	三浦半島劇団梅	238-0102	三浦市南下浦町菊名56	0468-88-3142	
山	劇団やまなみ	400-0867	甲府市青沼1-8-5 梅津方	0552-33-9556	
	劇団静芸	420-0871	静岡市昭府町1丁目10-37	054-273-0604	
	劇団からつかけ	431-0201	浜松市藤原町21505	0534-49-0937	同左
静	劇団火の鳥	420-0941	静岡市松富3-60-30-3 泉地守方	054-273-0718	
	岡崎演劇集団	444-0016	岡崎市元次町3-10-3 浅井方	0564-21-2614	
	劇団名芸	468-0011	名古屋市太白区平針1丁目1808 (急ぎ、小包類は 457-0016 名古屋市南区沙田町11-8 (栗木))	052-803-2922 052-821-3691	052-803-2922 052-821-3691
中	名古屋演劇集団	451-0016	名古屋市西区庄内通4-16-3	052-524-5975	
	劇団名古屋	456-0018	名古屋市熱田区新尾頭町2-2-19	052-682-6014	
	劇団上野市民劇場	518-0873	上野市丸の内 共同ビル3F	0595-23-5252	0595-24-6444
部	劇団すがお	511-0943	桑名市森忠睦美丘1058	0594-31-4210	同左
	劇団夜明け	508-0022	中津川市北野町丸山	0573-65-4937	同左
	劇団はぐるま	500-8882	岐阜市西野町1-11	058-265-1852	058-262-1652
	劇団たけぶえ	915-0857	武生市四郎丸町2-2	0778-23-0147	0778-23-4095

## 西 会 議

フロック	劇 団 名	〒	住 所	電 話	F A X
大	関西芸術座	557-0042	大阪市西成区岸ノ里東2-10-2	06-6661-2112	06-6691-2090
	劇団潮流	557-0034	大阪市西成区松1-6-17 橋モータープール内	06-6658-2315	06-6656-4121
	劇団未来	536-0007	大阪市城東区成育1-4-25	06-6939-5777	同左
	劇団きづかわ	551-0031	大阪市大正区奥尾4-2-7	06-6551-3481	同左
	劇団大阪	542-0012	大阪市中央区谷町7-1-39 新谷町第2ビル103	06-6768-9957	同左
阪	劇団コロロ	546-0024	大阪市東住吉区公園南矢田2-4-7	06-6695-6401	06-6695-6405
	人形劇団クラルテ	559-0015	大阪市住之江区南加賀屋3-1-7	06-6685-5601	06-6686-3461
	大阪府職劇研	540-0008	大阪市中央区大手前2-1-59 大阪府職労会書記局内	06-6941-3130	
	劇団息吹	578-0913	東大阪市野224-14 カワチ勤労会館内	0729-64-4441	同左
	劇団京芸	612-8279	京都市伏見区射所北城堀31-18	075-631-2609	同左
京 都	人間座	606-0865	京都市左京区下鴨東高木町11	075-721-4763	同左
	劇団自立の会	620-0016	天津市比叡平2-35-5	077-529-8057	同左
和歌山	演劇集団和歌山	641-0022	和歌山市和歌浦南1-1-14	0734-45-4537	
	劇団四和会	650-0022	神戸市中央区元町通2-9-1-612	078-392-2421	078-392-2422
神 戸	劇団どろ	652-0803	神戸市兵庫区大開通7-4-7 谷垣ビル4F	078-576-6488	同左
	神戸職演連	650-0011	神戸市中央区下山手通9-9-7 西藤ビル	078-351-6969	同左
	劇団かすがい	660-0881	尼崎市昭和通1-17-1 石和久ビル3F	06-6489-8984	同左
戸	神戸ドラマ館ボレロ	650-0011	神戸市中央区下山手通9-9-7 西藤ビル2F	078-361-9870	同左
	劇団月丘会	730-0851	広島市中区檀町4-27 岩井方	082-234-9656	同左
中 国	劇団若者座	755-0003	宇都市則貞3-12-5	0836-32-7424	

フロック	劇 団 名	〒	住 所	電 話	F A X
中 国	劇団演劇街	753-0075	山口市中園町1-3 やの舞台美術内	0839-24-0075	
	山口事務所	753-0056	山口市湯田温泉6-3-28 柳沢方	0839-20-2379	同左
山 陰	劇団あしおえ	690-2105	島根県八束郡八雲村平原481-1 リーの実シブター	0852-54-2400	0852-54-2411
	劇団こじか座	790-0821	松山市木屋町4-35-1 酒井方	0899-24-3415	同左
四 国	福岡現代劇場	810-0022	福岡市中央区薬院1-6-5-410	092-751-7982	092-831-1696
	劇団生活舞台	815-0083	福岡市南区高宮1-4-12-201 松尾方	092-531-1166	
	劇団道化	818-0103	大宰府市朱雀4-2-7	092-922-0737	092-922-9738
九 州	劇団テアトルパハカタ	810-0004	福岡市中央区渡辺通5-20-1	092-737-7685	092-737-7689

個 人 加 盟	氏 名	〒	住 所	電 話	F A X
	桜井 裕子	921-8157	金沢市山科3-6-10 早川方	0762-44-2802	
	大橋 喜一	211-0006	川崎市中原区丸子通2-682-604	044-733-0627	
	岡田 和義	176-0003	東京都練馬区羽沢2-12-8	03-3991-1723	
	こうじ谷 一郎	924-0805	松任市若宮町2-4	0762-75-2755	
	大原 穠子	215-0004	川崎市麻生区方福寺2-14-5	044-966-8125	
	小松 徹	662-0947	西宮市宮前町8-8 ネオソレイブ宮前町401	0798-36-8341	
	栗原 省	643-0111	和歌山県有田郡吉備町庄684-32	0737-52-5963	0737-52-6099
	又川 邦義	673-0883	明石市中崎2-4-1-1310	078-913-6629	
	阿部 好一	565-0851	吹田市千里山西3-30-16	06-6385-3330	
	松永 英樹	753-0067	山口市赤妻町1-67	0839-22-6071	
	東川 宗彦	581-0865	八尾市服部川9-48	0729-41-0554	
	藤原 重孝	753-0041	山口市東山2-9-10	0839-22-0393	
川島 柳一	270-2251	千葉県松戸市金ヶ作57-57	0473-84-6207	同左	
島田 たろう	476-0002	愛知県東海市名和町中首羅8-71	052-609-4554		

友好劇団

劇 団 名	〒	住 所	電 話	F A X
アトスナー・ジ・ク・シロ	085-0816	釧路市貝塚1-6-19 加藤たけはる方	0154-42-8009	
劇団新芸	047-0261	小樽市篠園町3-23-162 鹿角優一方	0134-27-3746	
劇団河原	090-0036	北見市幸町8-3-4 扇谷国男方	0157-25-8348	
劇団湖(うみ)	068-2161	三笠市本郷町578-9 加藤元方	0126-2-3044	
劇団ベルソナ	062-0934	札幌市豊平区平岸4条12-8-4 秋元博行方	011-811-9036	
函館創芸	041-0844	函館市川原町2-5 長谷川潔方	0138-53-7520	
劇団海鳴り	094-0006	紋別市潮見町2-3-40 我孫子正好方	01582-3-3238	同左
劇団うみねこ	047-0042	小樽市末広町1-10 吉川勝彦方	0134-32-0607	
劇団波	045-0031	北海道岩内郡共和町梨野舞神 駒形勝博方	0135-62-3797	
劇団にれ	047-0263	小樽市美晴町10-14 柴山良安方	0134-62-4507	
劇団ソアターII	060-0005	札幌市中央区北5条西27-3-5-503	011-643-8238	
札幌ろうあ劇団舞夢	063-0802	札幌市西区24軒2条6丁目 身体障害者福祉センター聴力障害者協会	011-642-8010	
劇団風の子北海道	001-0033	札幌市北区北33条11丁目	011-726-3619	
劇団川	067-0056	江別市美原1695 春日基方	011-384-6064	
劇団産群別	048-2335	北海道余市郡仁木町銀山3-163 関孝心方	0135-33-5257	
劇団なよろ	096-0065	名寄市大橋90-1教員住宅21 松岡義和方	01654-3-1049	
釧路演劇集団	085-0026	釧路市寿町2-5 中山友征方	0154-23-6551	
繁次郎劇団	043-0052	北海道檜山郡江差町字茂尻町71 江差町文科会館内	01395-2-5115	01395-2-5594

劇 団 名	〒	住 所	電 話	F A X
演劇集団未踏	121-0816	東京都足立区梅島1-9-1	03-3880-0034	
演劇サークル表の会	133-0051	東京都江戸川区北小岩7-3-20	03-3659-8704	
川崎演劇塾	214-0005	川崎市多摩区寺尾台2-8-1-12-504	044-951-9819	
劇団津演	514-0027	津市大門31-28 仏教会館内 岸武雄方	0592-26-1089	
ドラマサークル 演劇研究所	420-0948	静岡市秋山町2-1715	054-271-0177	
劇団はにわ	462-0831	名古屋市北区城東町4-85 サンレーク 志賀本通402号 香川このみ方	052-981-5482	
演劇集団瞬(とき)	602-0000	京都市上京区芦山寺通り千本東入ル北立誓町51-7 山崎方	075-414-8824	
人形劇団京芸	611-0022	宇治市白川鍋倉山35-20	0774-21-4080	
演劇集団あり	683-0037	米子市昭和町23-2 宣倉方	0859-33-9302	
劇団いこら	643-0111	和歌山県有田郡吉備町庄684-32 栗原省方	0737-52-5963	0737-52-6099

(休会中)

劇 団 名	〒	住 所	電 話	F A X
劇団阿波っ子	770-0023	徳島市佐古三番町8-17 船越智子方	0886-23-5670	
岡山県橋演劇集団	719-1144	総社市富原480-3 岩城方	0866-92-4325	
座わだち	572-0045	寝屋川市東神田町22-21 安田幸二方	072-828-1349	
演劇サークルトラム	753-0041	山口市東山2-9-10 藤原方	0839-22-0393	

議 長 団 名	劇 団 名	〒	住 所	電 話	F A X
こばやし ひろし	劇団はぐるま	501-0104	岐阜市寺田852 円成寺	0582-51-0490	0582-52-3694
後藤 昌吉	青年劇場	184-0014	小金井市貫井南町5-12-13	0423-81-1590	同左



議長団	劇団名	〒	住 所	電 話	F A X
中野 健	劇団支木	030-0822	青森市中央2-4-6 劇団支木内	0177-77-4677	同左
藤沢 薫	劇団京芸	615-8152	京都市西京区醍醐内垣外町25-1-A403	075-391-5039	同左
梶 武史	劇団四紀会	673-0844	明石市東野町1-5-1009	078-911-1513	同左
津波 公一	福岡現代劇場	814-0033	福岡市早良区有田2-2-9	092-831-1696	同左

顧問

仲 武司	関西芸術座	675-0104	加古川市平岡町上山953-8	078-944-5013	
------	-------	----------	----------------	--------------	--

事務局	劇 団 名	〒	住 所	電 話	F A X
城谷 護	京浜協同劇団	211-0952	川崎市幸区東古市場9-21 (事務局長)	044-544-5737	同左
浅野 真理子	劇団はぐるま	500-8882	岐阜市西野町1-11 劇団はぐるま内	0582-65-1852	058-265-1652
熊本 一	劇団大阪	630-0135	生駒市南田原1230-60 (西会議事務局長)	07437-8-2558	同左
田中 実	劇団息吹	581-0081	八尾市南本町2-6-32 (西会議事務局次長)	0729-99-9437	同左
清原 正次	劇団大阪	570-0079	守口市金下町1-12-13 (西会議事務局次長)	06-6993-3113	同左
編集委員					
境野 修次	演劇集団石るつ	272-0136	千葉県市川市新浜1-23-5-103	047-356-7217	同左
石垣 政裕	仙台小劇場	981-1105	仙台市太白区西中田5-23-1	022-241-1396	022-241-6138
山崎 三郎	劇団静芸	420-0886	静岡市大岩2-19-10	054-245-5758	同左
栗原 省	劇団いこら	643-0111	和歌山県有田郡吉備町庄684-32	0737-52-5963	0737-52-6099
赤松 比洋子	劇団きつがわ	663-8141	西宮市高須町1-1-11-859 古川方	0798-45-3307	同左
熊本 幸男	演劇集団和歌山	640-8391	和歌山市加神271-14	0734-73-7589	同左

編集後記

☆鹿角市の高木豊平氏から…

「演劇会議」は早川さんに紹介されました。追悼の特集をありし日を偲びながら読ませていただきました。☆毎号楽しみにしています。地域演劇のためにも頑張ってください等多数の励ましの通信、ありがとうございます。早川昭二氏亡きあと、新編集長の人選を進めていきます。編集委員一同、多くの読者、全り演の仲間に支えられながら、一層の努力をしていきたい。

☆早川夫人の大いの子氏から、「お別れ特集」に感謝の電話あり、早川さんの遺品を整理してわかったこと、それは、出生地は東品川ではなく、南品川であり、少年時代の大半は千葉県幕張であったとのこと。

☆ようやく、梶さんが苦勞し

てまとめた「文化行政アンケート」と石垣さんの「デジタル劇団入門2」が登場できたことで、ホッとしました。(境野)

〔原稿の送付について〕

・次号(11月号)の締切は9月20日です。戯曲などは作品ができたときにすぐ送ってください。また、劇評なども各劇団で依頼して上演が終わり次第送ってください。

- ①戯曲は、境野修次または、栗原省へ。
- ②劇団通信および舞台写真は、〒547-0027 大阪市平野区喜連5-1-45 株式会社「演劇会議」編集部 担当者 石田章 TEL 06(6707)3833 FAX 06(6799)3833
- ③それ以外の原稿は、東会議は東京連絡所 境野 修次 西会議は大阪連絡所 赤松比洋子

栗原 省  
〒643-0111  
和歌山県有田郡吉備町庄684-32  
TEL 0737-52-5963  
FAX 0737-52-6099

境野 修次  
〒272-0136  
千葉県市川市新浜1-23-5-103  
TEL&FAX 047-356-7217

(職場) 〒136-0073  
東京都江東区北砂1-17-4  
ネットワークゆめ工房  
TEL 03-3644-6773  
FAX 03-3644-8768

赤松比洋子  
〒663-8141  
兵庫県西宮市高須町1-1-11-859  
TEL&FAX 0798-45-3307

演劇会議 106号 2001年7月9日発行 定 価 700円 (送料240円)

編集委員 境野修次 石垣政裕 山崎三郎 栗原 省 赤松比洋子 熊本幸男  
発行所 〒211-0052 神奈川県川崎市幸区古市場2-109 京浜協同劇団  
TEL/044-511-4951 FAX/044-533-6694

誌代振込先 (郵便振替) 口座番号00200-4-78639  
全日本リアリズム演劇会議事務局(〒211-0025 神奈川県川崎市幸区古市場2-109 京浜協同劇団・城谷護)